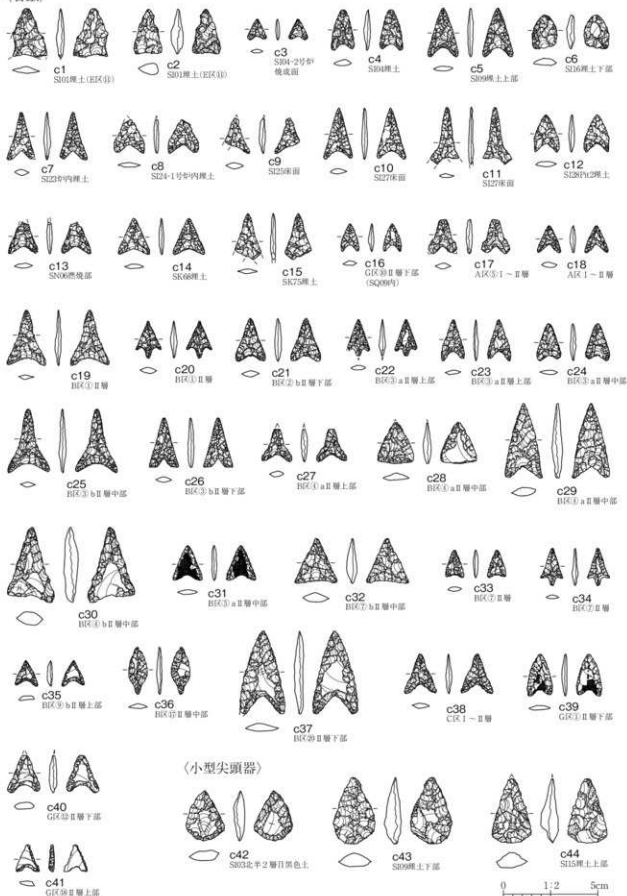
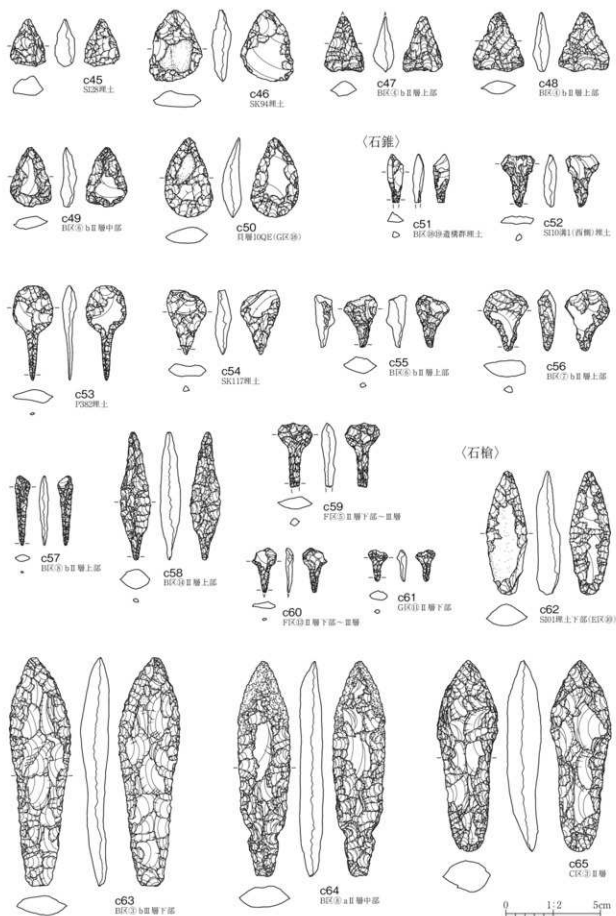


〈石鏃〉



第169圖 石器・石製品(1)

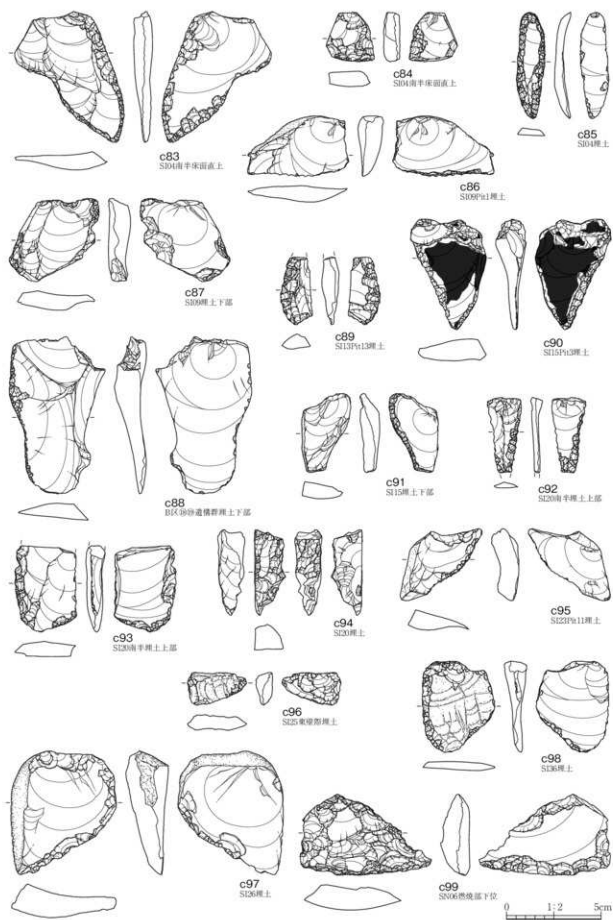


第170図 石器・石製品(2)

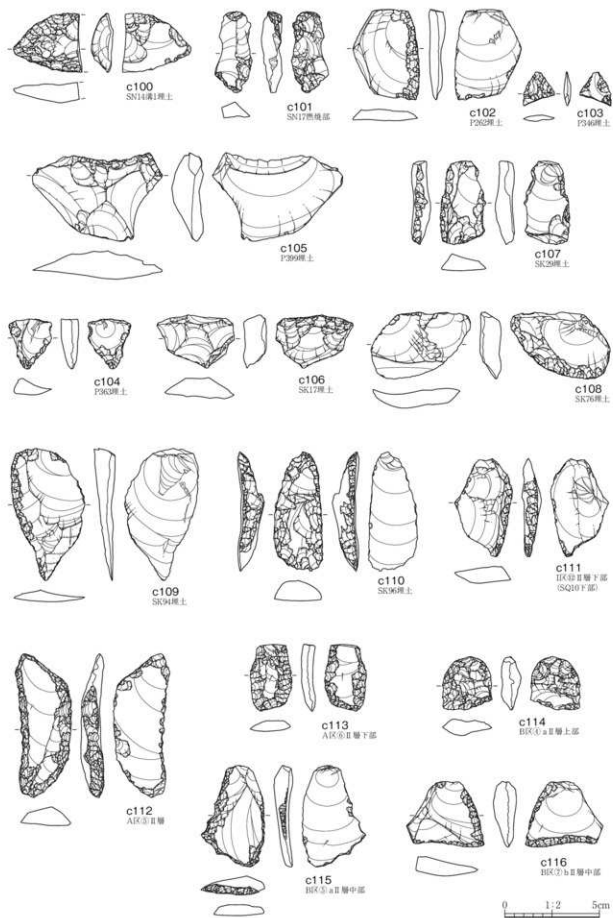
〈石器〉



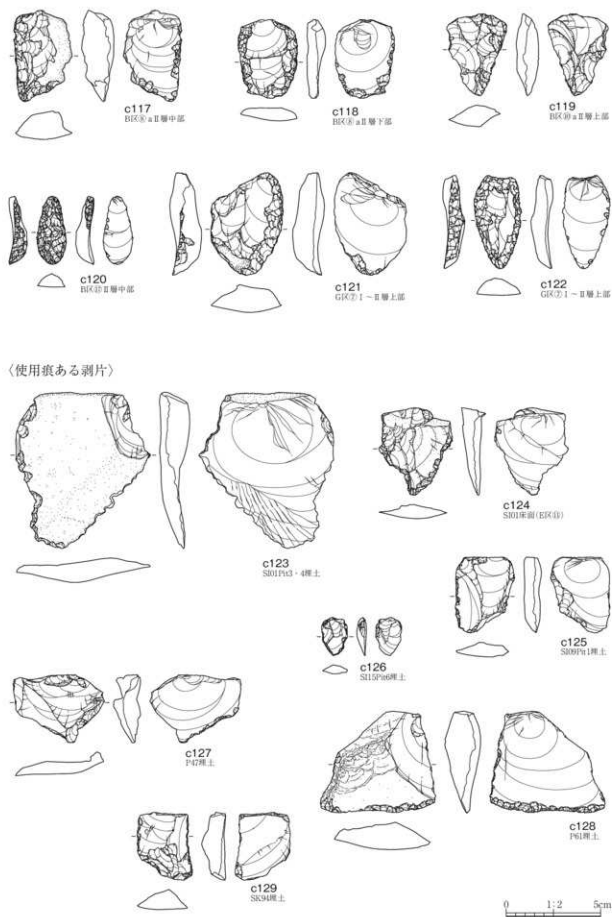
第171図 石器・石製品(3)



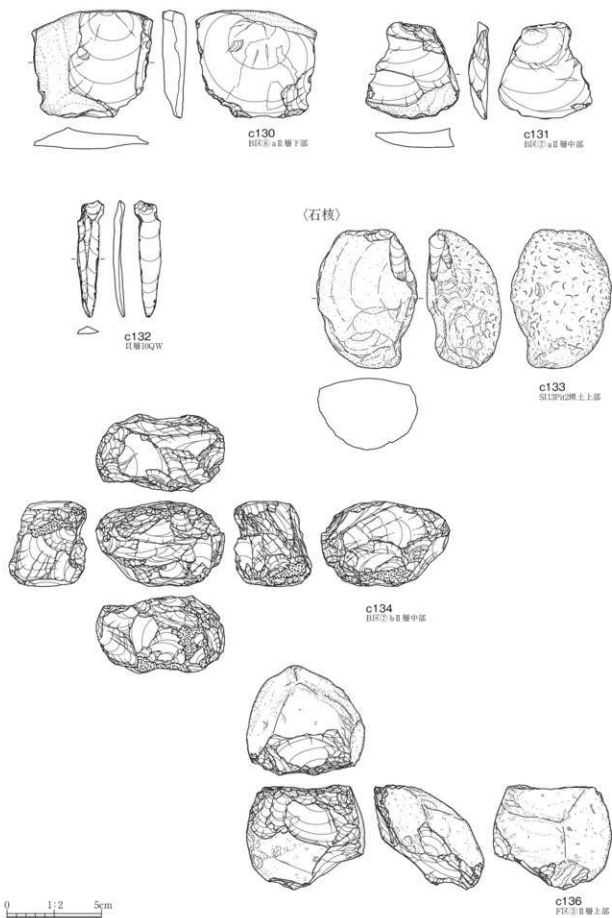
第172図 石器・石製品(4)



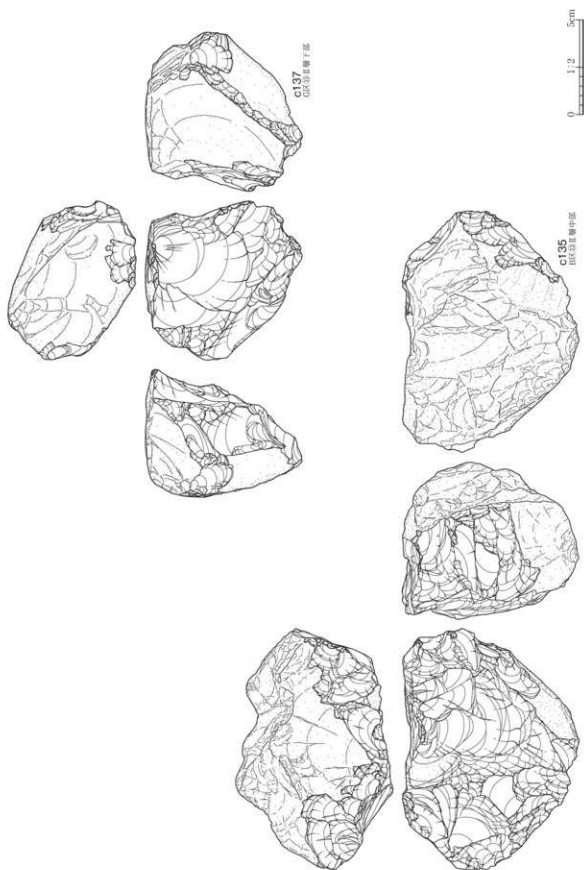
第173図 石器・石製品 (5)



第174図 石器・石製品(6)

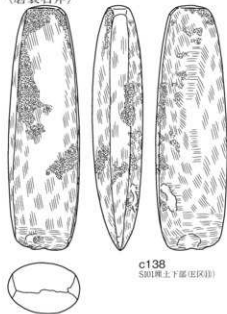


第175図 石器・石製品 (7)

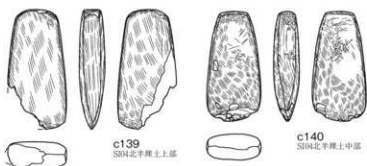


第176図 石器・石製品 (8)

〈磨製石斧〉

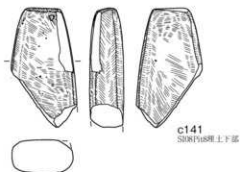


c138
S01麻上下部(虫区II)



c139
S04北半麻土上基

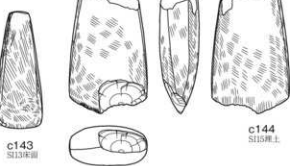
c140
S04北半麻土中基



c141
S01南半麻土下部

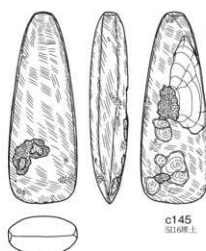


c142
II区砂虫横野西半麻土下部



c143
S13麻面

c144
S15麻上



c145
S16麻上

c146
S23麻面

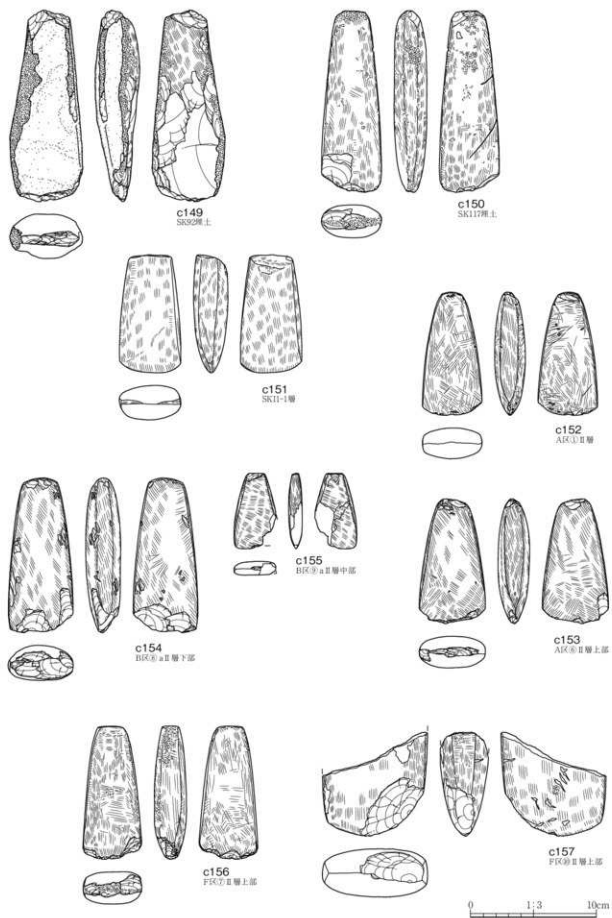


c147
S23麻面

c148
S09麻横証

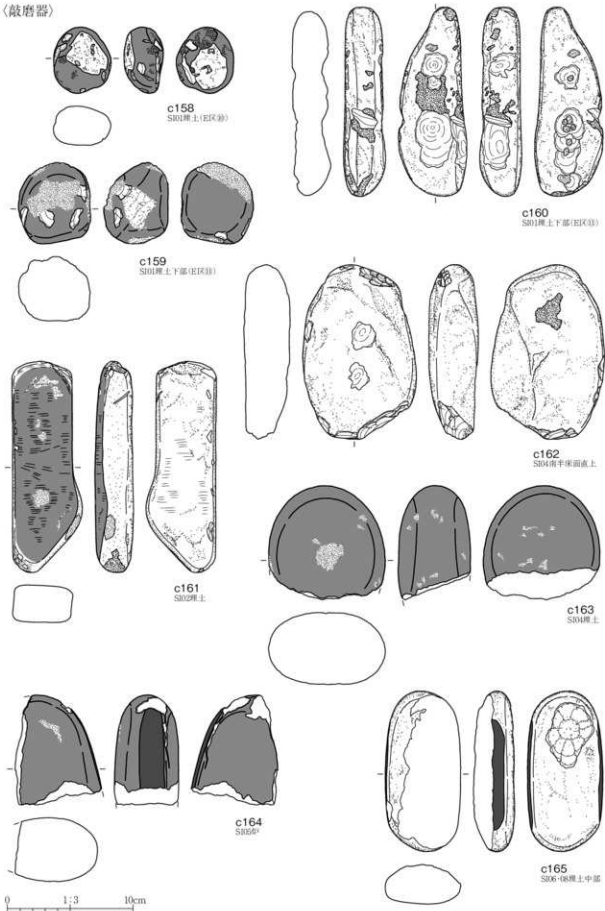


第177図 石器・石製品(9)

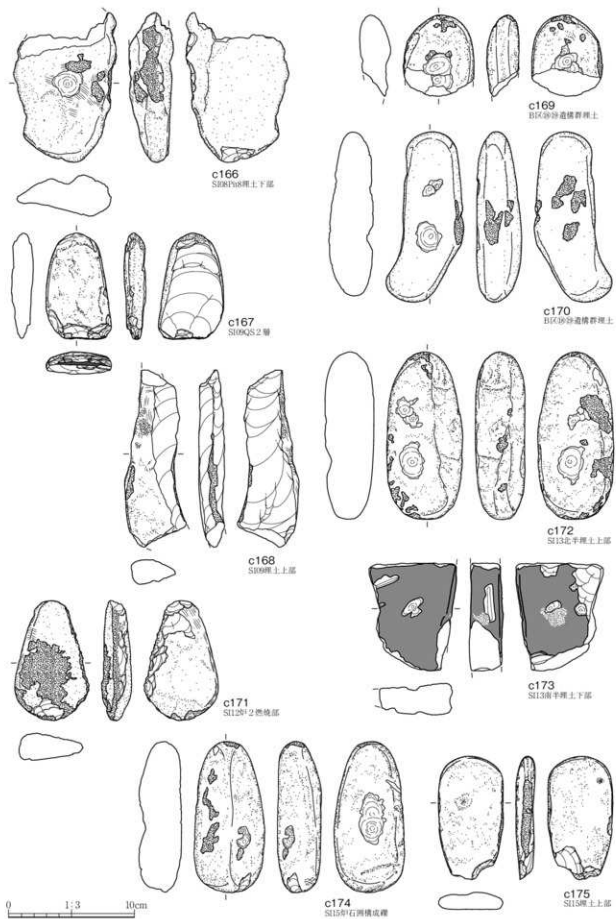


第178図 石器・石製品 (10)

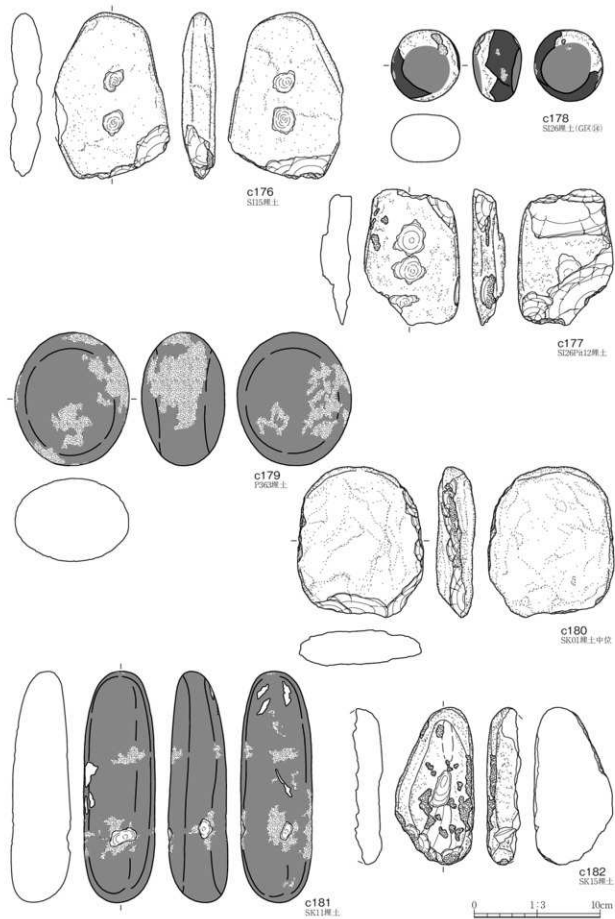
〈敲磨器〉



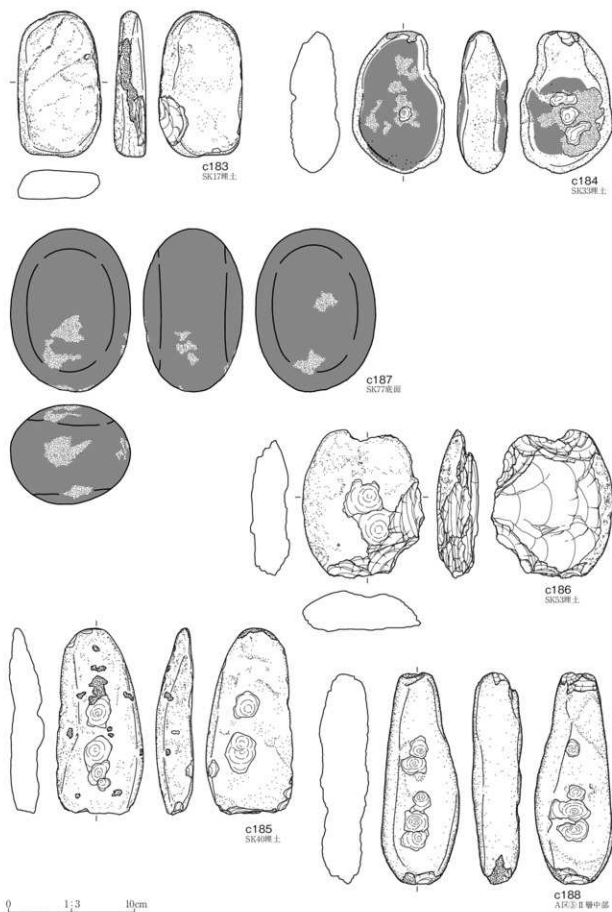
第179図 石器・石製品 (11)



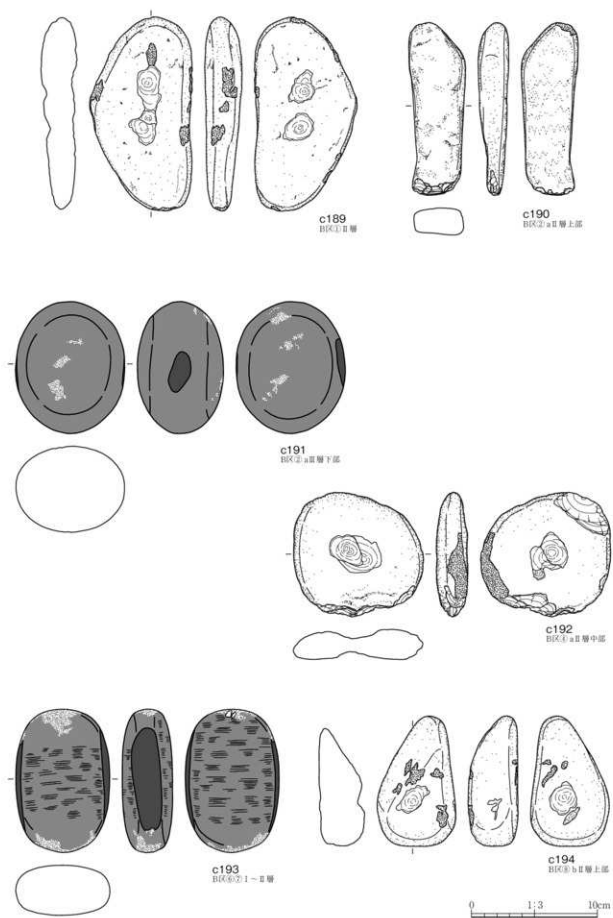
第180図 石器・石製品 (12)



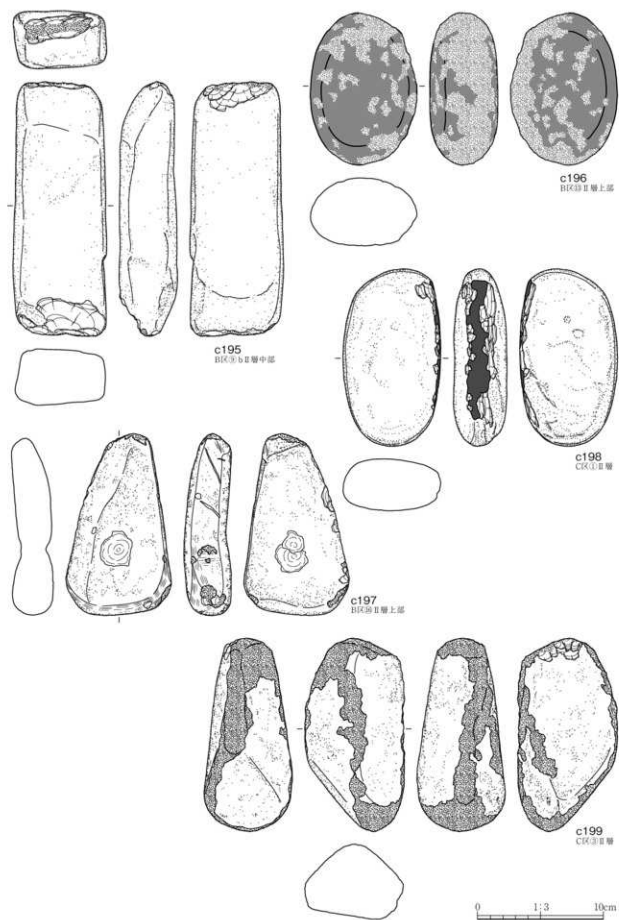
第181図 石器・石製品 (13)



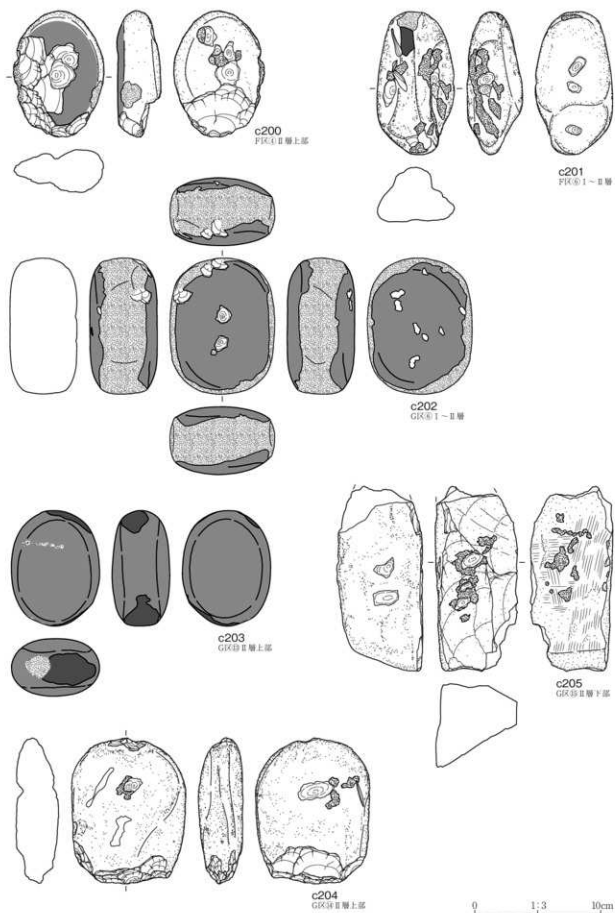
第182図 石器・石製品 (14)



第183図 石器・石製品 (15)

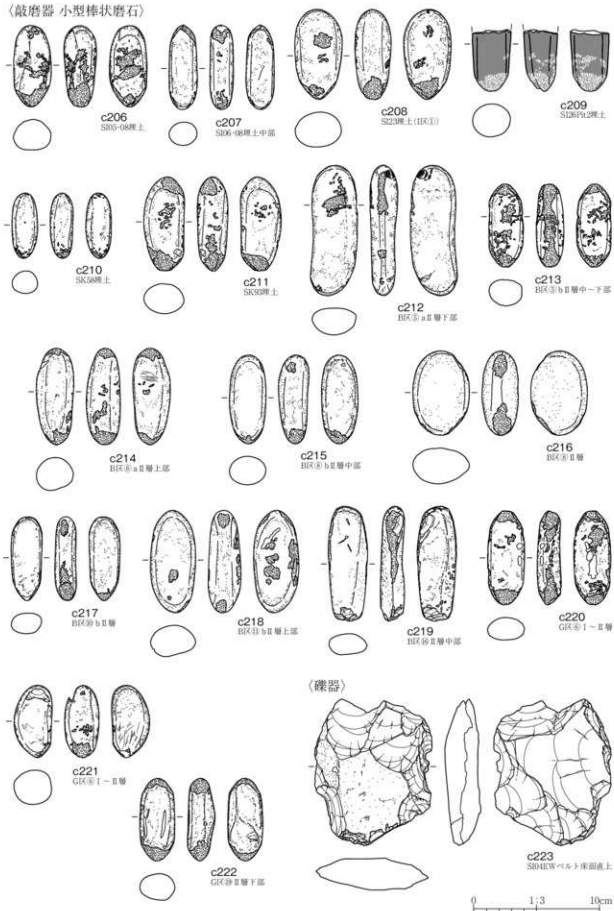


第184図 石器・石製品 (16)

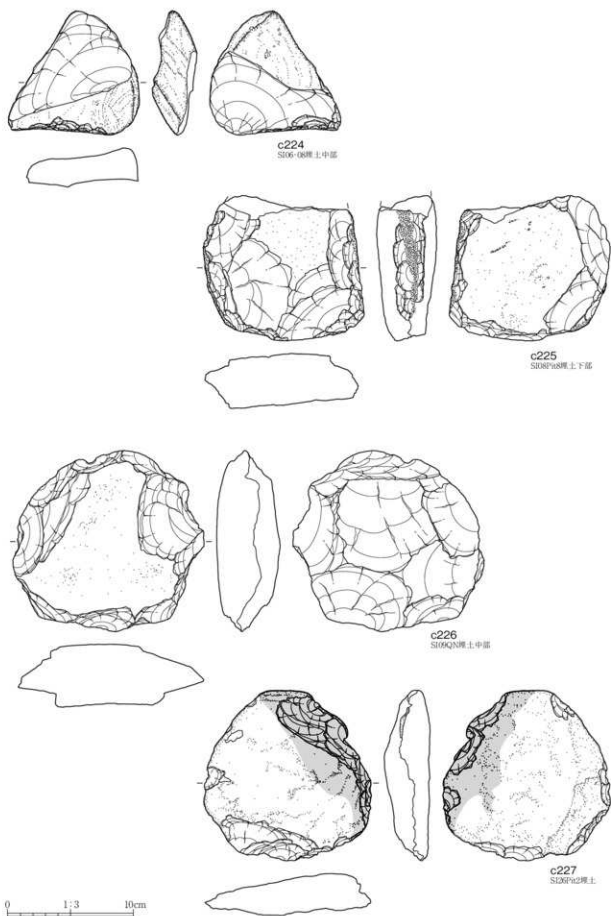


第185図 石器・石製品 (17)

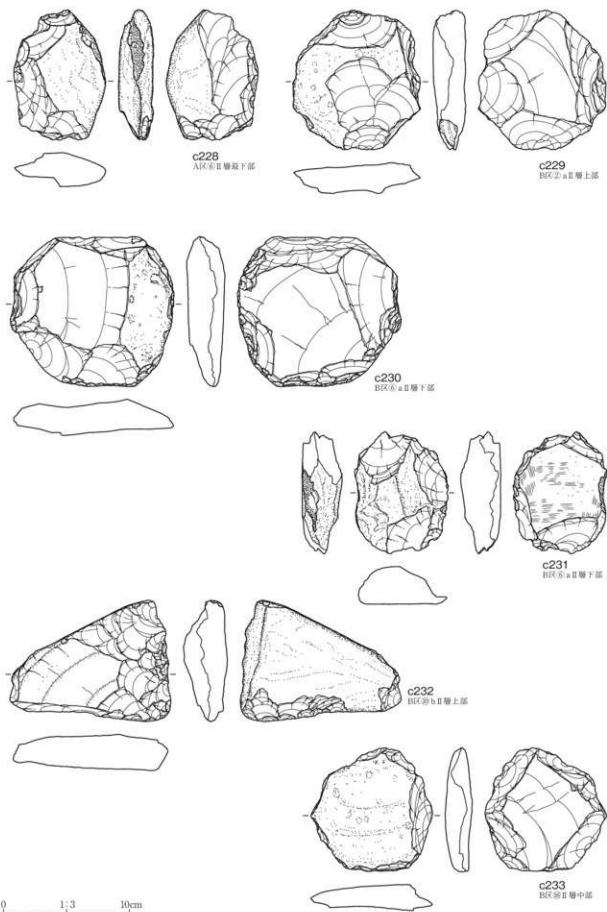
〈敲磨器 小型棒状磨石〉



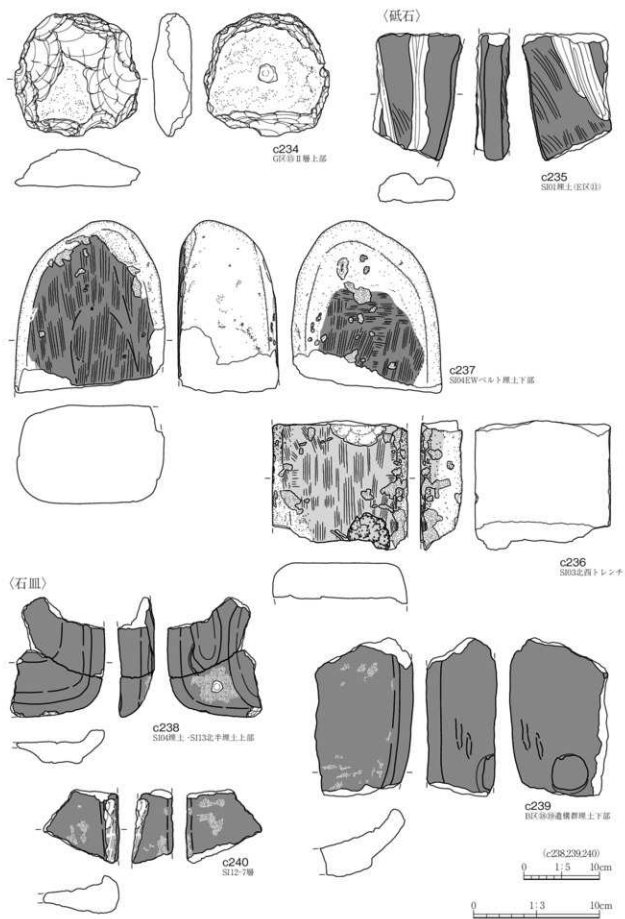
第186図 石器・石製品 (18)



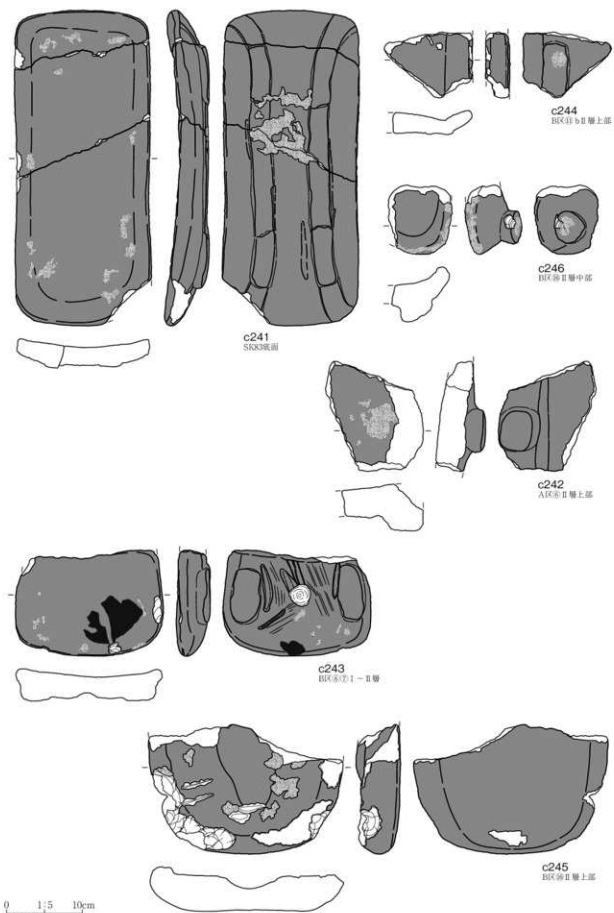
第187図 石器・石製品 (19)



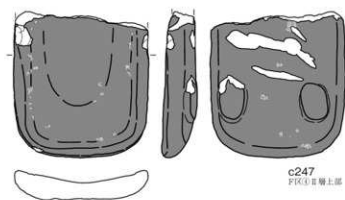
第188図 石器・石製品 (20)



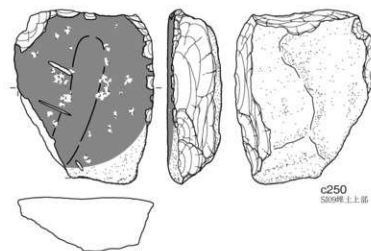
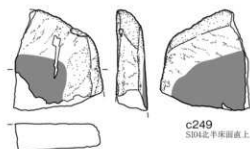
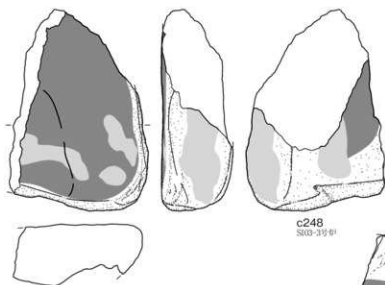
第189図 石器・石製品 (21)



第190図 石器・石製品 (22)

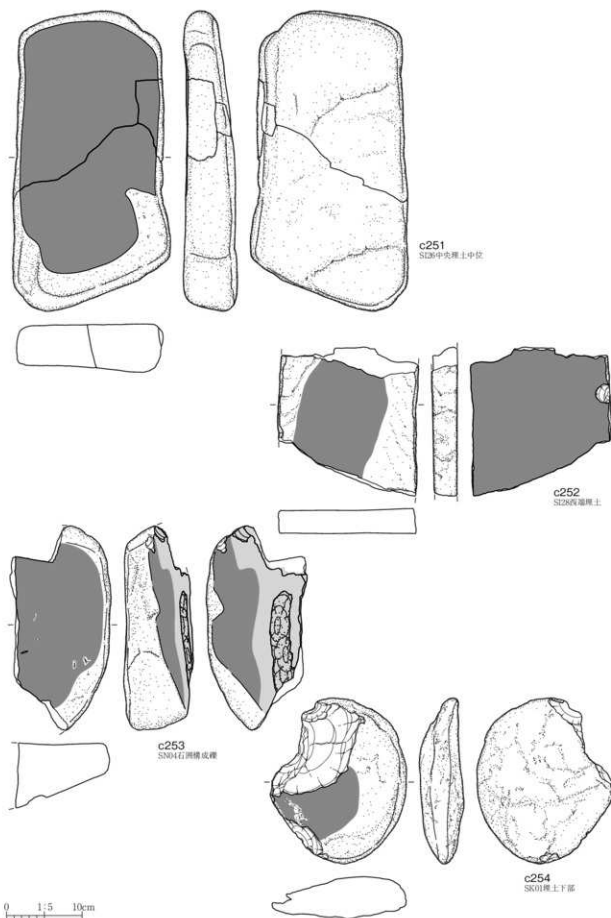


〈台石〉

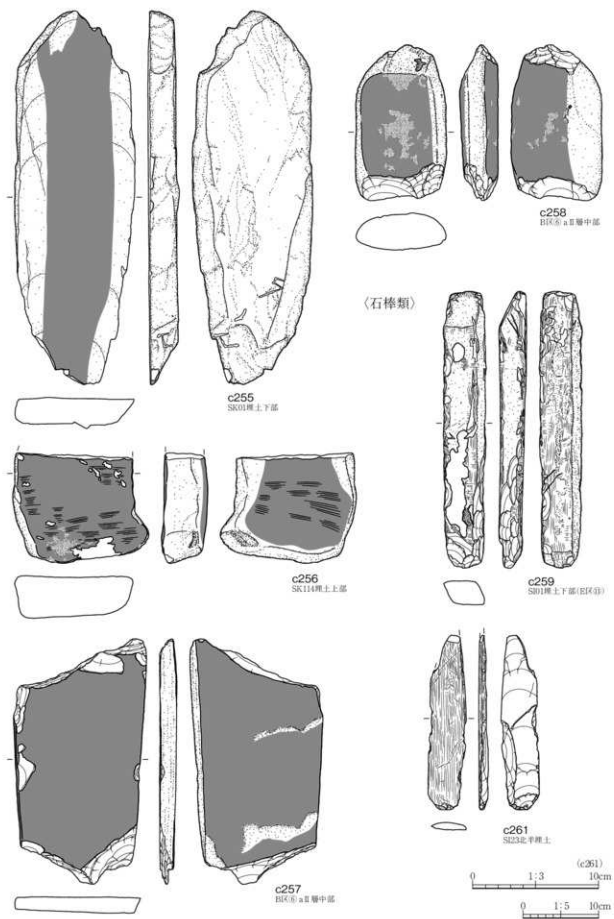


0 1:5 10cm

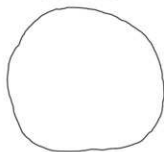
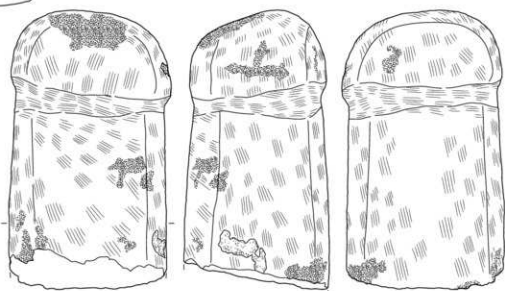
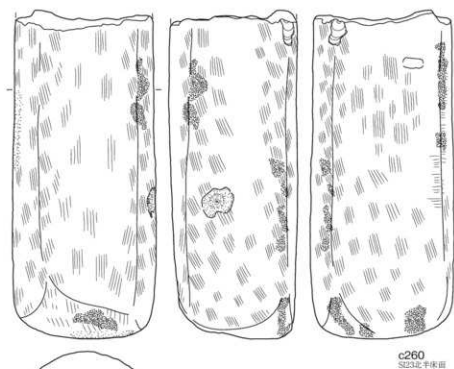
第191図 石器・石製品 (23)



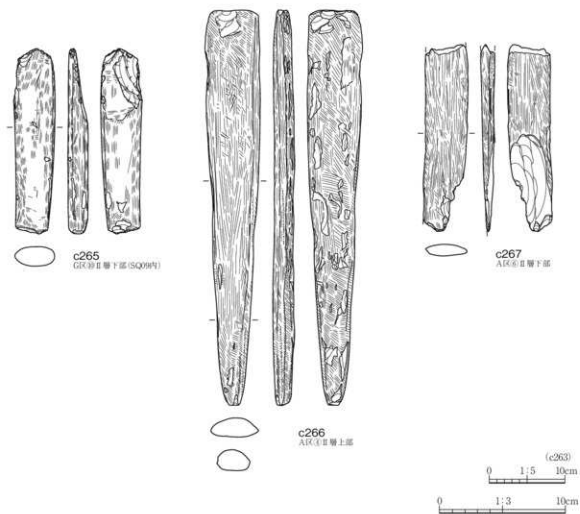
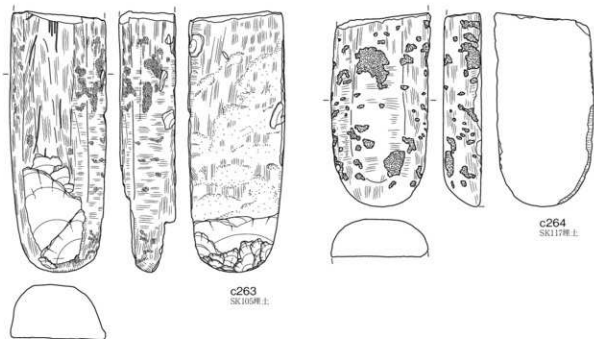
第192図 石器・石製品 (24)



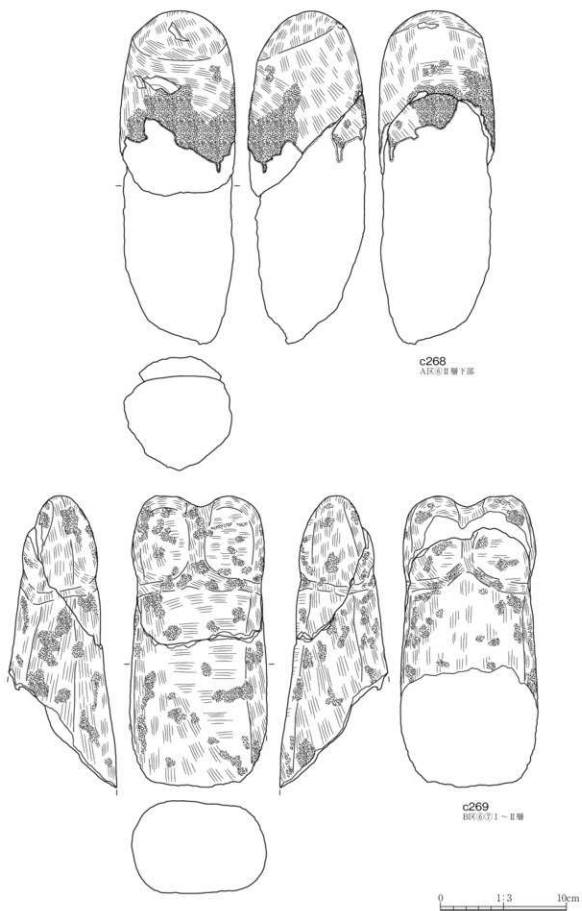
第193図 石器・石製品 (25)



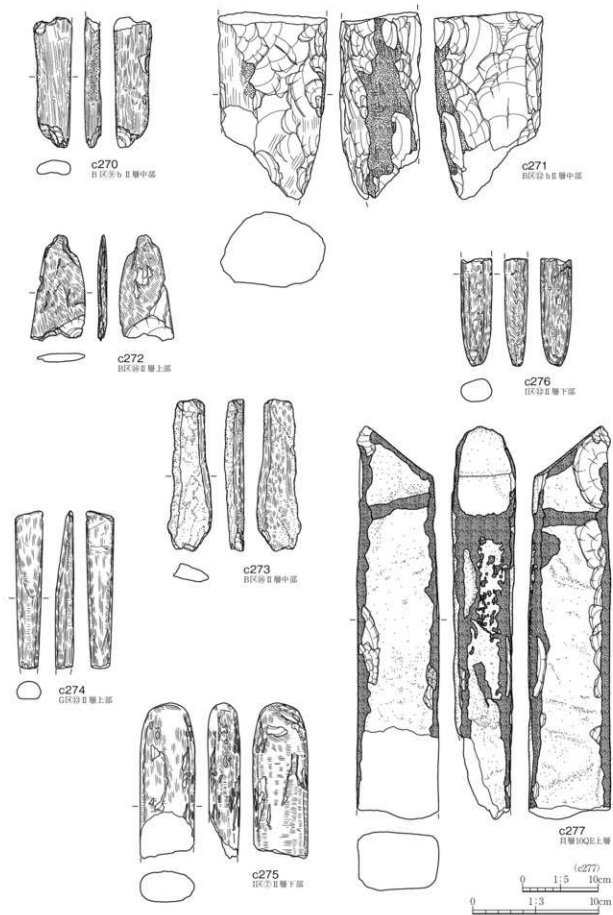
第194図 石器・石製品 (26)



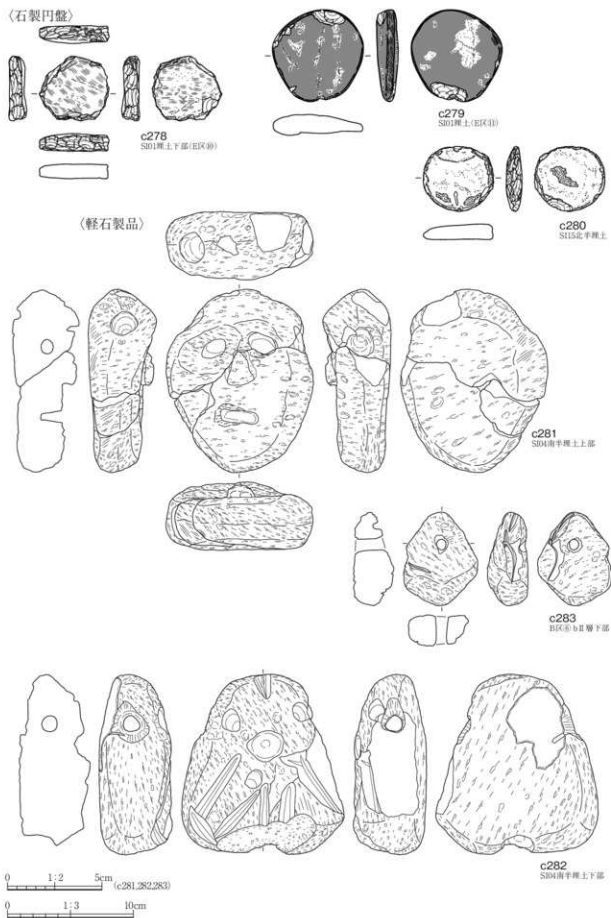
第195図 石器・石製品 (27)



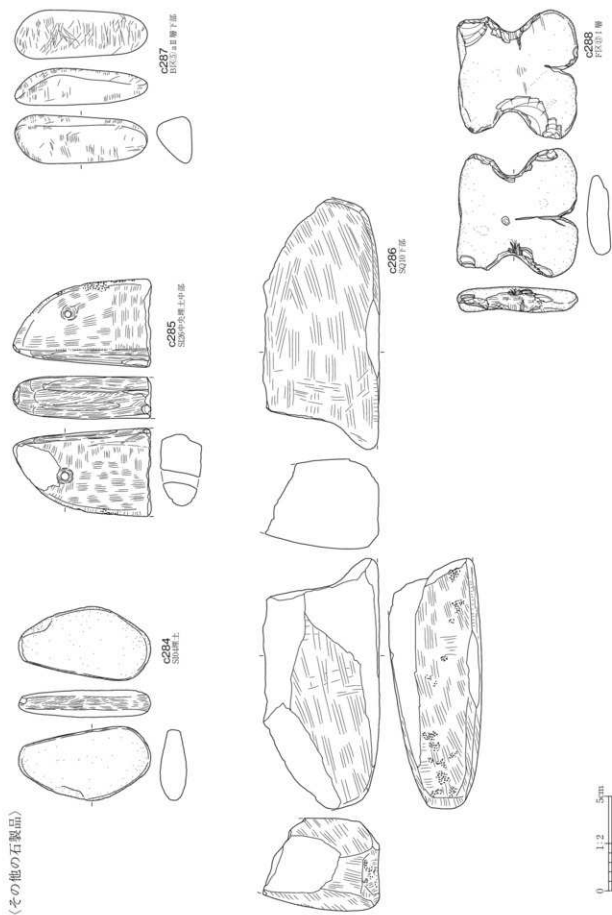
第196図 石器・石製品 (28)



第197図 石器・石製品 (29)



第198図 石器・石製品 (30)



第199図 石器・石製品 (31)

第20表 石器・石製品観察表

() 残存値

No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
e1	S01埋土(E区①)	石鏝	凹基無茎 両翼欠損	(2.5)	(1.7)	0.4	1.4	頁岩,北上山地,古生代	B0279
e2	S01埋土(E区①)	石鏝	平基無茎 素材割片打点磨残る	2.3	1.4	0.6	1.7	メノウ,北上山地,古生代	B0280
e3	S04-2号印 模成面	石鏝	凹基無茎	1.1	0.9	0.2	0.1	燧灰岩,北上山地,古生代	B0277
e4	S04埋土	石鏝	凹基無茎	2.1	1.2	0.3	0.6	頁岩,北上山地,古生代	B0274
e5	S09埋土上部	石鏝	凹基無茎	2.5	1.5	0.2	0.8	頁岩,北上山地,古生代	B0235
e6	S16埋土下部	石鏝	平基無茎	1.7	1.2	0.3	0.9	メノウ,北上山地,古生代	B0250
e7	S23埋土内埋土	石鏝	凹基無茎 基部一翼欠損	2.5	1.5	0.4	0.7	頁岩,北上山地,古生代	B3081
e8	S24-1号舟内 埋土	石鏝	凹基無茎 基部左右不对称 先端欠損	(1.8)	1.1	0.2	0.6	黒曜石,産地不明	B3071
e9	S25床面	石鏝	凹基無茎 先端・基部一翼欠損	1.8	(1.4)	0.3	0.4	頁岩,北上山地,古生代	B3086
e10	S27床面	石鏝	凹基無茎 基部付着物	2.7	1.5	0.3	0.8	頁岩,北上山地,古生代	B3078
e11	S27床面	石鏝	凹基無茎 基部一翼欠損	3.0	1.5	0.3	0.6	瑠璃頁岩,北上山地,古生代	B3246
e12	S28埋土	石鏝	凹基無茎	1.9	1.3	0.3	0.5	頁岩,北上山地,古生代	B3079
e13	S306燧地部	石鏝	凹基無茎 先端欠損 両面黒色付着物	(1.5)	1.5	0.2	0.5	頁岩,北上山地,古生代	B0162
e14	SK88埋土	石鏝	凹基無茎	1.9	1.7	0.3	0.5	赤色頁岩,北上山地,古生代	B3085
e15	SK75埋土	石鏝	凹基無茎 基部両翼欠損	(2.4)	(1.4)	0.3	0.6	赤色頁岩,北上山地,古生代	B3093
e16	G区②Ⅱ層下部 (SK99内)	石鏝	凹基無茎	1.4	0.9	0.3	0.2	頁岩,北上山地,古生代	B3058
e17	A区③Ⅰ～Ⅱ層	石鏝	凹基無茎 一翼欠損 透明度低	(1.7)	1.4	0.3	0.6	黒曜石,産地不明	B0023
e18	A区Ⅰ～Ⅱ層	石鏝	凹基無茎	1.4	1.1	0.2	0.3	頁岩,北上山地,古生代	B0034
e19	B区①Ⅱ層	石鏝	凹基無茎	2.8	2.0	0.2	0.9	頁岩,北上山地,古生代	B0046
e20	B区①Ⅱ層	石鏝	凹基有茎	1.9	1.3	0.2	0.4	頁岩,北上山地,古生代	B0163
e21	B区②bⅡ層下部	石鏝	凹基無茎 透明度高	2.2	1.5	0.3	0.8	黒曜石,産地不明	B0171
e22	B区②aⅡ層上部	石鏝	凹基有茎	1.9	1.1	0.3	0.4	頁岩,北上山地,古生代	B0039
e23	B区②aⅡ層上部	石鏝	凹基無茎	2.1	1.2	0.2	0.4	頁岩,北上山地,古生代	B0061
e24	B区②aⅡ層中部	石鏝	凹基無茎 透明度高	1.9	1.2	0.2	0.4	黒曜石,産地不明	B0068
e25	B区②bⅡ層中部	石鏝	凹基無茎	3.3	2.1	0.3	1.1	頁岩,北上山地,古生代	B0184
e26	B区②bⅡ層下部	石鏝	凹基無茎	2.6	1.5	0.2	0.8	頁岩,北上山地,古生代	B0192
e27	B区②aⅡ層上部	石鏝	凹基無茎 先端欠損 透明度低	(1.6)	1.5	0.3	0.5	黒曜石,産地不明	B0077
e28	B区②aⅡ層中部	石鏝	平基無茎	2.2	1.8	0.3	1.3	頁岩,北上山地,古生代	B0078
e29	B区②aⅡ層中部	石鏝	凹基無茎 一翼欠損	3.9	(1.9)	0.5	2.8	頁岩,北上山地,古生代	B0085
e30	B区②bⅡ層中部	石鏝	凹基無茎 基部一翼欠損	3.8	(2.4)	0.8	4.6	頁岩,北上山地,古生代	B0110
e31	B区②aⅡ層中部	石鏝	凹基無茎 両面黒色付着物	1.8	1.5	0.2	0.6	頁岩,北上山地,古生代	B0097
e32	B区②bⅡ層中部	石鏝	平基無茎	2.3	2.1	0.5	1.8	頁岩,北上山地,古生代	B0132
e33	B区②Ⅱ層	石鏝	凹基無茎 透明度高	1.4	0.9	0.2	0.2	黒曜石,産地不明	B0040
e34	B区②Ⅱ層	石鏝	平基有茎	1.9	1.1	0.3	0.3	頁岩,北上山地,古生代	B0041
e35	B区②bⅡ層上部	石鏝	凹基無茎	1.2	1.1	0.2	0.3	頁岩,北上山地,古生代	B0125
e36	B区②Ⅱ層中部	石鏝	凸基有茎	2.4	0.9	0.2	0.5	赤色頁岩,北上山地,古生代	B0169
e37	B区②Ⅱ層下部	石鏝	凹基無茎	4.3	2.3	0.4	3.4	頁岩,北上山地,古生代	B0243
e38	C区Ⅰ～Ⅱ層	石鏝	凹基無茎 透明度高	2.0	1.6	0.3	0.5	黒曜石,産地不明	B0048

4 縄文時代の遺物

() 残存値

No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
e29	G区①Ⅱ層下部	石鏝	凹基無茎 基部付着物	22	1.4	0.3	0.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B3002
e40	G区①Ⅱ層下部	石鏝	凹基無茎 先端欠損 両面素材の跡	(19)	1.7	0.4	1.0	頁岩, 北上山地, 古生代	B3001
e41	G区②Ⅱ層上部	石鏝	凹基無茎 柄縁・基部片面加工 木製品	1.4	1.3	0.3	0.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B3025
e42	S03北平2層目黒色土	小型尖頭器	凹基 片面素材剥離面残存	2.6	2.0	0.5	2.7	頁岩, 北上山地, 古生代	B0291
e43	S09埋土下部	小型尖頭器	凹基	3.5	2.1	0.8	5.2	頁岩, 北上山地, 古生代	B0296
e44	S115埋土上部	小型尖頭器	平基	3.3	2.0	0.9	4.1	頁岩, 北上山地, 古生代	B0297
e45	S128埋土	小型尖頭器	平基	2.5	1.9	1.1	4.2	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B3128
e46	SK94埋土	小型尖頭器	片面素材剥離面残存	3.5	2.9	1.0	8.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B3130
e47	B区④bⅡ層上部	小型尖頭器	平基	2.8	2.0	1.0	4.2	頁岩, 北上山地, 古生代	B0292
e48	B区④bⅡ層上部	小型尖頭器	平基	3.0	2.6	0.8	5.2	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B0293
e49	B区⑥bⅡ層中部	小型尖頭器	平基有茎 基部欠損	(31)	2.1	0.8	4.1	凝灰岩, 北上山地, 古生代	B0294
e50	貝類10QE (G区③)	小型尖頭器	凹基 左右不对称	4.2	2.6	1.0	8.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B3126
e51	B区③埋土遺構群 埋土	石鏝	棒状 腰部先端欠損	(25)	0.8	0.5	0.5	凝灰岩, 大船渡層群, 中生代白 雲岩	B0620
e52	S110溝1(西側) 埋土	石鏝	柄部あり 腰部縮減	2.7	1.7	0.6	2.1	頁岩, 北上山地, 古生代	B0283
e53	P382埋土	石鏝	円形柄部 棒状腰部	5.0	2.1	0.7	4.0	頁岩, 北上山地, 古生代	B3121
e54	SK117埋土	石鏝	尖頭器状	3.4	2.1	0.9	3.6	凝灰岩, 北上山地, 古生代	B3122
e55	B区⑥bⅡ層上部	石鏝	柄部あり 腰部先端欠損	(26)	1.5	0.9	3.2	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B0310
e56	B区⑦bⅡ層上部	石鏝	柄部あり 腰部先端縮減	3.2	2.3	0.8	5.5	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B0305
e57	B区⑧bⅡ層上部	石鏝	棒状	3.6	0.8	0.4	0.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0306
e58	B区⑨Ⅱ層上部	石鏝	棒状 両端腰部か	6.7	1.5	1.0	7.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B0312
e59	F区④Ⅱ層下部~ Ⅲ層	石鏝	柄部あり 腰部先端欠損	(25)	1.4	0.2	0.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0317
e60	F区④Ⅱ層下部~ Ⅲ層	石鏝	柄部あり 小型	3.3	1.8	0.7	2.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0316
e61	G区①Ⅱ層下部	石鏝	小型石鏝 先端摩耗	1.6	1.0	0.5	0.4	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B3116
e62	S01埋土下部 (E区②)	石槍	小型柳葉形	6.5	2.1	1.1	15.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B0302
e63	B区③bⅢ層下部	石槍	倒先形 基部片面黒色付着物	13.2	0.2	1.5	49.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0301
e64	B区③aⅡ層中部	石槍	柳葉形 基部両側縁抉り 先端部表面 貫孔顕著	11.4	2.7	1.1	41.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0299
e65	C区③Ⅱ層	石槍	倒先形 中央部片面黒色付着物痕跡	10.1	1.6	1.7	44.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0300
e66	S04北平埋土上部	石匙	斜位型 全周片面二次加工	4.3	4.0	0.7	9.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0331
e67	S05①08埋土中部	石匙	縦型 柄縁片面二次加工 先端欠損	(58)	(27)	0.7	7.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0335
e68	S00東照原床面 直上	石匙	斜位型 全周片面二次加工	(64)	(22)	0.6	9.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0337
e69	B区⑨埋土遺構群埋土 下部	石匙	縦型 松原型石匙	6.1	2.1	0.7	8.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0339
e70	S03燃焼部	石匙	斜位型 刃部欠損	(33)	(34)	1.0	11.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0319
e71	SK05埋土上部	石匙	縦型 全周両面二次加工	6.3	4.2	1.4	38.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0323
e72	A区④Ⅱ層下部	石匙	縦型 全周両面二次加工	4.5	2.0	0.6	6.0	頁岩, 北上山地, 古生代	B0320
e73	B区②aⅡ層上部	石匙	斜位型 片面素材剥離面残存	5.2	4.5	0.7	10.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0324
e74	B区②aⅡ層中部	石匙	斜位型 1線両面二次加工	6.8	3.7	0.8	17.7	頁岩, 北上山地, 古生代	B0336
e75	B区②aⅡ層下部	石匙	縦型 刃部平面円形 一部両面二次 加工	5.2	3.8	1.0	20.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0338
e76	B区②bⅡ層下部	石匙	縦型 全周両面二次加工	3.7	4.4	0.8	10.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0333

() 残存値

No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
e77	C区④Ⅱ層下部	石匙	縦型 横面側二次加工二重バテナイ	7.7	2.3	0.6	13.0	頁岩, 北上山地, 古生代	B0322
e78	B区⑥⑦Ⅰ～Ⅱ層	両縁割片	両縁割離痕 縦面残存 透明度低	2.3	2.0	0.8	4.5	黒曜石, 産地不明	B0711
e79	B区⑥⑦Ⅱ層中部	両縁割片	両縁割離痕 縦面残存 透明度高	2.4	1.6	0.6	2.2	黒曜石, 産地不明	B0713
e80	SD4P50埋土	不定形石器	1縁片面二次加工	3.6	2.9	0.7	7.7	頁岩, 北上山地, 古生代	B0825
e81	SD4北半床面直上	不定形石器	1縁片面・1縁片面二次加工 クワシ状	6.1	4.7	1.4	27.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0543
e82	SD4北半埋土上部	不定形石器	全周両面二次加工	5.0	5.2	1.3	28.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0539
e83	SD4南半床面直上	不定形石器	全周両面二次加工 尖頭部作出	7.5	4.6	1.0	24.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B0541
e84	SD4南半床面直上	不定形石器	1縁片面二次加工 一部欠損	3.0	2.5	0.8	7.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0538
e85	SD4埋土	不定形石器	全周片面二次加工 小型スクレイパー	5.5	1.5	0.5	4.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0615
e86	SD09P1埋土	不定形石器	1縁片面二次加工	5.5	3.3	1.2	18.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0573
e87	SD09埋土下部	不定形石器	1縁片面二次加工 鋸歯縁状	5.6	3.7	1.1	20.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0565
e88	B区⑬9淨遺構群埋土下部	不定形石器	1縁片面二次加工	8.2	4.9	1.6	41.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0575
e89	SI13P13埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 破損品	3.5	1.6	0.8	4.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B0641
e90	SI15P3埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 削器 両面黒色付着物	6.1	4.0	1.5	22.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0634
e91	SI15埋土下部	不定形石器	1縁片面二次加工	4.5	2.4	1.0	8.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0632
e92	SI20南半埋土上部	不定形石器	2縁片面二次加工 尖頭部状	3.9	1.7	0.5	2.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0637
e93	SI20南半埋土上部	不定形石器	2縁片面二次加工	4.4	3.2	0.9	17.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0638
e94	SI20埋土	不定形石器	2縁片面二次加工 鋸歯縁状	4.4	1.6	1.3	10.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0644
e95	SI23P11埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 打面・側縁素材 縦面残存	5.6	2.8	1.1	11.6	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B3290
e96	SI25東階埋土	不定形石器	2縁片面二次加工 横長割片素材	3.1	1.8	0.9	4.9	玉髓, 北上山地, 中生代	B3196
e97	SI26埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 打面・側縁素材 縦面残存	7.4	5.5	2.2	62.4	砂岩, 原山地層, 中生代白亜紀	B3243
e98	SI26埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 1縁微細割離痕	4.8	3.8	1.2	15.1	頁岩, 北上山地, 古生代	B3165
e99	SN06熱境部下位	不定形石器	2縁片面二次加工 尖頭部作出	7.1	4.2	1.7	37.1	頁岩, 北上山地, 古生代	B0827
e100	SN14構1埋土	不定形石器	2縁片面二次加工 尖頭部作出	3.6	3.0	1.1	12.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0648
e101	SN17熱境部	不定形石器	2縁片面二次加工	4.2	1.8	1.0	7.7	頁岩, 北上山地, 古生代	B0642
e102	P92埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 削器状	4.8	3.4	0.8	14.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B3159
e103	P946埋土	不定形石器	2縁片面・折面片面二次加工 切磨 調整石器	(1.7)	(1.7)	0.3	0.7	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B3111
e104	P963埋土	不定形石器	両片先端側両面二次加工 尖頭部作出	(2.7)	2.3	0.9	4.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B3199
e105	P999埋土	不定形石器	折断面片面二次加工 切磨調整石器	6.2	5.5	1.8	35.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B3219
e106	SK17埋土	不定形石器	1縁片面二次加工	4.1	2.7	1.6	11.9	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B0633
e107	SK29埋土	不定形石器	2縁片面二次加工 削器	4.4	2.4	1.0	10.7	頁岩, 北上山地, 古生代	B3155
e108	SK76埋土	不定形石器	1縁片面二次加工	5.6	3.4	1.2	18.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B3158
e109	SK94埋土	不定形石器	1縁片面二次加工 1縁微細割離痕	7.1	3.7	0.9	16.2	頁岩, 北上山地, 古生代	B3169
e110	SK96埋土	不定形石器	全周片面二次加工 挿器・削器	6.2	2.5	1.2	20.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B3291
e111	I区⑬Ⅱ層下部 (SQ10下部)	不定形石器	1縁片面二次加工 削器 1縁微細 割離痕	5.0	3.0	1.3	11.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B3167
e112	A区⑤Ⅱ層	不定形石器	全周片面二次加工 削器	7.6	3.0	1.0	23.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0374
e113	A区⑥Ⅱ層下部	不定形石器	全周両面二次加工 破損品	(3.5)	2.1	0.5	6.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0383
e114	B区④aⅡ層上部	不定形石器	全周両面二次加工 尖頭部状	3.1	2.7	1.0	7.8	赤色頁岩, 北上山地, 古生代	B0406

() 残存値

No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
c115	B区③aⅡ層中部	不定形石器	3線片面二次加工 鋸歯縁状	5.3	3.3	0.9	12.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0424
c116	B区③bⅡ層中部	不定形石器	2線片面二次加工	4.0	3.9	0.8	12.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0468
c117	B区③aⅡ層中部	不定形石器	2線片面二次加工 削器	5.8	3.6	1.6	23.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0486
c118	B区③aⅡ層中部	不定形石器	2線片面二次加工	4.1	3.1	1.0	11.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B0488
c119	B区③aⅡ層上部	不定形石器	2線片面二次加工 鋸歯縁状	4.3	3.1	1.1	11.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0547
c120	B区③Ⅱ層中部	不定形石器	全面片面二次加工 小型スクレイパー	3.5	1.5	0.8	3.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0499
c121	G区①Ⅰ～Ⅱ層上部	不定形石器	1線片面二次加工 削器 1線微細 網彫痕	5.5	3.8	1.7	30.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B3148
c122	G区①Ⅰ～Ⅱ層上部	不定形石器	2線片面二次加工 削器	4.9	2.5	1.2	11.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B3149
c123	S01P63・4埋土	使用痕ある 刮片	2線微細網彫痕	8.2	7.1	1.9	70.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B0739
c124	S01床面(E区①)	使用痕ある 刮片	全周微細網彫痕	4.6	3.8	1.3	14.2	頁岩, 北上山地, 古生代	B0654
c125	S09P61埋土	使用痕ある 刮片	1線微細網彫痕	4.2	3.0	0.8	10.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0690
c126	S15P6埋土	使用痕ある 刮片	2線微細網彫痕 小型品	1.9	1.3	0.5	0.8	凝灰岩か, 大船渡層部か, 中生 代白亜紀	B0708
c127	P4埋土	使用痕ある 刮片	2線微細網彫痕	4.9	3.5	1.5	13.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0691
c128	P6埋土	使用痕ある 刮片	全周微細網彫痕	7.0	5.6	1.8	43.6	頁岩, 北上山地, 古生代	B0679
c129	SK9埋土	使用痕ある 刮片	2線微細網彫痕 折れ	3.5	3.0	1.3	11.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B3212
c130	B区③aⅡ層下部	使用痕ある 刮片	1線微細網彫痕	6.5	5.8	1.1	51.4	頁岩, 北上山地, 古生代	B0735
c131	B区③aⅡ層中部	使用痕ある 刮片	1線導線顕著	5.0	4.9	0.9	23.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B0736
c132	具層10QW	使用痕ある 刮片	1線微細網彫痕 縦型石匙状 未製 品か	6.0	1.5	0.6	3.2	頁岩, 北上山地, 古生代	B3282
c133	SI3P62埋土上部	石核	円盤平刮片 一部割離 透明度低	7.5	5.1	3.7	169.5	閃曜石, 産地不明	B0717
c134	B区③bⅡ層中部	石核	打面 4面 作業面 5面	6.7	5.0	3.7	157.5	頁岩, 北上山地, 古生代	B0743
c135	B区③Ⅱ層中部	石核	打面 2面 作業面 3面	11.8	10.8	8.2	1063.0	頁岩, 北上山地, 古生代	B0744
c136	F区③Ⅱ層上部	石核	打面 3面 作業面 2面	7.6	4.9	1.4	47.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B0745
c137	G区③Ⅱ層下部	石核	打面 3面 作業面 2面 1線打面調 整割離	8.9	8.5	4.8	437.3	頁岩, 北上山地, 古生代	B3244
c138	S01埋土下部 (E区①)	磨製石斧	乳棒状 刃部先端摩滅	18.9	5.6	3.8	701.6	花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代 白亜紀	B1049
c139	S04北平埋土上部	磨製石斧	定角式 刃部片側欠損	9.4	4.5	2.0	156.6	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1023
c140	S04北平埋土中部	磨製石斧	定角式 刃部先端破損 両面敲打痕 集中	8.6	4.2	2.0	133.9	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1027
c141	S08P6埋土下部	磨製石斧	定角式 刃部欠損	(9.3)	(4.9)	2.6	216.2	アオトラ石? 産地不明	B1037
c142	B区③砂遺構西平 埋土下部	磨製石斧	定角式 基部欠損	(9.9)	5.1	2.6	240.4	閃緑閃緑岩, 北上山地, 中生代 白亜紀	B1033
c143	SI3床面	磨製石斧	小型定角式	9.2	3.7	1.4	84.6	アオトラ石? 産地不明	B1040
c144	SI5埋土	磨製石斧	定角式 刃部片側・基部欠損	(9.8)	6.1	3.0	320.5	閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1046
c145	SI6埋土	磨製石斧	定角式 胴部一部欠損	15.2	5.3	2.9	368.3	閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1041
c146	SE23床面	磨製石斧	定角式 基部欠損	(9.8)	5.5	2.9	247.8	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B4016
c147	SE23床面	磨製石斧	定角式 基部欠損	(8.2)	4.1	2.6	148.6	凝灰閃緑岩, 北上山地, 中 生代白亜紀	B4020
c148	SN06燃焼部	磨製石斧	定角式 基部欠損 刃部若干摩滅	(8.7)	4.7	2.7	203.4	凝灰はるい岩, 北上山地, 中 生代白亜紀	B1014
c149	SK9埋土	磨製石斧	未製品 基部側面縁調整痕 縦線 痕打調整痕 基部欠損	15.1	5.7	3.5	392.5	アイサイト, 原地山層, 中生代 白亜紀	B4024
c150	SK11埋土	磨製石斧	定角式 刃部若干摩滅 基部 側面縁打痕集中	(14.3)	4.4	2.6	301.7	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B4026
c151	SK1-1層	磨製石斧	定角式 刃部若干摩滅 基部破損面 内調整	9.3	4.8	2.7	220.1	凝灰閃緑岩, 北上山地, 中生代 白亜紀	B4019
c152	A区①Ⅱ層	磨製石斧	定角式 刃部若干摩滅	9.7	4.7	2.3	176.1	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1001

() 残存値

No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
c133	A区⑥Ⅱ層上部	磨製石斧	定角式 刃部先端欠損	9.8	5.2	2.4	1866	砂岩, 北上山地, 古生代	B1006
c154	B区②aⅡ層下部	磨製石斧	定角式 刃部欠損	(122)	5.1	2.7	2838	安山岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1013
c155	B区②aⅡ層中部	磨製石斧	小型定角式 刃部片側・基部欠損	5.9	(33)	1.0	34.3	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1031
c156	F区①Ⅱ層上部	磨製石斧	定角式 刃部先端破損一部縁打痕 基部両側縁打痕重畳	10.5	4.6	2.5	2224	アオトク石?, 産地不明	B1044
c157	F区②Ⅱ層上部	磨製石斧	大型定角式石斧刃部磨破片	(8.1)	8.0	3.7	287.4	細粒花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1045
c158	S01埋土(E区④)	磨製石斧	華内礫 側縁敲打面 多面体敲石	5.3	4.6	3.1	107.8	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1455
c159	S01埋土下部 (E区④)	磨製石斧	華内礫 側縁敲打面 多面体敲石	6.2	5.8	5.0	259.6	花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1482
c160	S01埋土下部 (E区④)	磨製石斧	扁平棒状礫 4面凹部 頂端敲打痕	14.9	5.7	3.1	348.7	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1483
c161	S02埋土	磨製石斧	扁平棒状礫 両面凹部アバタ状 側縁敲打痕	16.6	5.5	3.0	500.9	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1250
c162	S04南平床面直上	磨製石斧	扁平棒状礫 両面凹部アバタ状 側縁・頂端敲打痕	13.8	9.0	3.6	675.2	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1286
c163	S04埋土	磨製石斧	円礫 平頂面スリ面 片面凹部 破損品	(8.7)	9.0	5.7	676.9	花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1422
c164	S05埋	磨製石斧	扁平礫 平頂面スリ面 側縁敲打痕 破損品	8.6	6.5	4.7	465.7	花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1347
c165	S06・08埋土中部	磨製石斧	扁平礫 側縁スリ面	12.7	6.0	3.0	374.4	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1245
c166	S08埋土下部	磨製石斧	扁平礫 片面凹部 側縁敲打痕	11.9	7.9	3.4	298.8	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1362
c167	S09QS埋	磨製石斧	扁平礫 側縁敲打痕	8.5	5.0	1.4	110.0	砂岩, 北上山地, 古生代	B1432
c168	S09埋土上部	磨製石斧	棒状礫 側縁敲打痕 内湾刃部状	14.0	5.1	2.0	153.1	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1327
c169	B区③砂遺構群埋土	磨製石斧	扁平礫 両面凹部 頂端敲打痕 破損品	6.5	5.7	2.4	111.6	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1352
c170	B区③砂遺構群埋土	磨製石斧	棒状菱角礫 両面凹部	13.6	5.4	3.4	367.0	溶結凝灰岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1360
c171	SI12埋2燃焼部	磨製石斧	扁平礫 片面凹部アバタ状 側縁敲打痕	9.5	5.8	2.4	141.2	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1371
c172	SI13北平埋土上部	磨製石斧	棒状礫 両面凹部 頂端敲打痕	13.2	5.4	4.2	493.2	ヒノコ石, 北上山地, 中生代白亜紀	B1424
c173	SI13南平埋土下部	磨製石斧	扁平礫 両面凹部 側縁敲打痕 破砕 礫利用	8.5	6.8	2.6	171.1	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1449
c174	SI15埋石割溝成溝	磨製石斧	棒状三角礫 3面凹部 頂端敲打痕	11.9	5.3	3.4	325.1	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1444
c175	SI15埋土上部	磨製石斧	扁平礫 側縁敲打痕	9.8	5.0	1.3	114.7	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1373
c176	SI15埋土	磨製石斧	扁平礫 両面凹部 頂端敲打痕	13.1	8.8	2.4	438.3	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1427
c177	SI26埋1埋土	磨製石斧	扁平礫 片面凹部 側縁敲打痕 破損品	(105)	7.4	2.4	243.4	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B4213
c178	SI26埋土(G区④)	磨製石斧	小円礫 平頂面スリ面 側縁敲打痕	5.7	5.4	3.9	166.9	花崗岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4134
c179	P03埋土	磨製石斧	円礫 全面スリ面 側縁敲打痕	10.6	9.0	6.6	894.0	花崗岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4246
c180	SK01埋土中位	磨製石斧	扁平礫 側縁敲打痕	11.7	10.0	3.0	513.2	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1125
c181	SK1埋土	磨製石斧	棒状礫 4面凹部	18.4	5.8	4.5	767.2	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1374
c182	SK15埋土	磨製石斧	扁平礫 片面凹部 破損品	12.4	6.1	2.7	247.7	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1394
c183	SK17埋土	磨製石斧	扁平礫 側縁敲打痕	11.5	6.5	2.2	319.5	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B1430
c184	SK3埋土	磨製石斧	扁平礫 両面凹部アバタ状 平頂面 スリ面	11.2	7.0	3.9	459.4	花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4157
c185	SK40埋土	磨製石斧	扁平礫 両面凹部 頂端敲打痕	14.5	6.7	2.8	388.3	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B4161
c186	SK33埋土	磨製石斧	扁平礫 片面凹部 側縁敲打痕 凹 石から埋設掘出	11.8	9.5	3.2	438.9	砂岩, 原山山層, 中生代白亜紀	B4167
c187	SK77底面	磨製石斧	円礫 平頂面スリ面 側縁敲打痕 風 化進行	12.9	9.5	7.7	1316.9	花崗岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4205
c188	A区⑤Ⅱ層中部	磨製石斧	棒状礫 両面凹部 頂端敲打痕	16.7	6.0	3.8	536.2	礫岩, 北上山地, 中生代	B1136
c189	B区①Ⅱ層	磨製石斧	扁平礫 両面凹部 側縁敲打痕	15.2	8.3	2.8	451.7	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1091
c190	B区②aⅡ層上部	磨製石斧	扁平棒状礫 頂端敲打痕	13.6	4.5	2.2	208.7	アイサイト, 原山山層, 中生代白亜紀	B1120

4 縄文時代の遺物

() 残存値

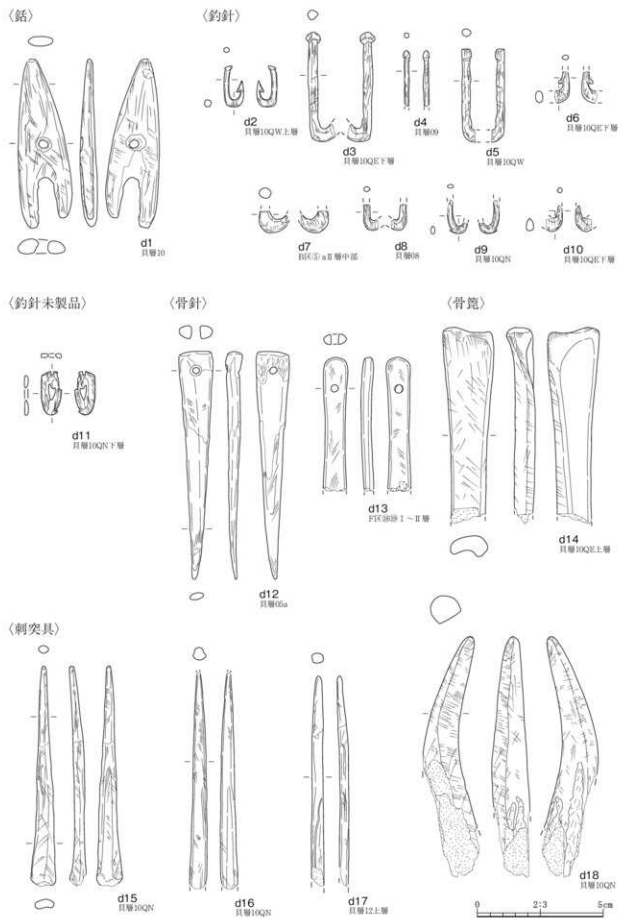
No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
c191	B区②aⅡ層下部	敲密器	円礫 全面スリ面 両面凹部Aバツ状 頸縁敲打痕	104	83	7.8	871.9	炭灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1320
c192	B区④aⅡ層中部	敲密器	扁平礫 両面凹部 頸縁敲打痕	109	96	25	339.3	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1152
c193	B区⑤①Ⅰ~Ⅱ層	敲密器	扁平礫 全面スリ面 頸縁敲打痕 頂端敲打痕	114	74	3.7	579.3	細粒花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1073
c194	B区⑤bⅡ層上部	敲密器	亜角礫 両面凹部	105	64	4.4	309.2	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1178
c195	B区⑤Ⅱ層中部	敲密器	棒状礫 頂端敲打痕	200	76	50	1293.3	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1193
c196	B区⑤Ⅱ層上部	敲密器	扁平円礫 平坦面スリ面 頸縁敲打痕	120	85	4.6	836.2	花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1315
c197	B区⑤Ⅱ層上部	敲密器	扁平礫 両面凹部 頸縁・頂端敲打痕	146	83	40	555.6	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B1246
c198	C区③Ⅱ層	敲密器	扁平礫 頸縁敲打痕	139	79	4.3	714.8	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1109
c199	C区③Ⅱ層	敲密器	亜角礫 頸縁・頂端敲打痕	14.9	80	6.6	1024.3	礫岩, 北上山地, 中生代	B1105
c200	F区④Ⅱ層上部	敲密器	扁平礫 両面凹部 頸縁敲打痕	100	70	3.2	272.5	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B1389
c201	F区④Ⅰ~Ⅱ層	敲密器	三角棒状礫 3面凹部 頸縁敲打痕	109	61	4.3	344.8	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B1392
c202	G区⑥Ⅰ~Ⅱ層	敲密器	扁平円礫 両面凹部 平坦面スリ面 頸縁敲打痕	108	83	5.5	859.7	ヒン岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4130
c203	G区⑥Ⅱ層上部	敲密器	円礫 平坦面スリ面 頸縁敲打痕	91	69	4.6	464.3	ヒン岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4076
c204	G区⑥Ⅱ層上部	敲密器	扁平礫 両面凹部 頸縁敲打痕	11.5	91	3.4	499.1	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B4074
c205	G区⑥Ⅱ層下部	敲密器	棒状角礫 3面凹部 威砕痕利用	141	67	6.2	890.1	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B4111
c206	S105-08埋土	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕 平坦面一部敲打痕集束	64	30	2.5	78.8	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B1302
c207	S106-08埋土中部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	6.6	2.2	1.8	48.1	片麻岩, 北上山地から山西方, 古生代	B1239
c208	S123埋土(Ⅰ区C)	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	7.2	3.7	2.8	1120	砂岩, 北上山地, 古生代	B4228
c209	S126-92埋土	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕 礫面準減被粗面	(47)	29	2.5	599	ヒン岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4133
c210	SK38埋土	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕集束	5.1	20	1.8	28.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B4173
c211	SK30埋土	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	7.4	3.1	2.4	830	ホルンフェルス, 北上山地, 古生代(成成は中生代白亜紀)	B4255
c212	B区⑤aⅡ層下部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕 平坦面一部敲打痕集束	103	37	2.1	131.9	砂岩, 北上山地, 古生代	B1298
c213	B区⑤bⅡ層中~下部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	6.6	2.7	2.2	64.4	砂岩, 北上山地, 古生代	B1164
c214	B区⑤aⅡ層上部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	7.7	29	2.5	102.3	細粒閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1140
c215	B区⑤bⅡ層中部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	7.0	29	2.5	72.9	砂岩, 北上山地, 古生代	B1182
c216	B区⑤Ⅱ層	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	6.7	44	2.8	127.4	ヒン岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1238
c217	B区⑤bⅡ層	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	6.6	2.5	1.6	49.8	頁岩, 北上山地, 古生代	B1309
c218	B区⑤Ⅱ層上部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	8.2	3.6	2.5	114.5	赤粘板状岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1191
c219	B区⑤Ⅱ層中部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	9.0	3.0	1.9	83.4	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1248
c220	G区⑥Ⅰ~Ⅱ層	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	7.4	29	1.8	65.8	砂岩, 北上山地, 古生代	B4136
c221	G区⑥Ⅰ~Ⅱ層	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	5.7	29	2.7	69.3	砂岩, 北上山地, 古生代	B4147
c222	G区⑥Ⅱ層下部	小型棒状磨石	棒状小円礫 頂端敲打痕	6.5	2.3	2.3	61.5	細粒花崗閃緑岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B4058
c223	SI0EW-ベルト床面直上	礫器	頸縁全周敲打痕	11.5	10.5	3.1	337.0	砂岩, 北上山地, 古生代	B1598
c224	SI06-08埋土中部	礫器	頸縁1/3周敲打痕	11.0	10.0	3.7	312.9	頁岩, 北上山地, 古生代	B1577
c225	SI08-98埋土下部	礫器	頸縁全周敲打痕 一部敲打痕 礫面直上	12.5	11.3	4.6	895.1	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1616
c226	SI09-98埋土中部	礫器	頸縁全周敲打痕	15.0	14.4	4.9	1281.3	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1609
c227	SI26-92埋土	礫器	頸縁1/2周敲打痕 被熟痕	13.3	13.2	3.1	683.9	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B4365
c228	A区⑥Ⅱ層最下部	礫器	頸縁1/2周敲打痕 一部敲打痕	10.3	7.3	2.7	240.6	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1334

() 残存値

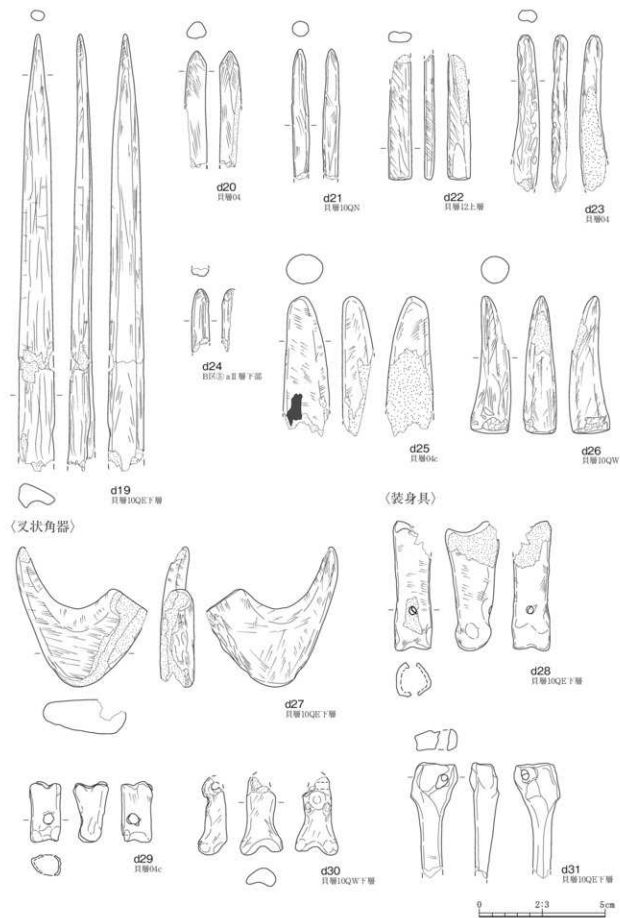
No	出土地点	部種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	原材	登録 番号
c229	B区②aⅡ層上部	礎器	鋼線全周銀打潤滑	113	100	23	3304	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1540
c230	B区②aⅡ層下部	礎器	鋼線全周銀打潤滑	129	120	29	5825	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1548
c231	B区②aⅡ層下部	礎器	鋼線全周銀打潤滑 一部銀打直	96	74	31	2353	砂岩, 北上山地, 古生代	B1302
c232	B区②bⅡ層上部	礎器	鋼線1/2周銀打潤滑	128	94	32	4332	砂岩, 北上山地, 古生代	B1560
c233	B区②bⅡ層中部	礎器	鋼線全周銀打潤滑	96	94	21	2375	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1581
c234	G区②Ⅱ層上部	礎器	鋼線全周銀打潤滑 一部銀打直	102	99	39	3860	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B4257
c235	S01埋土(E区①)	砥石	扁平礫 溝状砥面 2面 石皿破損品 転用か	(101)	(68)	23	1880	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1060
c236	S03北西①中	砥石	楕円形角礫 平坦面 1面摩滅 破損品	(106)	(103)	32	6064	砂岩, 北上山地, 古生代	B1514
c237	S04EWベルト 埋土下部	砥石	棒状礫 平坦面 3面摩滅 鋼線銀打 直 破損品	(140)	(108)	80	22700	ホルンフェルス, 北上山地, 古生代(変成は中生代白亜紀)	B1038
c238	S13北平床土上部 B区②aⅡ層遺構群埋 土下部	石皿	有線石皿 脚付 2片接合 破損品	(117)	(162)	46	8352	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1779
c239	S12-7層	石皿	滑岩製 有線石皿 脚付 破損品	(212)	(145)	56	9715	安山岩, 岩手山, 新生代第四紀	B1774
c240	S12-7層	石皿	滑岩製 有線石皿 破損品	105	86	53	2285	安山岩, 岩手山, 新生代第四紀	B1791
c241	SK8底面	石皿	有線石皿 脚付 3片接合	417	176	56	(3441.1)	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B4274
c242	A区②Ⅱ層上部	石皿	有線石皿 脚付 破損品	(165)	(106)	62	8765	凝灰質礫岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1746
c243	B区②①Ⅰ-Ⅱ層	石皿	有線石皿 脚付 下面中央凹み 一部 変色 破損品	(137)	194	41	13158	凝灰岩, 北上山地, 中生代	B1745
c244	B区②①Ⅱ層上部	石皿	有線石皿 脚付 破損品	(116)	(85)	34	2472	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1750
c245	B区②①Ⅱ層上部	石皿	有線石皿 中央大きく凹み 破損品	(258)	(170)	52	22903	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1775
c246	B区②①Ⅱ層中部	石皿	有線石皿 脚付 破損品	(89)	(98)	61	3461	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1753
c247	F区④Ⅱ層上部	石皿	有線石皿 脚付 破損品	(190)	178	42	14997	凝灰質砂岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B1776
c248	S03-3号炉	台石	両面摩滅 被熱痕 破損品	260	180	90	5296.1	片麻岩, 北上山地水上山西方, 古生代	B1689
c249	S04北平床面直上	台石	両面摩滅 破損品	(132)	(121)	37	8680	花崗岩, 北上山地, 中生代白亜紀	B1669
c250	S09埋土上部	台石	片面摩滅 破損品	(223)	(184)	73	41295	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B1723
c251	SE26中央埋土中位	台石	片面摩滅 付着物変色か 3片接合	390	205	63	102256	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B4277
c252	SE28西端埋土	台石	両面摩滅 付着物変色か 破損品	(190)	180	33	21290	片麻岩, 北上山地水上山西方, 古生代	B4286
c253	SN04石潤滑成礎	台石	両面摩滅 破損品	(270)	(134)	89	38982	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1660
c254	SK01埋土下部	台石	片面摩滅 破損品	(219)	(182)	60	29025	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1638
c255	SK01埋土下部	台石	片面摩滅 付着物変色か	500	160	36	48779	砂岩, 北上山地, 古生代	B1716
c256	SK114埋土上部	台石	両面摩滅 破損品	(131)	(145)	57	24090	凝灰岩, 大船渡層群, 中生代白亜紀	B4289
c257	B区②aⅡ層中部	台石	両面摩滅 破損品	(324)	180	21	30793	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1642
c258	B区②aⅡ層中部	台石	両面摩滅, 銀打直 破損品	(206)	120	50	18882	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B1664
c259	S01埋土下部 (E区①)	石棒類	大型石棒 角柱状礫素材 鋼線銀打 潤滑調整, 平坦面研削調整	365	35	51	10813	ホルンフェルス, 北上山地, 古生代(変成は中生代白亜紀)	B3203
c260	SE23北平床面	石棒類	大型石棒 全面銀打研削調整 破損品	(258)	(114)	(100)	(54000)	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B2110
c261	SE23北平床土	石棒類	全面研削調整 節理面破損	(138)	(28)	(06)	(348)	粘板岩, 北上山地, 古生代	B2109
c262	SE26北端埋土上 (T8)	石棒類	大型石棒 全面研削・銀打調整 節 理部表面 破損品	(215)	(125)	(115)	(50000)	アイサイト, 原地山層, 中生代白亜紀	B2102
c263	SK105埋土	石棒類	大型石棒 全面研削調整 節理面内 面研削調整 破損品	(355)	(128)	(75)	(48000)	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B2114
c264	SK117埋土	石棒類	大型石棒 全面銀打研削調整 破損品	(153)	(72)	(31)	(5595)	砂岩, 原地山層, 中生代白亜紀	B2113
c265	G区②Ⅱ層下部 (SQ09内)	石棒類	全面研削調整 鋼線刃部無形成 破損品	(146)	(33)	(16)	(1193)	ホルンフェルス, 北上山地, 古生代(変成は中生代白亜紀)	B2115
c266	A区④Ⅱ層上部	石棒類	全面研削調整 両鋼線刃部	312	42	16	3109	ホルンフェルス, 北上山地, 古生代(変成は中生代白亜紀)	B2007

() 残存値

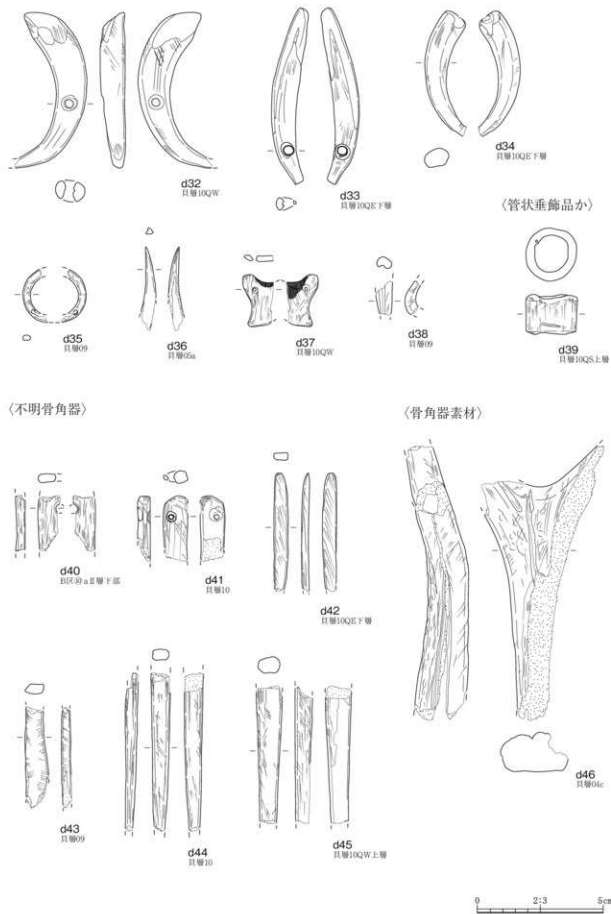
No	出土地点	器種	特徴	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重(g)	石材	登録 番号
c267	A区⑥Ⅱ層下部	石棒類	全面研磨調整 両側斜刃部 破損品	(14.8)	(3.3)		(70.3)	ホルンフェルス、北上山地、古 生代(変成は中生代白亜紀)	B2004
c268	A区⑥Ⅱ層下部	石棒類	大型石棒 全面敲打調整 頭部研磨 調整 2片接合 破損品	(26.3)	(9.1)	(9.3)	(3320.0)	アイサイト、原地山層、中生代 白亜紀	B2005
c269	B区⑥①Ⅰ-Ⅱ層	石棒類	大型石棒 全面敲打調整 棒痕 頭部 表面 2片接合 破損品	(23.4)	(10.7)	(8.7)	(2561.0)	砂岩、原地山層、中生代白亜紀	B2003
c270	B区⑥bⅡ層中部	石棒類	全面研磨調整 側縁敲打調整 破損品	(10.2)	(3.0)	(1.2)	(57.2)	ホルンフェルス、北上山地、古 生代(変成は中生代白亜紀)	B2009
c271	B区⑥bⅡ層中部	石棒類	大型石棒 全面敲打調整 側縁 一部敲打調整 破損品	(14.7)	(7.3)	(8.6)	(971.5)	流紋岩、北上山地、 中生代白亜紀	B2012
c272	B区⑥Ⅱ層上部	石棒類	全面研磨調整 片縁直線 石包丁状 破損品	(8.3)	(4.0)	(0.6)	(28.4)	ホルンフェルス、北上山地、古 生代(変成は中生代白亜紀)	B2010
c273	B区⑥Ⅱ層中部	石棒類	1線研磨調整 平坦面大部分素材種 面残存 破損品	(12.0)	(3.5)	(1.1)	(73.3)	ホルンフェルス、北上山地、古 生代(変成は中生代白亜紀)	B2013
c274	G区⑥Ⅱ層上部	石棒類	全面研磨調整 側縁稜線 撥状 破損品	(12.5)	(2.2)	(1.4)	(56.6)	粘板岩、北上山地、古生代	B2116
c275	I区⑦Ⅱ層下部	石棒類	全面研磨調整 側縁刃部集形成 破損品	(12.3)	(4.3)	(2.5)	(230.4)	ホルンフェルス、北上山地、古 生代(変成は中生代白亜紀)	B2112
c276	I区⑦Ⅱ層下部	石棒類	全面研磨調整 側縁刃部集形成 破損品	(8.5)	(2.4)	(1.8)	(59.4)	粘板岩、北上山地、古生代	B2111
c277	具層10QE上層	石棒類	大型石棒 角柱状踵部材 側縁敲打 調整 頭部表面整形段階 破損品	(52.5)	(10.0)	(7.0)	(8800.0)	砂岩、原地山層、中生代白亜紀	B2105
c278	S01理土下部 (E区⑩)	石製門盤	側縁敲打調整 平坦面一部研磨 調整	5.3	5.0	1.3	531	ホルンフェルス、北上山地、古 生代(変成は中生代白亜紀)	B2025
c279	S01理土(E区⑪)	石製門盤	側縁・平坦面研磨調整	7.1	7.2	1.6	1177	砂岩、原地山層、中生代白亜紀	B2024
c280	S115北半理土	石製門盤	側縁敲打調整	5.5	5.2	1.2	506	砂岩、北上山地、古生代	B2023
c281	S04南半理土上部	軽石製品	人面表現 横位貫通孔と眼孔縁線	9.6	7.7	3.5	390	軽石、十和田大山、 新生代第四紀	B2027
c282	S04南半理土下部	軽石製品	人面表現小 横位貫通孔	9.4	8.5	3.6	442	軽石、十和田大山、 新生代第四紀	B2028
c283	B区⑥bⅡ層下部	軽石製品	菱形整形 貫通孔	4.8	3.9	2.3	4.4	軽石、十和田大山、 新生代第四紀	B2029
c284	S04理土	その壘の石 製品	自然礫側縁研磨調整	6.8	3.6	1.3	51.9	アイサイト、原地山層、中生代 白亜紀	B2035
c285	S26中央理土中部	その壘の石 製品	有孔石製品 全面研磨調整 一部被 熱変色 破損品	(7.2)	(4.6)	2.2	(91.0)	凝灰岩、北上山地、中生代	B2121
c286	SQ10下部	その壘の石 製品	石冠 全面研磨調整 破損品	(13.0)	(6.1)	4.9	4941	砂岩、原地山層、中生代白亜紀	B2120
c287	B区⑥aⅡ層下部	その壘の石 製品	自然礫 平坦面人為的擦痕	7.0	2.5	1.8	48.3	頁岩、北上山地、古生代	B2033
c288	F区⑥Ⅰ層	その壘の石 製品	文字状整形 側縁敲打調整・一部研 磨調整	6.3	6.8	5.0	631	砂岩、原地山層、中生代白亜紀	B2034



第200図 骨角器(1)



第201図 骨角器(2)



第202図 骨角器(3)

第21表 骨角器観察表

〔〕内寸法

No.	出土地点	種類	素材	特徴	計測値 (cm)	登録番号
d1	貝塚10-G区③Ⅱ層上部	筥	鹿角	市境型回転式磨頭跡頭	長6.7 幅2.1 厚0.7 孔径0.35	E029
d2	貝塚10QW上層	釣針	鹿角	内製型 定形品	長1.6 幅0.8 輪部径0.2	E046
d3	貝塚10QE下層	釣針	鹿角	先端欠損	長4.3 幅(1.1) 輪部径0.3	E037
d4	貝塚09-F区⑦	釣針	不明	輪部先端破片	長(2.2) 幅部径0.3	E011
d5	貝塚10QW	釣針	鹿角	輪部破片	長(3.8) 輪部径0.5	E033
d6	貝塚10QE下層	釣針	不明	内製型 先端破片	長(1.3) 幅(0.6)	E050
d7	B区⑤aⅡ層中部	釣針	不明四股骨	一部残存 焼成白変	長(0.9) 幅(1.1) 厚0.4	E003
d8	貝塚08-B区⑨aⅡ層下部	釣針	不明	一部残存 焼成黒変	長(1.1) 幅(0.6) 厚0.2	E021
d9	貝塚10QN	釣針	不明	外製型 破片	長(1.4) 幅(0.9) 輪部径0.3	E047
d10	貝塚10QE下層	釣針	不明	一部残存 焼成黒変	長(1.0) 幅(0.7)	E051
d11	貝塚10QN下層	釣針未製品	鹿角	外製型 中央穿孔直中段磨	長1.7 幅0.8 厚0.2	E052
d12	貝塚05a-B区③bⅡ層下部	骨針	不明四股骨	定形 基部に穿孔	長0.9 幅1.3 厚0.7 孔径0.3	E002
d13	F区③aⅠ-Ⅱ層	骨針	不明四股骨	全面研磨光沢あり 近現代遺物か	長(5.3) 幅1.0 厚0.5 孔径0.3	E007
d14	貝塚10QE上層	骨筥	ニホンジカ中足骨近位端	全面研磨光沢あり	長(7.8) 幅2.1	E036
d15	貝塚10QN	刺突具	不明四股骨	骨筥状 全面整形痕	長8.7 幅1.0 厚0.7	E054
d16	貝塚10QN	刺突具	不明四股骨	基部欠損 全面整形痕	長(8.5) 幅0.7 厚0.5	E056
d17	貝塚12上層	刺突具	不明四股骨	全面整形痕 先端丸く加工	長(8.3) 径0.5	E039
d18	貝塚10QN-G区③	刺突具	鹿角尖部	全面整形痕 手面平直	長(9.5) 径(1.4)	E004
d19	貝塚10QE下層	刺突具	ニホンジカ中足骨	横位方向の細い縦割状痕跡あり	長(17.3) 幅1.4 厚1.1	E042
d20	貝塚04-B区③bⅡ層下部	刺突具	不明四股骨	全面研磨光沢あり 先端面取り加工	長(4.6) 径0.9	E018
d21	貝塚10QN	刺突具	鹿角	全面整形痕	長(5.2) 径0.6	E053
d22	貝塚12上層	刺突具	不明	全面整形痕 骨筥状 先端欠損	長(4.9) 幅0.9 厚0.4	E049
d23	貝塚04-B区③bⅡ層下部	刺突具	鹿角	先端面取り加工	長(6.4) 径(1.1)	E010
d24	B区⑤aⅡ層下部	刺突具	鹿角	縦に半分欠損 先端面取り加工 焼成白変	長(2.6) 径0.7	E004
d25	貝塚04c-B区③b	刺突具	鹿角	全面整形痕 先端丸く加工	長(5.5) 径1.7×1.2	E001
d26	貝塚10QW	刺突具	鹿角	切断面整形加工	長5.5 径1.6	E044
d27	貝塚10QE下層	又状角器	鹿角(L.第2-3枝分岐)	切断面整形 片面平直に整形	長5.6 厚1.3	E040
d28	貝塚10QE下層	装身具(垂飾品)	ニホンジカ基部骨	穿孔以外加工なし	径5.1 径2.1 孔径0.25	E043
d29	貝塚04c	装身具(垂飾品)	ニホンジカ中節骨	穿孔 近位端未結合	径2.4 幅1.2 厚1.4 孔径0.4	E013
d30	貝塚10QW下層	装身具(垂飾品)	ツキノワグマ基部骨	遠位端貫通孔あり 未端欠損	長(3.1) 幅1.7 厚1.2 孔径0.3	E057
d31	貝塚10QE下層	装身具(垂飾品)	ヒト第3中足骨上	近位端貫通孔あり 遠位端側欠損	長(4.7) 幅1.9 厚1.2 孔径0.4	E061
d32	貝塚10QW-G区③	装身具(垂飾品)	イノシシ大歯(下顎R)	中央穿孔 先端加工	長6.2 径2.9 孔径0.3	E032
d33	貝塚10QE下層	装身具(垂飾品)	イノシシ切歯(下顎L.11)	尖突未閉塞 基部に穿孔	径7.0 径1.0	E028
d34	貝塚10QE下層	装身具(少)	イノシシ大歯(上顎R)	先端磨鈍 整形痕み	長(4.9) 径1.1	E038
d35	貝塚09-B区③aⅡ層下部	装身具(垂飾品)	Mササヒ切歯(上顎R)	歯根部に穿孔	長(2.1) 径0.3 孔径0.15	E022
d36	貝塚05a-B区③bⅡ層下部	装身具(少)	イノシシ大歯(下顎)	先端加工痕	長(3.3) 径(0.6)	E020
d37	貝塚10QW	装身具(少)	不明	穿孔あり 一部黒色付着物	径2.1 厚0.3 孔径0.15	E048
d38	貝塚09-F区⑦	装身具(少)	イノシシ大歯	エナメル質部分使用 外側溝加工	長(1.3) 径0.7	E060
d39	貝塚10QS上層	管状垂飾品(少)	不明四股骨	定形品 索装孔あり	径2.1 高1.6	E045
d40	B区⑨aⅡ層下部	不明	不明四股骨	穿孔あり へつ状製品の一部 焼成白変	長(2.2) 幅(0.9) 厚0.4 孔径0.4	E005
d41	貝塚10-G区③Ⅱ層上部	不明	不明四股骨	へつ状に全面加工 穿孔	長(2.6) 幅1.0 厚0.5 孔径0.15	E030
d42	貝塚10QE下層	不明	不明四股骨	断面長方形に整形	長(4.7) 幅0.6 厚0.3	E041
d43	貝塚09-F区⑦	不明	鹿角	断面長方形に加工 研ぎ整形	長(4.0) 幅(0.9) 厚(0.4)	E027
d44	貝塚10-G区③Ⅱ層上部	不明	不明四股骨	両端欠損 d41と同一個体小	長(6.2) 幅0.7 厚0.5	E031
d45	貝塚10QW上層	不明	ニホンジカ中手骨骨幹部	全面整形痕	長(5.4) 幅1.0 厚0.7	E035
d46	貝塚04c-B区③b	骨角器素材	鹿角	中央に切断加工用溝痕あり	長(10.8) 幅(4.9)	E015

(5) 動物遺存体

①試料整理の方法

a. 概要

Ⅲ1(4)に記載したとおり、検出した貝層を構成する貝、貝層に含まれる獣骨等動物遺存体、包含層等出土の動物遺存体は全量採取を原則とした。持ち帰った貝層試料は室内整理段階で水洗、選別を経て同定、集計作業を行った。作業のフローは第61図に示している。

b. 貝類

採取試料は、貝層、層別別に試料台帳を作成し、二枚貝、巻貝、骨類、土器、石器、炭化物、礫に大別し、それぞれ重量を測定した。得られた巻貝、二枚貝は第一次選別でアサリ、カキ類、ウミニナ、その他の巻貝、二枚貝に大別し重量を計測した。

全量の同定は室内整理期間内で行うことは不可能であったため、各貝層から任意に同定対象試料を抽出して第二次選別、同定作業を行った。対象量は重量にして合計約1,648.2kgに対し約262.9kgについて実施し、全体の約16%に相当する(第9表)。

算定部位は巻貝の場合は殻頂、殻軸を残す個体をカウントし同定標本数を求めた。二枚貝の場合は殻頂を残す個体をカウントし左右の確認を行った。また主体となるアサリ、ウミニナについては更に対象を絞り込んで殻高、殻長の計測を行った(第26・27表)。

c. 骨類

大型の獣骨、鳥骨、マグロ属等大型の魚骨については、野外調査において目視により取り上げた標本が含まれる。これらは連番の登録番号をふり台帳を作成した。平成28年度分はNo1～329、平成29年度分はNo1001～1256が該当する。このうち、取り上げ作業過程で複数の骨が1箇所にまとまるものは1袋に収納し同一番号を付けており、1登録番号内に複数の骨が混在する場合は、更に枝番を付けて管理した(例14-3等)。

上記の貝層整理工程で選別抽出した骨試料については、一部は目視取り上げ試料台帳に続けて登録番号を付けた。平成28年度分としてはNo330～605、平成29年度分はNo1257～1266である。ただし、大半の試料は貝層出土のため出土地点が限定されていることから、途中から登録番号管理を省略し、出土地点別の一括管理扱いとした。このため、貝層選別試料については登録番号を持つ試料と持たない試料が混在している。

d. 同定・集計

実際に同定作業にあたったのは調査員2名、合計延べ10箇月に加え、室内整理作業員2～3名体制で合計延べ25箇月間従事した。全て動物遺存体選別同定作業は未経験の者である。

貝層選別で得られた試料を含め可能な範囲で全試料について同定作業を行った結果、貝類2綱10目21科30属33種、節足動物1目1科、棘皮動物1綱、魚類2綱11目38科40属38種、両生類1目、爬虫類1目1亜目、鳥類1目5科2種、哺乳類2科1亜科12種を同定した。同定結果は出土地点別に同定標本数を集計し第23～46表に示した。なお、同定標本数をNISP、最小個体数をMNIと表記する。

貝・骨試料同定にあたっては佐々木務氏(岩手県教育委員会)所有現生標本を借用・参照し、佐々木氏ならびに富岡直人氏(岡山理科大学)、江川達也氏(笠岡市教育委員会)、鈴木めぐみ氏(大船渡市教育委員会)の指導、岡山理科大学環境考古学研究室学生諸氏の協力をいただいている。あわせて下記文献を参照して実施した。

第22表 出土動物遺存体種名表

門	上綱・綱	亜綱・目	亜目・科	属	和名	学名
軟体動物門 MOLLUSCA	腹足綱	GASTROPODA	カタガイ目	コメダカタガイ科	属・種不明	<i>Nardulius</i> gen. et sp. Indet.
			ユキノカタガイ科		シボリガイ	<i>Patellula (Dygnata)</i> (Dunker)
			古腹足目	ニシキウズ科	イシダタミ属 属・種不明	<i>Monodonta labo confusa</i> (Tappan-Caneff) <i>Trachidula</i> gen. et sp. Indet.
				バサイウ科	バサイウ属	<i>Chlorostoma lachry</i> (Tappan-Caneff)
				ササエ科	オキホビウスガイ属	<i>Lamella coronata coronata</i> (Böcher)
				ミシロ目	アワシ属	<i>Halotis discus hamus</i> (Ito)
新牛腹足目			タマキビ科	タマキビ属	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i> (Philippi)
				属・種不明		<i>Littorinidae</i> gen. et sp. Indet.
			ウミナナ科	ウミナナ属	ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i> (Lischke)
				種不明		<i>Batillaria</i> sp.
			ムカデガイ科	オキホビガイ属	オキホビガイ	<i>Thyridopsis adami</i> (Mörch)
			タマガイ科	ハイロタマガイ属	エゾタマガイ	<i>Cryptostoma jankowskianae</i> (Kuroda & Ito)
						<i>Cryptostoma albatro</i> (Dall)
				ツメタガイ属	ツメタガイ	<i>Glossaula diluvii</i> (Roding)
				種不明		<i>Glossaulax</i> sp.
アツキガイ科			レイシガイ属	イボニン	<i>Reishia clavigera</i> (Küster)	
				レイシガイ	<i>Reishia brevis</i> (Dunker)	
			ネリモンボウ属	アカニン	<i>Eggsina senosa</i> (Vanacensis)	
				属・種不明		<i>Martialis</i> gen. et sp. Indet.
			エゾハシ科	エゾボウ属	エゾボウホドキ	<i>Neptunia subrecaibia</i> (L.S. Sowerby II)
			ムシロガイ科	ムシロガイ属	ムシロガイ	<i>Nannaria lineata</i> (Philippi)
					アラムシロ	<i>Nannaria festiva</i> (Pawley)
				属・種不明		<i>Nannaridae</i> gen. et sp. Indet.
			有脚目	キセルガイ科	属・種不明	<i>Clanidulidae</i> gen. et sp. Indet.
二枚貝綱 BIVALVIA			フネガイ目	フネガイ科	カサガシ属	<i>Sphaeria longicauda</i> (Schrenck)
			イサガイ目	イサガイ科	属・種不明	<i>Mytilidae</i> gen. et sp. Indet.
			イタヤガイ目	イタヤガイ科	カミニシシキ属	<i>Chlamys farrea japonica</i> (Kuroda)
				ホタテガイ属	ホタテガイ	<i>Palliopecten yamamotoi</i> (Jay)
			カサ目	イタガシ科	マダキ属	<i>Cassiopea gigas</i> (Thunberg)
			マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	ハマダリ属	<i>Meretrix leuroa</i> (Roding)
					オキニンシ	<i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin)
					カサ目イサ属	<i>Phacoma japonica</i> (Reeve)
					ウツムウ中属	<i>Saxidomus japonica</i> (L.S. Sowerby II)
					オニナリ属	<i>Prosthodax pedemti</i> (Lischke)
				アサリ属	アサリ	<i>Eulimnes philippinense</i> (A. Adams & Reeve)
			バカガイ科	ミルトイ属	ミルトイ	<i>Tresus herma</i> (Kuroda & Habe)
				バカガイ属	シオウキ	<i>Macra senneriformis</i> (Dehayashi in Reeve)
				ウバガイ属	ウバガイ	<i>Pandiscusium ussuriense</i> (Schrenck)
				属・種不明		<i>Macrillia</i> gen. et sp. Indet.
			シオサザナミ科	イソシジミ属	イソシジミ	<i>Nattalia japonica</i> (Reeve)
			マダガイ科	マダガイ属	エゾマダガイ	<i>Solen brauerianus</i> (Schrenck)
					種不明	<i>Solen</i> sp.
			オキノガイ目	オキノガイ科	オキノガイ	<i>Mac arcuaria sonagai</i> (Makiyama)
足尾動物門 ARTHROPODA	甲殻綱 CRUSTACEA	十脚目	カニ目	科・種不明		<i>Brachyura</i> fam. et gen. Indet.
			アソビガサ綱	ソソビガサ科	属・種不明	<i>Balanidae</i> gen. et sp. Indet.
			ウニ綱	目・科不明		<i>Echinoida</i> order et fam. Indet.
硬皮動物門 ECHINODERMATA	軟骨魚綱 ECHINOIDEA	板鰓亜綱	目・科不明			<i>Echinochorda</i> order et fam. Indet.
脊椎動物門 VERTEBRATA	軟骨魚綱 CHONDROCHTHYES	ホヌミザメ目	ホヌミザメ科	アオザメ属	アオザメ	<i>Isurus arcticus</i> (Rafinesque)
				科・種不明		<i>Lampris</i> fam. et gen. Indet.
			フノザメ目	フノザメ科	アブラフノザメ	<i>Spargus acanthias</i> (Linnaeus)
			トビエイ目	アカエイ科	アカエイ	<i>Dasyatis abajai</i> (Müller & Henle)
				トビエイ科	属・種不明	<i>Myliobatidae</i> gen. et sp. Indet.
			ウナギ目	ウナギ科	ウナギ	<i>Anguilla</i> sp.
				ウミヘビ科	属・種不明	<i>Ophichthidae</i> gen. et sp. Indet.
			アナゴ科	クロアナゴ属	マアナゴ	<i>Conger myriaster</i> (Reevooit)
			ニシン目	ニシン科	ウミイワシ属	ウミイワシ
					ウイシ属	<i>Springer melanostictus</i> (Tominick & Schlegel)
				カタカナイワシ科	カタカナイワシ属	<i>Eupragia japonica</i> (Shattuck)
			コイ目	フナ科	種不明	<i>Carassius</i> sp.
				ヒメハヤ属	アブラハヤ	<i>Phoxinus igawashi streindachneri</i> (Savigny)
				ウダイ属	種不明	<i>Tribolodon</i> sp.
				属・種不明		<i>Cyprinidae</i> gen. et sp. Indet.
			トビジョウ科	属・種不明		<i>Cobitidae</i> gen. et sp. Indet.
			サマズ科	属・種不明		<i>Sisoridae</i> gen. et sp. Indet.
			サケ目	アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i> (Tominick & Schlegel)
				サケ科	サケ	<i>Oncorhynchus</i> sp.
			タラ目	チゴダラ科	チゴダラ	<i>Phyculus maximowiczii</i> (Herzenstein)
				チゴ科	スケトウダラ	<i>Thargus chabugramus</i> (F'alla)
			ボラ目	ボラ科	属・種不明	<i>Mugilidae</i> gen. et sp. Indet.

門	上綱・綱	亜綱・目	亜目・科	属	和名	学名
脊椎動物門 VERTEBRATA	硬骨魚綱	スズキ目	メバル科	ニモコサゴ属	ニモコサゴ	<i>Helicolenus hijikidoi</i> (Steindachner & Döderlein)
				カサゴ属	カサゴ	<i>Sebastes marinus</i> (Cuvier)
				種不明		<i>Sebastes</i> sp.
			メバル属	メバル	メバル	<i>Sebastes inermis</i> (Jordan & Thompson)
				種不明		<i>Sebastes</i> sp.
			フササゴ科	属・種不明		<i>Scorpaenidae</i> gen. et sp. Indet.
			ホウゴウ科	ホウゴウ属	ホウゴウ	<i>Chelodactylus japonicus</i> (McClelland)
			コサギ科	属・種不明		<i>Platycephalidae</i> gen. et sp. Indet.
			スズキ科	スズキ属	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i> (Cuvier)
				属・種不明		<i>Lateolabrax</i> gen. et sp. Indet.
			ハタ科	属・種不明		<i>Serranidae</i> gen. et sp. Indet.
			アジ科	アジ属	アジ	<i>Seriola quinqueradiata</i> (Temminck & Schlegel)
				種不明		<i>Seriola dumerilii</i> (Risso)
				種不明		<i>Seriola</i> sp.
			マアジ属	マアジ	マアジ	<i>Trachurus japonicus</i> (Temminck & Schlegel)
				種不明		<i>Trachurus</i> sp.
			ムロアジ属	種不明		<i>Dicentrarchus</i> sp.
				属・種不明		<i>Carangidae</i> gen. et sp. Indet.
			イサナ科	属・種不明		<i>Haemulidae</i> gen. et sp. Indet.
			タイ科	クロダイ属	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i> (Fleischer)
				マダイ属	マダイ	<i>Pagrus major</i> (Temminck & Schlegel)
				種不明		<i>Sparidae</i> gen. et sp. Indet.
			ホス科	ホス属	種不明	<i>Sillago</i> sp.
			ウミツナギ科	ウミツナギ属	種不明	<i>Utreraia</i> sp.
			バサ科	コブダイ属	コブダイ	<i>Semicossyphus reticulatus</i> (Valenciennes)
			アイナメ科	アイナメ属	スジアイナメ	<i>Hexagrammos octagrammus</i> (Pallas)
				アイナメ	アイナメ	<i>Hexagrammos otakii</i> (Jordan and Starko)
				種不明		<i>Hexagrammos</i> sp.
				属・種不明		<i>Hexagrammidae</i> gen. et sp. Indet.
			ハタハタ科	ハタハタ属	ハタハタ	<i>Arctoscopus japonicus</i> (Steindachner)
			カジ科	属・種不明		<i>Cottidae</i> gen. et sp. Indet.
			ハゼ科	マハゼ属	マハゼ	<i>Anarhobius flavimanus</i> (Temminck & Schlegel)
				属・種不明		<i>Gobiidae</i> gen. et sp. Indet.
			カマス科	カマス属	種不明	<i>Sphyrina</i> sp.
			サバ科	サバ属	マサバ	<i>Scomber japonicus</i> (Houttuyn)
				種不明		<i>Scomber australis</i> (Cuvier)
				種不明		<i>Scomberidae</i> sp.
			マグロ属	タラマダロ	タラマダロ	<i>Thunnus thynnus</i> (Linnaeus)
				種不明		<i>Thunnus</i> sp.
				カツキ	カツキ	<i>Katsuwonus pelamis</i> (Linnaeus)
				属・種不明		<i>Scomberidae</i> gen. et sp. Indet.
			カレイ目	ヒラメ科	ヒラメ	<i>Pleuronectes olivaceus</i> (Temminck & Schlegel)
				フノボレイ属	アサハダレイ	<i>Pleuronectes mushigeri</i> (Snyder)
					マダレイ	<i>Pleuronectes herosensis</i> (Jordan & Snyder)
					マダダレイ	<i>Pleuronectes yoshikawae</i> (Günther)
				イシダレイ属	イシダレイ	<i>Favonigobius flavescens</i> (Hildebrand)
				属・種不明		<i>Pleuronectidae</i> gen. et sp. Indet.
			フダ目	ウマヅラハギ属	ウマヅラハギ	<i>Thaumococcus modestus</i> (Günther)
				ウマヅラハギ	ウマヅラハギ	<i>Staphanolepis cirrifer</i> (Temminck & Schlegel)
				科・属不明		<i>Tetraodoniformes</i> fam. et gen. Indet.
				科・属不明		<i>Anura</i> fam. et gen. Indet.
両生綱 AMPHIBIA		カエル目	科・属不明			<i>Triturus</i> fam. et gen. Indet.
爬虫綱 REPTILIA		カメ目	科・属不明			<i>Turtles</i> fam. et gen. Indet.
		トカゲ目	ヘビ亜目 科・属不明			<i>Serpentes</i> fam. et gen. Indet.
鳥綱 AVES		キジ目	キジ科	キジ	キジ	<i>Phasianus versicolor</i> (Vieillot)
			キジ科	属・種不明		<i>Phasianidae</i> gen. et sp. Indet.
		ガンカモ目	カモ科	属・種不明		<i>Anatidae</i> gen. et sp. Indet.
			アビ科	属・種不明		<i>Gaviidae</i> gen. et sp. Indet.
		ツル目	科・属不明			<i>Accipitriformes</i> fam. et gen. Indet.
		カウチドリ目	ウ科	属・種不明		<i>Phalarocoracidae</i> gen. et sp. Indet.
		ハト目	ハト科	キジハト属	キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i> (Latham)
				属・種不明		<i>Turdidae</i> gen. et sp. Indet.
		スズメ目	ツグミ科	属・種不明		<i>Turdidae</i> gen. et sp. Indet.
			モズ科	属・種不明		<i>Muridae</i> gen. et sp. Indet.
			ハチスズミ亜科	属・種不明		<i>Arviculidae</i> gen. et sp. Indet.
			ウズク	ムナヅビ属	ムナヅビ	<i>Petraria leucogera</i> (Temminck)
				ノウサギ属	ノウサギ	<i>Lepus timidus</i> (Linnaeus)
			ウサギ目	ノウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus timidus</i> (Linnaeus)
				イヌ属	イヌ	<i>Canis familiaris</i> (Linnaeus)
				キツネ属	キツネ	<i>Vulpes vulpes</i> (Linnaeus)
				クマ属	クマ	<i>Nyctereutes procyonoides</i> (Gray)
				クマ属	クマ	<i>Ursus thibetanus</i> (Cuvier)
				クマ属	クマ	<i>Ursus mandchuricus</i> (Wagner)
				アナタマ属	アナタマ	<i>Meles amurensis</i> (Temminck)
				シカ属	シカ	<i>Cervus nippon</i> (Temminck)
				イノシシ属	イノシシ	<i>Sus scrofa</i> (Linnaeus)
				ウマ科	ウマ	<i>Equus (Fera caballus)</i> (Linnaeus)
				ヒト科	ヒト	<i>Homo sapiens sapiens</i>
哺乳綱 MAMMALIA		霊長目	ヒト科	ヒト	ヒト	<i>Homo sapiens sapiens</i>
						<i>Homo sapiens sapiens</i>

②各動物遺存体の内容

a. 巻貝

腹足綱として4目13科16種を同定している。個体数ではウミニナが9割以上を占め、他にスガイ、タマキビ等が多い(第24表)。名称、生息域は奥谷(2017)を参照した。

[カサガイ類] ユキノカサガイ科シボリガイが貝層04から1点、他にカサガイ類として科の同定に至らないものが貝層04・05・09・10・12から合計89点の出土。

[ニシキウズ科] イシダタミが貝層09・12から合計3点の出土。潮間帯岩礁に生息する。他に属の同定に至らないものが貝層12から1点の出土。

[クボガイ] バテイラ科クボガイは貝層10・12で合計7点の出土。潮間帯～水深20mの岩礁に生息する。

[スガイ] サザエ科スガイは主に貝層09・10・12で検出しており、合計128点の出土。巻貝中ではウミニナに次いで多い。潮間帯岩礁に生息する。

[エゾアワビ] エゾアワビを貝層10で確認しているが、同定集計試料中には存在しておらず、同定標本数は確認していない。少数に留まることは確実である。潮間帯～水深20mの岩礁に生息する。

[タマキビ科] タマキビが貝層04・09・12を中心に22点の出土。潮間帯上部～潮上帯の岩礁に生息する。他に属の同定に至らないものが貝層12等から合計4点の出土。

[ウミニナ] 主要な貝類の一つで合計4322点を数える。大部分の貝層に含まれているが、特に貝層09・10・12に多く見られる。抽出したサンプルでの構成比率を見ると、巻貝全体のMNI:4675中では92.5%を占め、二枚貝を合算した貝類全体のMNI:6903中では6.2%となりアサリに次ぐ。

ウミニナは殻頂から殻底まで残る個体3691点について殻高を計測した(第26表・第204図)。2mm単位のヒストグラムでは26～28mmをピークとし、22～30mmの範囲で2708点に達し全体の73%を占める。本種は潮間帯の泥底上、湾内の干潟に生息する。

[オオヘビガイ] 貝層09から2点の出土。潮間帯、岩礁に生息する。

[タマガイ科] エゾタマガイ、コシダカタマガイ、ツメタガイが貝層04・05・10・12から合計22点、他に属の同定に至らないものが19点の出土。エゾタマガイは水深20～90mの砂泥底、コシダカタマガイは水深210～480mの砂泥底、ツメタガイは潮間帯～水深50mの砂泥底に生息する。

[アッキガイ科] イボニシ、レイシガイ、アカニシが貝層10を中心として合計23点の出土。イボニシは潮間帯岩礁、レイシガイは潮間帯～潮下帯岩礁、アカニシは水深30mで浅い砂泥底に生息する。

[エゾボラモドキ] エゾバイ科エゾボラモドキが貝層10で1点の出土。

[ムシロガイ科] 種不明ムシロガイ科が貝層10・12で各1点の出土。

[キセルガイ科] 種不明キセルガイ科が貝層09で1点の出土。

[巻貝蓋] 目不明巻貝蓋は貝層09・10・12を中心に合計231点を確認している。

[稚貝] 目不明巻貝の稚貝は貝層09・10・12を中心に合計115点確認。

b. 二枚貝

二枚貝綱として6目9科16種を同定している。個体数ではアサリが二枚貝中の約98%を占め、マガキがこれに次ぐ(第25表)。

[アカガイ科] 貝層10から1点の出土。水深5～50mの内湾砂泥底に生息する。

[イガイ科] 貝層09・10・12から合計12点の出土でMNIは7。主に潮間帯～水深20mの岩礁に生息する。

【イタヤガイ科】 アズマニシキ・ホタテガイを貝層09・10で確認しているが、同定集計試料中には存在しておらず、同定標本数は確認していない。アズマニシキは水深50m以浅の岩礫底、ホタテガイは潮間帯下から水深80mの砂底に生息する。

【マガキ】 殻頂を持つ個体を集計した。アサリに次いで多く出土しており左殻1031点、右殻815点で、MNIは1031とカウントされる。アサリとの個体数比はアサリの1～2%程度だが、貝層によってアサリとの比率はやや異なり、貝層01ではアサリMNI:215に対しマガキMNI:102と半数近くに達する。破碎された貝殻は全体に含まれており、本来は個体数として集計した以上に多く廃棄されていた可能性が高い。汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底に生息する。

【ハマグリ】 貝層10・12から合計41点の出土でMNIは23。潮間帯下部から水深20mの内湾砂泥底に生息する。

【オキシジミ】 貝層04・05・07・10・12から合計62点の出土でMNIは33。潮間帯下部から水深20mの内湾砂泥底に生息する。

【カガミガイ】 貝層12から1点のみ確認した。潮間帯下部から水深60mの細砂底に生息する。

【ウチムラサキ】 貝層09・10・12から合計6点の出土でMNIは4。潮間帯から水深20mの礫混じりの砂泥底に生息する。

【オニアサリ】 貝層05・06・09・10から合計14点の出土でMNIは10。潮間帯から水深20mの小石混じりの砂泥底に生息する。

【アサリ】 今回の調査における主要貝である。同定標本数は左殻63174点、右殻61257点を数え、MNIは63174とカウントされる。二枚貝全体のMNI:64487中では97.9%を占め、巻貝を合算した貝類全体のMNI:69903中では91.4%であり、ほぼアサリで構成された貝層と表現して差し支えない状況である。アサリのMNIについて個々の貝層別に貝類全体のMNIと比較すると、貝層01が337中の215で63.8%、貝層12が9664中の7290で75.4%とやや低い割合になるが、これ以外では90%台後半の割合を示す。

出土地点を任意に選択しアサリの殻高、殻長を計測した(第27表、第205・206図)。これによると殻高20～30mm、殻長25～40mmの個体が多い。また、出土貝層による差は見られない状況である。唯一、B区遺物包含層中出土の完形小型土器(a456)内に入れられていたアサリ30個は殻長15～20mmの小型の貝殻で構成されているが、これは例外と捉えられる。

貝殻の破碎状態については観察、集計できていないため、あくまで野外精査段階の印象に過ぎないが、貝層09・10は完形の貝殻が多く、貝層04・05は破碎貝が一定以上目立つ状態であった。また、受熱の痕跡を持つものは確認されない。潮間帯中部から水深10mの砂礫泥底に生息する。

【バカガイ科】 ミルクイ・シオフキ・ウバガイがあり、主に貝層09から合計8点の出土。他に属の同定に至らないものが貝層09・10を中心に合計80点の出土がある。いずれも潮間帯下部～水深30mの砂泥底に生息する。

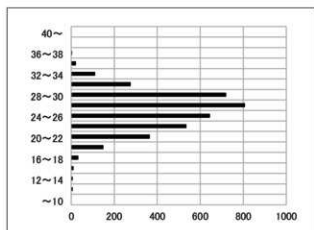
【イソシジミ】 貝層01から6点の出土があり、MNIは6。潮間帯下部から水深10mの砂泥底に生息する。

【マテガイ科】 貝層12を中心に合計12点の出土でMNIは11。潮間帯から水深20mの砂泥底に生息する種が多い。

【オオノガイ】 アサリ、マガキに次いで多い種である。貝層09・10・12を中心に左殻134点、右殻105点の出土がありMNIは134。潮間帯の砂泥底に生息する。

第26表 ウミナ殻高計測値

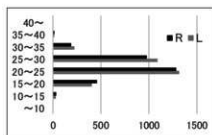
(m)	N=3991
40~	0
38~40	2
36~38	4
34~36	21
32~34	110
30~32	276
28~30	729
26~28	808
24~26	645
22~24	535
20~22	365
18~20	149
16~18	32
14~16	10
12~14	6
10~12	6
~10	2



第204図 ウミナ殻高分布

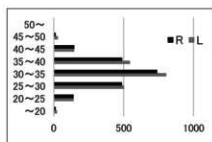
第27表 アサリ計測値

①殻高(m)	N=3074	N=2958
	L	R
40~	2	2
35~40	12	14
30~35	222	189
25~30	1090	977
20~25	1314	1283
15~20	404	438
10~15	29	33
~10	1	2



第205図 アサリ殻高分布

②殻長(m)	N=2194	N=2031
	L	R
50~	1	2
45~50	29	14
40~45	146	146
35~40	545	489
30~35	805	740
25~30	503	488
20~25	142	141
~20	23	14



第206図 アサリ殻長分布

c. フジツボ類・ウニ類・カニ類

節足動物門、棘皮動物門に分かれるが貝類、魚類以外の海産生物として下記に一括する。

[フジツボ類] 殻板の破片を確認しており、標本数ではなく合計重量を示した。ほぼ全ての貝層からの出土があり、構成する貝層の総量に比例した合計重量の数値が得られる。人間が採取したものと考えるべく、食用動物に付着して遺存した可能性が高いと推測される。

[ウニ類] ウニ類は貝層05c・10で棘、殻板が各1点の出土を確認した。種の同定には至らない。食用とされたものと考えられる。

[カニ類] カニ類は胸脚の鉗脚破片を9点確認したが、種の同定には至らず、不動肢、可動肢の区別もできていない。貝層10以外に貝層05・09からの出土がある。小型のカニとみられるが、食用に捕獲された可能性がある。

d. 魚類

魚上網としては2網1亜網12目38科40属38種を同定した。マイワシ、ウルメイワシ、カタクチイワシ、サバ科、サケ属、マアジ属、ウミタナゴ属といった小型の沿岸回遊魚、砂泥底に生息する種、淡水域に生息する種が主体となっている。

【軟骨魚綱】 ツノザメ属をはじめとした板鰓亜綱の椎骨、サメ類の歯、エイ類の尾棘、歯板を同定した。このうちツノザメ属と同定した椎骨は9点、椎骨破片は65破片がある。貝層05・10にまとまる。板鰓亜綱椎骨は貝層10を中心に貝層04・09・12に見られ合計74点を数える。

サメ類の歯ではB区⑨aⅡ層下部からアオザメの歯、ネズミザメ目の歯を検出した。アオザメは歯高14mm、ネズミザメ目歯は焼成を受けており歯高20mm強を測る。装身具素材として採取、保管されていたものかと考えられる。アブラツノザメの遊離歯は貝層04・05・09・10で検出し、合計10点がある。いずれも歯幅3～4mm程度のサイズである。

アカエイ尾棘は貝層10から3点、トビエイ科尾棘は貝層09に1点がある。トビエイ科では貝層10から歯板1点が出土している。

【ウナギ目】 ウナギ科ウナギ属、ウミヘビ科、アナゴ科マアナゴがある。ウナギ属は主に貝層01・05・10から前鋤骨・肋骨・舌顎骨・主鰓蓋骨・腹椎・尾椎を同定した。同定標本数は51。ウミヘビ科は貝層09から角骨1点の出土。

マアナゴは前上顎骨・腹椎・尾椎を同定した。同定標本数は287で、特に貝層10に集中して出土している。椎骨数で見ると主要魚種の一つに数えられる。

【ニシン目】 ニシン科ウルメイワシ・マイワシ、カタクチイワシ科カタクチイワシがある。いずれも椎骨を中心に検出数が多い魚種である。

ウルメイワシは腹椎・尾椎のみの検出で合計139点。貝層04・05・09・10・12から出土する。マイワシは腹椎・尾椎に加えて、角骨・方骨・後側頭骨・肩甲骨・基底後頭骨・尾部棒状骨を確認した。腹椎・尾椎の合計は242点に達し、椎骨数では最も多い種となっている。特に貝層04・05・09・10に多く、これらの貝層では100点を超す椎骨が含まれる。カタクチイワシは主に貝層04・05・10で腹椎・尾椎の他に擬鎖骨を1点確認した。同定標本数合計は278点である。

【コイ科】 フナ属・ヒメハヤ属アブラハヤ・ウグイ属・コイ科属種不明がある。このうちウグイ属は貝層10で一定数の出土を見る。

フナ属は貝層10で主鰓蓋骨、貝層08で下咽頭骨各1点を検出。アブラハヤは貝層10で歯骨1点を確認した。ウグイ属は歯骨・主鰓蓋骨・咽頭骨・下咽頭骨・後側頭骨・椎骨がある。貝層10の他に貝層09・12に多い。属種不明としたコイ科魚骨はニゴイ等の可能性が高いものの、確定できなかった試料である。主上顎骨・歯骨・舌顎骨・下咽頭骨・下咽頭骨・上擬鎖骨・腹椎・尾椎がある。

【ドジョウ科】 属以下の同定はできず一括している。舌顎骨・腰骨・腹椎・尾椎の合計152点を同定した。大半が貝層10から検出されたもので、他に貝層01・04・05・06・09・12に少数が認められる。

【ナマズ科】 貝層09・10に角骨左右各1点、鰓棘16点を同定した。なお、縄文時代のナマズ分布は西日本に限られ、近世以降に人為的な放流移植によって東北地方へ分布範囲を拡大したとされており(宮本ほか2001)、今回の検出状況に関しては上層からの攪乱により混入した疑いもあるが、現地調査段階ではその痕跡は発見されない。

【サケ科】 主要魚種の一つである。大多数は椎骨で、椎体中央を含み1/2以上の残存がある試料を椎骨、これより小さい破片であっても特徴的な網目構造を持ちサケ属椎骨破片と同定可能なものについてはサケ属椎骨破片として取り扱った。椎骨以外では歯骨・肩甲骨・遊離歯を確認している。椎

骨は191点、椎骨破片は2952点に達する。また遊離歯は208点の確認である。鉤形に先端が曲がる大歯状の歯が多く認められたが、分類、集計は果たせていない。出土は貝層04・05・09・10・12に多く、特に椎骨破片、遊離歯共に貝層10よりも貝層09が多いという特徴がある。

アユについては腹椎・尾椎の合計211点を同定した。大半が貝層10からの出土である。

[タラ目] エゾイソアテナメが歯骨・方骨・主總蓋骨・上舌骨・肩甲骨の合計で8点の確認、スケトウダラの前上顎骨1点を同定した。貝層10、及び貝層09・12における検出である。

[ボラ科] 方骨・主總蓋骨各1点が貝層10から出土している。主總蓋骨は全高47mmを測る。

[メバル科] ヌメカサゴ属ユメカサゴ・カサゴ属カサゴ・メバル属ハツメ・メバル属クロソイがある。ユメカサゴは方骨1点の確認。カサゴは前上顎骨・角骨・方骨・前總蓋骨・肩甲骨の合計5点を同定した。貝層10にまとまる。カサゴ属では種の同定に至らない前上顎骨・主上顎骨・角骨・方骨・主總蓋骨・上舌骨・後側頭骨・肩甲骨がある。貝層09・10に多い。メバル属ではハツメ方骨・腰骨・クロソイ腰骨を各1点同定している。他にメバル属の種の同定に至らない前上顎骨・角骨・方骨・後側頭骨・肩甲骨・腰骨・腹椎・尾椎が主に貝層10・12から合計46点確認した。

[フサカサゴ科] 属不明の方骨3点、前總蓋骨1点が貝層10・12から出土。

[ホウボウ] ホウボウ科ホウボウは貝層10から歯骨1点の出土。

[コチ科] 属不明の歯骨2点が貝層10から出土。

[スズキ科] スズキは前上顎骨・主上顎骨・歯骨・角骨・舌顎骨・方骨・下總蓋骨・上舌骨・後側頭骨・上擬鎖骨・腰骨・肩甲骨・腹椎・尾椎を合計78点同定した。出土は主に貝層10・12である。他に種の同定に至らない前上顎骨・主上顎骨・角骨・方骨・下咽頭骨が各1点ある。

[ハタ科] 属不明の主總蓋骨・尾舌骨・下咽頭骨の合計7点が貝層09・10・12から出土する。

[ブリ属] ブリは前上顎骨・主上顎骨・歯骨・角骨・舌顎骨・方骨・上舌骨・擬鎖骨・腹椎・尾椎の合計29点を同定した。貝層09・10・12からの出土である。カンバチは上擬鎖骨1点が貝層10bから出土する。

[マアジ属] マアジ属マアジは歯骨・角骨・舌顎骨・方骨・主總蓋骨・上舌骨・後側頭骨・上擬鎖骨・肩甲骨の合計37点が貝層04・05・09・10・12で確認している。椎骨は種の同定に至らずマアジ属として集計しており、貝層05・09・10・12から腹椎94点、尾椎132点、末尾尾椎1点、尾部棒状骨15点が出土する。椎骨数はマアナゴ・アユ・ウミタナゴ属等と並び多い魚種の一つに数えられる。

[イサキ科] 属不明の歯骨が貝層05から1点出土。

[タイ科] クロダイは主上顎骨・方骨・舌顎骨・腰骨の合計6点が貝層04・06・10から出土。一方マダイは前上顎骨・主上顎骨・方骨・舌顎骨・咽頭骨・上擬鎖骨・肩甲骨の合計11点が貝層04・10から出土している。他に属の同定に至らない前上顎骨・方骨・腰骨・咽頭骨・腹椎・尾椎、遊離歯の合計68点が貝層09・10・12から出土している。遊離歯には円錐状のものと臼歯状のものを含む。

[キス属] キス属は腹椎・尾椎の合計27点を貝層09・10・12で確認。

[ウミタナゴ属] ウミタナゴ属は前鋤骨・前上顎骨・歯骨・角骨・方骨・下咽頭骨・上擬鎖骨・腹椎・尾椎の合計309点を貝層01・04・05・06・07・08・09・10・12で確認した。このうち腹椎と尾椎の合計は277点を数える。他種に比較して出土貝層が全体にわたる状況である。

[コブダイ] ベラ科コブダイの上咽頭骨が貝層10から1点出土。

[アイナメ科] スジアテナメ前上顎骨が貝層10から1点出土。アイナメは前鋤骨・前上顎骨・方骨・角骨・後側頭骨・腹椎・尾椎・末尾尾椎・遊離歯の合計71点を貝層01・05・09・10・12で確認している。腹椎・尾椎の合計は60点を数える。他に種の同定に至らないアイナメ属の前上顎骨・歯骨・方

骨合計4点、属の同定に至らないアイナメ科の前上顎骨・主上顎骨・角舌骨・後側頭骨・後擬鎖骨・遊離歯の合計9点がある。

[ハタハタ] 前上顎骨2点が貝層10から出土。

[カジカ科] 属不明の前上顎骨・歯骨・角骨合計4点がある。貝層10・12からの出土。

[ハゼ科] マハゼ属マハゼの前上顎骨・歯骨・腹椎・尾椎が合計10点、貝層10・12から出土している。他に属の同定に至らないハゼ科前上顎骨・歯骨を各1点確認している。

[カマス属] カマス科カマス属は腹椎・尾椎の合計19点の出土。

[サバ属] マサバは前上顎骨・主上顎骨・歯骨・舌顎骨・方骨・主鰓蓋骨・肩甲骨の合計26点が貝層09・10を中心に出土している。ゴマサバは前上顎骨・主上顎骨・肩甲骨の合計4点が貝層01・10から出土。他に種の同定にいたらない前上顎骨・主上顎骨・歯骨・角骨・舌顎骨・方骨・主鰓蓋骨・腰骨・第一椎・第二椎・腹椎・尾椎・尾部棒状骨の合計1308点があり、椎骨の合計は尾部棒状骨を含めて1144点に達する。マイワシに次いで多い数を確認し、主要魚種であったことを示している。出土は貝層04・05・09・10に集中する状況である。

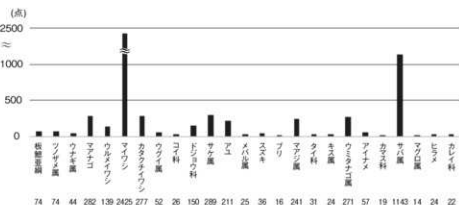
[マグロ属] クロマグロと同定したものは前鋤骨・角舌骨・上舌骨・肩甲骨の合計5点が貝層10から出土している。種の同定に至らないものは前上顎骨・角骨・舌顎骨・方骨・翼状骨・主鰓蓋骨・上擬鎖骨・肩甲骨・末尾尾椎・椎骨(椎体)・遊離歯の合計41点がある。貝層01・04・09・10の他に、貝層に隣接する包含層G区②II層上部から目視により取り上げた椎骨が含まれる。椎体径は20~25mm程度が多いが正確な計測、集計は果たせていない。

[カツオ] 歯骨・角骨・翼状骨・主鰓蓋骨・尾舌骨・擬鎖骨の合計11点を同定した。貝層10に多い他に、マグロ属同様に貝層10に隣接する包含層G区②II層からの出土がある。

[ヒラメ] 前上顎骨・角骨・方骨・咽頭骨・腹椎・尾椎・末尾尾椎・遊離歯の合計37点を同定した。貝層10に集中し、他に貝層04・05・09・12から出土する。

[カレイ科] ツノガレイ属アサバガレイ・マガレイ・マコガレイ、イシガレイ属イシガレイが確認される。アサバガレイは前上顎骨1点が貝層10から出土。マガレイは前上顎骨・主上顎骨・歯骨・角骨・方骨・翼状骨・咽頭骨・上擬鎖骨の合計15点を同定した。貝層04出土の歯骨2点以外は貝層10で確認している。マコガレイは歯骨2点、後側頭骨1点、イシガレイは角骨1点を確認した。他に属の同定に至らない前上顎骨・主上顎骨・角骨・方骨・翼状骨・咽頭骨・後側頭骨・上擬鎖骨・腹椎・尾椎・末尾尾椎・遊離歯の合計50点がある。貝層10以外には貝層04・09からの出土を確認している。椎骨合計は22点でヒラメとほぼ等しい。

[カワハギ科] ウマヅラハギの鰭棘・背鰭第一棘・背鰭棘条の担鰭骨を各1点、カワハギの肋骨を



第207図 魚類椎骨出土数

1点、科の同定に至らないフグ目腹椎を1点同定した。

[小結] 魚類について、椎骨の出土数を第29表、第207図に示した。マイワシ・サバ属が突出しており、マアナゴ・ウルメイワシ・カタクチイワシ・ドジョウ科・サケ属・アユ・マアジ属・ウミタナゴ属がこれに次いで利用頻度が高い魚種である。概ね内湾・沿岸性回遊性魚類、沿岸性定住性魚類に加えて遡河性のサケ類、淡水産魚類の捕獲が行われていたと捉えられる。

e. カエル類・ヘビ類

[カエル類] 上腕骨、腸骨を主としており、同定標本数は87点を数える。出土は貝層10の他、貝層04・12が多い。上腕骨では大型のヒキガエル類、小型のカエル類の両者を含む。大腿骨、脛腓骨近位端破片、骨幹部破片は左右の区別が難しく判断を保留した。右上腕骨遠位端からMNIは13とカウントされる。小型のカエルは混入と考えられるが、ヒキガエル類は食用に捕獲された可能性がある。

[ヘビ類] 椎骨239点、下顎骨3点がある。科以下の同定には至らない。カエル類と同様に貝層10の他、貝層04・12からの出土が多い。椎骨の大きさは比較的揃っており最大長7～8mmの範囲にまとまる。連なって出土したものは含まれていない。下顎骨は歯高1mm程の鋭い歯が並ぶ試料を確認した。椎骨の大きさから現生のシマヘビ程度の個体が多いと考えられる。貝層に混入して自然死したのも、他動物の食餌残渣、縄文人が捕獲して食用としたもの、それぞれ可能性はあるが確定はできない。

f. 鳥類

鳥類は合計43点を同定した。このうち、キジを含むキジ科が17点で半数近い。出土地点別では貝層10水洗選別資料中の出土が多いが、B・F・G区包含層出土、遺構堆積土出土の焼成を受けた鳥骨が

第30表 カエル類集計表

prox: 近位端 dia: 骨幹部 dist: 遠位端

地点	識別	層序	椎骨	仙骨	鳥口骨	頸椎骨		上腕骨		他骨		大股骨		脛腓骨		腸骨		合計
						L	R	L	R	不明	不明	不明	L	R				
貝層04	一括						1											2
	a		1	1														2
	c								1									1
	f		1													1		2
貝層05	a															1		1
貝層09			3				1									1	1	6
貝層10	QE	下層	3									1	1					5
	上層		3	1	1			4	1						2	1	13	
	QN	一括	8					3			1	3	5	20				
	上層					1												1
	QS	一括	4	1														5
	下層		1											1				2
	上層		4						1		2				1	8		
	QW	一括						3		1					1	5		
	上層														1	1	2	
貝層12	一括							1										1
	下層							1	1									2
	上層		3	1	1	2	1	1										9
合計			1	30	3	2	3	4	13	2	2	1	1	4	1	10	10	87

第31表 ヘビ類集計表

地点	識別	層序	下顎骨	椎骨
貝層04				2
貝層04	一括			36
	c			2
貝層05	a			2
貝層09		1	13	
貝層10	QE	下層		47
	上層		1	28
	QN	一括		2
	下層			8
	上層			6
	QS	一括		3
	下層			6
	上層			12
	QW	一括		9
	下層			7
貝層12	一括			2
	下層			35
	上層		1	9
合計			3	239

含まれる。

[キジ科] キジと同定したものと、属以下の同定に至らずキジ科としたものを含め、鳥口骨・尺骨・手根中手骨・大腿骨・脛足根骨・足根中足骨の17点を同定した。鳥類では全体の半数近くを占め最も多い。出土地点は貝層05・10・12、及び貝層10Iに近接する遺物包含層G区⑧、調査区中央の包含層B区⑨a、SI15埋土からとなっている。

右鳥口骨1点、左尺骨1点は完存体である。手根中手骨・大腿骨・足根中足骨は近位端、遠位端の形状から判断した。脛足根骨1点、足根中足骨2点は被熱により白色化している。

[その他の鳥綱] シロエリオオハムの可能性が高いアビ科右大腿骨がF区⑥II層上部から1点、ガンカモ類を構成するカモ科頸椎が貝層05から1点、同じくカモ科左鳥口骨が貝層10から1点、カワウ、

第32表 鳥綱同定標本一覧

	No	出土地点	種名	部位	左右	備考
目視試料	1018-7	G区⑧II層上部	キジ	足根中足骨	R	遠位端
	1034-25	貝層10QN	キジ	手根中手骨	R	
	308-2	B区⑨aII層中部	キジ科 属不明	脛足根骨	R	遠位端 焼成
	309-2	SI15埋土表面	キジ科 属不明	足根中足骨	L	近位端 焼成
	261-2	F区⑥II層上部	アビ科 属不明	大腿骨	R	
	254-1	B区⑨a遺構管理土下部	タカ目科不明	指骨	不明	焼成
	249-1	B区⑨bII層下部	鳥綱 目不明	上腕骨	R	遠位端
	288-2	F区⑥II層上部	鳥綱 目不明	手根中手骨	不明	骨幹部
	288-1	F区⑥II層上部	鳥綱 目不明	不明	不明	骨幹部
	1105-1	SK3埋土	鳥綱 目不明	不明	不明	焼成白色
	492-1	貝層05a	キジ	尺骨	L	完存
	1261-3	貝層10QS上層	キジ	大腿骨	L	遠位端
	1266-1	貝層12	キジ	大腿骨	R	遠位端
	-	貝層10QE上層	キジ	手根中手骨	L	遠位端
-	貝層12下層	キジ	足根中足骨	L	遠位端	
-	貝層10QW	キジ	鳥口骨	L		
-	貝層10QE下層	キジ	足根中足骨	L	近位端 焼成黒変	
-	貝層10QE上層	キジ	鳥口骨	R	完存	
-	貝層10QW上層	キジ科 属不明	手根中手骨	R	遠位端	
-	貝層10QW	キジ科 属不明	尺骨	L	近位端	
-	貝層10QW	キジ科 属不明	足根中足骨	R	近位端	
-	貝層12下層	キジ科 属不明	足根中足骨	L	近位端	
目視要目試料	493-2	貝層05a	カモ科 属不明	頸椎		
	-	貝層10QS下層	カモ科 属不明	鳥口骨	L	
	561-1	貝層09	ウ属 種不明	鳥口骨	R	
	-	貝層10QE上層	キジ科	肩甲骨	R	
	-	貝層10QS下層	ツグミ科	機骨	R	近位端
	460-4	貝層04	鳥綱 目不明	上腕骨	R	遠位端
	508-11	貝層05a	鳥綱 目不明	胸骨		
	520-1	貝層07	鳥綱 目不明	舌角骨	不明	
	571-1	貝層09	鳥綱 目不明	胸骨		
	552-4	貝層09	鳥綱 目不明	不明	不明	
	572-5	貝層09	鳥綱 目不明	不明	不明	
	542-5	貝層09	鳥綱 目不明	手根中手骨	R	小型鳥類
	-	貝層10QN	鳥綱 目不明	指骨		頰丈
	-	貝層10QS上層	鳥綱 目不明	不明	不明	
	-	貝層10QN下層	鳥綱 目不明	鳥口骨	不明	
	-	貝層10QN下層	鳥綱 目不明	脛足根骨	不明	遠位端
	-	貝層10QS下層	鳥綱 目不明	大腿骨	不明	遠位端
	-	貝層09	鳥綱(小型鳥類) 目不明	上腕骨	R	遠位端
	-	貝層12下層	鳥綱(小型鳥類) 目不明	上腕骨	R	完存
	-	貝層10QS下層	鳥綱(小型鳥類) 目不明	上腕骨	R	遠位端
-	貝層10QE下層	鳥綱(小型鳥類) 目不明	脛足根骨	不明		

第33表 鳥綱集計表

大別	地点	細別	層序	キジ	キジ科 属不明	その他	鳥綱 目不明	鳥綱 目不明(小型)	
遺物(完全層)	B区	㊸ a	II層下部						
		㊸ a	II層中部		脛足根骨R dist 1焼成				
		㊸ b	II層下部						
	F区	㊸	II層上部			アビ科大腿骨R 1	上腕骨R dist 1	手根中手骨dia 1	
	G区	㊸	II層上部	足根中足骨R dist 1					
埋土層	SI15	9号臨	床面		足根中足骨L prox 1焼成				
	SK31		埋土				不明 1焼成		
貝層	貝層04	一括					上腕骨R dist 1		
	貝層05	a	尺骨L 完存1		カモ科頸椎1	胸骨1			
	貝層07						舌角骨1		
	貝層09					う属 烏口骨R 1	胸骨1	上腕骨R dist 1 手根中手骨R 1	
	貝層10	QE	下層	足根中足骨L prox 1焼成					脛足根骨 1
			上層	烏口骨R 完存1 手根中手骨L dist 1		キジバト肩甲骨R 1			
		QN	一括	手根中手骨R 1				指骨1	
			下層					烏口骨1 脛足根骨dist 1	
		QS	下層			カモ科烏口骨L 1 ツグミ類椎骨 R prox 1	大腿骨 dist 1	上腕骨R dist 1	
	QW	上層	大腿骨L dist 1				不明 1		
		一括	烏口骨L 1	尺骨L prox 1 足根中足骨L prox 1					
		上層		手根中手骨R dist 1					
	貝層12	下層	大腿骨R dist 1 足根中足骨L dist 1	足根中足骨L prox 1				上腕骨R 完存 1	
	合計			10	6	6	12	5	

ないしミウと考えられるウ科ウ属右烏口骨が貝層09から1点、ハト科キジバトの右肩甲骨が貝層10から1点、ヒタキ科ツグミ属の右椎骨が貝層10から1点確認している。

また目の同定に至らない鳥骨のうち中～大型種に由来する可能性が高い烏口骨・上腕骨・手根中手骨・大腿骨・脛足根骨等合計12点、スズメ目等小型の鳥骨で上腕骨・手根中手骨・脛足根骨の合計5点が出土した。貝層10の他、貝層05・09・12で得られている。

なお、骨体が薄く内部に海綿質を持たない鳥類四肢骨と推測される管状骨は、貝層の他に遺構埋土中等からも焼成を受けた骨片状態で発見される例が比較的多いが、部位の特定もできないため集計対象とはしていない。

g. 哺乳類

哺乳類はヒトを含めて11科12種を確認した。このうち主要な利用対象種と捉えられるニホンジカ・イノシシが多数出土している他、IV 2 (8) で記載したように貝層10におけるイヌ骨集みがある。また、これら3種以外にネズミ科・ムササビ・ノウサギ等で一定量の出土がある。

[ネズミ科] ネズミ亜科、ハタネズミ亜科の区別は上下顎骨の歯槽形状と切歯・臼歯の形態によっており(河村2003、河村・樽野1993)、四肢骨は区別していない。ネズミ科全体での同定標本数は154。上顎骨・下顎骨・仙椎・上腕骨・尺骨・寛骨・大腿骨・脛骨・遊離歯を同定した。貝層10・12の水洗選別試料が主体だが、貝層05・09にも一定数が確認される。ネズミ亜科では下顎骨11点、上顎切歯17点、下顎切歯29点がある。一方、ハタネズミ亜科は上顎骨10点、下顎骨17点、臼歯18点を確認した。

本科は貝層中に混入した個体の遺骸、中・大型動物の食餌残渣が残存したもので、人間が関与した可能性は小さいと考えられる。

[モグラ科] 下顎骨・大腿骨の合計7点を同定した。貝層10に偏在する。ネズミ科同様に自然死の個体等が残存したものであり、人間が関与した可能性は小さいと考えられる。

[ムササビ] 尺骨・大腿骨・踵骨・遊離歯の18点を同定した。出土は貝層10・12の水洗選別試料に限られ遊離歯が多い特徴がある。この中では下顎M3が4点ありMNIは4とカウントされる。他に上顎切歯に穿孔した垂飾品を1点確認した(骨角器d35)。本種は、主に毛皮利用を目的として捕獲された可能性が高いと考えられる。

[ノウサギ] 上顎骨・寛骨・大腿骨・踵骨・距骨・手根骨・末節骨・遊離歯の合計24点を同定した。貝層10・12の水洗選別試料が主体で、他に貝層05aから末節骨が出土している。寛骨・大腿骨・踵骨・

第34表 ネズミ科・モグラ科集計表

地点	編目	層序	ネズミ科		ハナネズミ科		ネズミ科												モグラ科			合計													
			下顎骨	上顎切歯	上顎骨	下顎骨	臼歯	後臼歯	上顎骨		尺骨	寛骨	大腿骨		踵骨		合計	下顎骨	大腿骨																
									L	R			L	R	L	R				L	R		L	R											
			pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron																
貝層05	a				1	3			1				3		1			9		0															
	c														1	1	2			0															
貝層08		1			1	3												5		0															
貝層09		1			1	1							2	2	2		1	10		0															
貝層10	QE	下層	2	2	2		1	1	1			2	2	1	1	1		16	1	1	3														
		上層			6	1					1							8			0														
	QN	一括	1	2						1			2	1	1			8	1	1	1														
		下層	1		1				1									3	1	1	1														
		上層			1													1			0														
	QS	一括																0		1	1														
		下層	5	1	3	3	2	4	1	1	1		1	1				23	1	1	1														
		上層	1	2	5	1		1			1	1	2	1	2		1	1	19		0														
	QW	一括	1			1	1		1			1						5			0														
		下層			2							1						3			0														
		上層	1	1	1		1			1			1		1			7			0														
貝層12		一括	1	1														2			0														
		下層	1	1	4		1	1		1								10			0														
		上層	3	4	3	2	4	3	1	1		1		1				23			0														
合計			5	6	17	29	7	3	6	11	18	1	2	1	1	4	2	2	6	4	2	3	6	3	3	1	1	2	1	154	1	3	1	1	7

第35表 ムササビ集計表

地点	編目	層序	L	不明	R	上顎遊離歯						下顎遊離歯			合計							
						L	P4	M1	M2	M1	P4	M1	M2	M1								
			pron	pron	dis	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis								
			pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis								
貝層10	QE	上層	1																		1	
		下層									1	3	4									
	QN	一括								1		1	2								4	
		上層	1						1													2
	QS	一括					1															1
		上層																				1
	QW	一括	1	1	1																	3
		下層					1		1	1												3
貝層12		下層									1											1
合計			2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	4	1	4	1						18

第36表 ノウサギ集計表

地点	編目	層序	L	R	上顎小臼歯	寛骨	尺骨	踵骨	手根骨	末節骨	合計	
												L
			pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis
			pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis	pron	dis
貝層05a											1	1
貝層10	QN	一括			1						1	2
		下層	1	10							11	11
	QS	一括		2							2	2
		下層						1			1	2
		上層							1		1	1
	QW	一括			1		1				2	4
貝層12		下層	2								2	2
合計			1	14	1	1	1	1	1	1	4	24

距骨はいずれも右半身で、同一個体由来の可能性がある。臼歯上下の区別はできなかった。主要な食料資源の一つであったと考えられる。

【食肉目】 イヌの他に、ツキノワグマ、キツネ、タヌキ、アナグマ、テンがある(第37表)。

ツキノワグマでは上腕骨遠位端、第四中手骨を同定した。他に基節骨遠位端に穿孔を加えた垂飾品1点がある(骨角器d30)。タヌキは遊離歯2点を同定した。上顎右P3、下顎左M2である。キツネは距骨1点を同定した。アナグマは下顎骨・遊離歯の4点を同定した。他に海獣類の可能性が高い切歯骨1点を確認している。

テンは下顎骨・上腕骨・踵骨・距骨・遊離歯の11点を同定した。テンと推定した犬歯を含めると12点であり、食肉目中のイヌ以外では最も多い検出状況である。上腕骨遠位端からMNIは2とカウントされる。貝層10出土が主体で、他に貝層04・09の水洗選別試料がある。テンは毛皮利用目的での捕獲が想定される。

【ニホンジカ】 はほぼ全ての貝層でまとまった数を得られている。特に貝層04・05・09・10に多いが、貝層12では6点の出土に留まる。また、貝層に近接する包含層中や遺構堆積土中からも一定量の出土がある。頭骨・枝角・上顎骨・下顎骨・遊離歯・環椎・軸椎・頸椎・胸椎・腰椎・肩甲骨・上腕骨・尺骨・桡骨・第二+第三手根骨・第四手根骨・橈手根骨・中間手根骨・中手骨・寛骨・大腿骨・膝蓋骨・脛骨・踵骨・距骨・中心+第四足根骨・第二+第三足根骨・中足骨・基節骨・中節骨・末節骨の合計402点を同定した。なお、中一大型獣の肋骨においても本種の割合が多いと考えられるが、イノシシとの区別が難しいため同定対象とはしていない。

頭骨は角座骨1点、後頭骨1点、蝶形骨1点、側頭骨2点、頰骨2点という内訳で貝層04・05・09・10からの出土である。枝角は28点まで集計したが他に細片が多く含まれる。頭骨と同じ出土傾向と捉えられる。部位は角座を含むもの3点、第一分岐5点、第二分岐1点を確認した。枝角のうちカットマークを有するものが6点ある。いずれも軸に直交する切断に伴う痕跡と推定される。また被熱により黒色化しているものが4点含まれる。

上顎骨3点は貝層04・09とその周囲の包含層出土で、いずれも後臼歯が植立する。下顎骨は27点を

第37表 食肉目同定標本一覧

	No	出土地点	種名	部位	左右	備考
貝層試料	270-3	F区Ⅱ層上部	ツキノワグマ	第四中手骨	R	存在
	1074-1	G区Ⅱ層下部	ツキノワグマ	上腕骨	L	遠位端
	1034-24	貝層10QN	アナグマ	下顎骨	R	P23
	1304-1	貝層10GE下層	キツネ	距骨	L	
	1178-3	貝層10GS下層	テン	下顎骨	R	P234M1
	1118-10	貝層10GS下層	テンか	犬歯	不明	
	1089-6	貝層10GE下層	食肉目 科不明	切歯骨	R	海獣類小
	-	貝層10GE上層	アナグマ	下顎犬歯	L	C
	-	貝層12上層	アナグマ	上顎前臼歯	R	P2
	-	貝層10QW上層	アナグマ	下顎前臼歯	R	P3
貝層選別試料	-	貝層09	タヌキ	下顎後臼歯	R	M2
	-	貝層12上層	タヌキ	上顎前臼歯	R	P3
	-	貝層10QN	テン	下顎骨	L	P34M1
	-	貝層10QS	テン	上腕骨	L	遠位端
	-	貝層10QW	テン	上腕骨	L	遠位端
	-	貝層10GE下層	テン	踵骨	R	
	-	貝層10GE下層	テン	距骨	R	
	-	貝層10GS下層	テン	下顎犬歯	L	C
	-	貝層10QS	テン	下顎前臼歯	L	P3
	-	貝層04a	テン	上顎前臼歯	R	P4
	-	貝層09	テン	下顎前臼歯	R	P3
	-	貝層09	テン	下顎前臼歯	R	P4

確認。貝層05・09・10に集中する。うち15点に植立歯が認められ、1点は乳臼歯(p1 p2 p3 M1)を持つ(写真図版132)。下顎骨では関節突起を持つもの8点があり、うち2点で関節突起前位にカットマークが観察される。また左右連合部を持つもの3点が含まれる。腹側が打ち割られた下顎骨が多く、骨髄採取の痕跡と捉えられる。椎骨は環椎3点、軸椎1点を含め22点を確認。下顎骨と同様に貝層05・09・10に多い。

肩甲骨は右14点、左9点の合計23点がある。このうち16点は関節窩を含み、内側遠位端付近にカットマークを持つものがある。上腕骨は28点の出土。貝層09から13点出土しており最も多い。骨頭・大結節を含めた近位端6点、遠位端10点を含む。遠位部6点で後位面にカットマークが観察され腕の切断に伴うものと考えられる。

橈骨は右14点、左6点の20点で、やはり貝層09・10に多い。遠位端未癒合が1点ある。また、ほぼ全ての上腕骨、橈骨割れ口はスパイラル状を呈しており、打割されたことを示す。尺骨は右5点、左4点を同定した。肘頭後位が未癒合の尺骨を含む。手根骨は各部位の合計で14点を確認。うち2点で焼成の痕跡が観察される。中手骨は貝層09・10他から合計20点の出土。骨幹部のみ残存する中手骨8点については前位面溝の形状で中足骨と区別した。また、遠位端滑車のみ残存する骨は中手骨・中足骨の区別ができないため集計から除外した。近位端・遠位端を持ち左右の判断ができる中手骨は右が1点、左が4点である。遠位端を持つ中手骨7点のうち5点では滑車が未癒合である。

寛骨は右8点、左6点の合計14点。11点は寛骨臼を持つ。大腿骨は17点があり、このうち左右の区別が確定できない骨頭3点を除き、右8点、左6点を確認した。骨頭・遠位端滑車部が未癒合の大腿骨は合計4点を数える。

脛骨は右20点、左13点の合計33点が出土した。遠位端1点、近位端2点は骨端未癒合の骨である。なお、寛骨・大腿骨・脛骨ともに右肢が多くなるが、出土地点が揃うものではないため偶然の結果と思われる。踵骨8点は左右とも4点ずつ出土した一方で、距骨7点はいずれも右である。足根骨は各部位の合計で7点あり、うち2点が焼成を受ける。中足骨は右14点、左9点を含む合計36点で、四肢骨のうち最も多い数を同定している。12点は骨幹部、ないし遠位端滑車部の残存で左右の区別は行っていない。中足骨は3点で被熱黒変痕跡が観察される。また、1点で近位端付近にカットマークを持つ。指骨は基節骨25点、中節骨33点、末節骨18点があるが、左右、前後の区別はしていない。

[イノシシ] ニホンジカ・イヌに次いで多い種である。貝層09・10に多く、ニホンジカと異なり貝層04では比較的少ない。頭骨・上顎骨・下顎骨・遊離歯・環椎・軸椎・頸椎・胸椎・肩甲骨・上腕骨・尺骨・橈骨・第三手根骨・第四手根骨・橈側手根骨・尺側手根骨・第二中手骨・第三中手骨・第四中手骨・寛骨・大腿骨・脛骨・腓骨・踵骨・距骨・中心足根骨・第三足根骨・第二中足骨・第三中足骨・第四中足骨・基節骨・中節骨・末節骨の合計245点を同定した。右距骨からMNIは6である。

頭骨は頭頂骨・眼窩部・後頭骨・側頭骨・頬骨の合計10点が貝層10・04、及び貝層01から近距離にあるB区⑤b包含層から出土している。上顎骨は右7点、左5点の合計12点を同定した。頭骨と同様に貝層10・04、B区⑤b包含層出土で、全て植立歯を持つ。このうち乳臼歯(m1・m2・m3)段階が4点、M3の未萌出段階が2点含まれる。下顎骨は右4点、左5点、左右連合部1点の合計10点を確認した。5点で植立歯が残存する。M1未萌出は1点である。関節突起を持つ下顎骨は2点があり、腹側を打割された骨が多いのはニホンジカと同様である。

遊離歯は切歯9点(右上I 2:2点、右下I 1未萌出:1点、左下I 1未萌出:1点等)、犬歯3点(右下C未萌出:1点、左上C予:2点)、臼歯21点(上顎臼歯:11点、下顎臼歯:10点)がある。下顎臼歯のうち8点は未萌出の前臼歯・後臼歯歯冠で、下顎骨が破壊された際に分離したものと考

第38表 ニホンズカ集計表(1)

大塚	遺物	種別	上層		中間		下層		遺物	上層		中間		下層		遺物	上層		中間		下層				
			L	R	L	R	L	R		L	R	L	R	L	R		L	R	L	R	L	R	L	R	
東野山古墳	B区	銅鐸	1																						
		土器	32a																						
		土器	32b																						
		土器	32c																						
		土器	32d																						
		土器	32e																						
		土器	32f																						
		土器	32g																						
		土器	32h																						
		土器	32i																						
F区	①	土器																							
		土器	1																						
		土器	2																						
		土器	3																						
		土器	4																						
		土器	5																						
		土器	6																						
		土器	7																						
		土器	8																						
		土器	9																						
G区	②	土器	2																						
		土器	3																						
		土器	4																						
		土器	5																						
		土器	6																						
		土器	7																						
		土器	8																						
		土器	9																						
		土器	10																						
		I区	③	土器	1																				
土器	2																								
土器	3																								
土器	4																								
土器	5																								
土器	6																								
土器	7																								
土器	8																								
土器	9																								
東原上	南上ノ区			土器	1																				
		土器	2																						
		土器	3																						
		土器	4																						
		土器	5																						
		土器	6																						
		土器	7																						
		土器	8																						
		土器	9																						
		日野	貝塚	貝塚	1	5	1																		
貝塚	2																								
貝塚	3																								
貝塚	4																								
貝塚	5																								
貝塚	6																								
貝塚	7																								
貝塚	8																								
貝塚	9																								
貝塚	10																								
日野	貝塚	貝塚	1	2	1	2																			
		貝塚	2																						
		貝塚	3																						
		貝塚	4																						
		貝塚	5																						
		貝塚	6																						
		貝塚	7																						
		貝塚	8																						
		貝塚	9																						
		貝塚	10																						

第41表 インシジ集計表(2)

大塚	地名	種別	種名	大塚集		原産		調査		調査		調査		調査		調査		調査		調査							
				L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R				
大塚	高野山分館 田代	植物 雑草	35a 目録上層																								
			35b 目録中層																								
			35c 目録下層																								
			35d 目録上層																								
			35e 目録中層																								
F区		植物 雑草	41a 目録上層																								
			41b 目録中層																								
			41c 目録下層																								
			41d 目録上層																								
			41e 目録中層																								
			41f 目録下層																								
G区	赤 橋北	植物 雑草	43 1-目録																								
			43 2-目録																								
			43 3-目録																								
			43 4-目録																								
			43 5-目録																								
			43 6-目録																								
			43 7-目録																								
			43 8-目録																								
			43 9-目録																								
高野山 上層	SN14	雑草	目録1																								
			目録2																								
			目録3																								
			目録4																								
			目録5																								
			目録6																								
			目録7																								
			目録8																								
			目録9																								
			目録10																								
			高野山 下層	目録11	雑草	目録11																					
目録12																											
目録13																											
目録14																											
目録15																											

られる。

椎骨は環椎3点、軸椎3点、頸椎6点、胸椎5点を同定した。胸椎のうち3点は棘突起部の破片である。環椎1点にはイスの痕跡が観察される。肩甲骨は右5点、左3点の合計8点があり、うち7点は関節窩部分を含む。1点関節窩付近にカットマークを持つ。上腕骨は右2点、左4点の合計6点で、全て遠位端側の骨である。ニホンジカ同様にスパイラル状の割れ口となっている。橈骨は右4点、左2点、尺骨は右5点、左4点の合計9点である。尺骨のうち7点は滑車切痕を含み1点でカットマークが観察される。手根骨は各部位骨の合計で8点があり、個々はほぼ完存する。中手骨は第二：3点、第三：4点、第四：5点の出土。前肢も貝層09・10出土が主体である。

寛骨は左1点のみ確認。大腿骨は右遠位端、右近位端、左遠位端各1点がある。右遠位端は骨端部未癒合である。脛骨は右3点、左6点の合計9点を同定した。このうち6点は遠位端の破片。腓骨も左遠位端を1点確認している。踵骨は右3点、左1点、距骨は右6点、左2点の出土。このうち踵骨1点では後面にカットマークが観察された。腱を外す際の切痕と考えられる。また距骨では2点に被熱痕跡が認められた。距骨はいずれも完存状態である。足根骨は中心足根骨6点、第三足根骨4点がある。足根骨も完存している。中足骨では近位端関節面の形状により第二～四中足骨を区別した。第二：3点、第三：4点、第四：2点の出土。指骨は基節骨30点、中節骨45点、末節骨28点があるが、左右、前後の区別はしていない。

[イス] ニホンジカに次いで多い282点がある。頭骨(頭頂骨・側頭骨・頬骨・後頭骨・前額骨・鼻骨・聴胞)・上顎骨・下顎骨・遊離歯・環椎・軸椎・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・第二中手骨・第三中手骨・第四中手骨・第五中手骨・寛骨・大腿骨・脛骨・腓骨・踵骨・距骨・足根骨・第二中足骨・第三中足骨・第四中足骨・第五中足骨・基節骨・中節骨・末節骨を同定した。出土は貝層10とこれに近接する遺物包含層G区⑧に集中しており、これ以外では貝層04・09・12に数点ずつが出土する程度となっている。貝層10での出土状況はIV2(8)、及び第60図に示したように南東部の径12m程度の範囲内に集中する。第42表で貝層10QE下層としたものがこれに該当し、この範囲での同定標本数は125点と約半数を占める。なお、イス骨ではカットマークは一切観察されず、人間による解体は行われていないと判断している。

頭骨は頭頂骨・側頭骨・後頭骨・頬骨他に分離した状態で、頭頂骨と後頭骨を接合できたものは1点のみである(写真図版136)。他は時間的な制約のため接合作業を徹底できていない。上顎骨は右6点、左4点の10点を確認した。全て植立歯が残り、うちP4は9点、M1は8点で認められる。下顎骨は右13点、左10点の合計23点を同定している。上顎骨同様に植立歯を残すものが多く、P4・M1・M2は15点で見られる。左右のペアリングについては、複数の組み合わせを抽出できる可能性があるが、観察が徹底していないためここでは記載しない。また犬歯歯槽部分から吻端が破損して残存しないものが多く、下顎骨最大長の計測は行っていない。

イス歯牙について、上顎骨・下顎骨の植立歯、遊離歯を合計・集計した結果を第44表に示す。植立歯91点、遊離歯86点の合計177点を確認した。貝層10のみの出土で、貝層10を4分割した場合には当然ながらイス骨が集中するQEに集中する。集計結果では下顎左M1・M2、下顎右M2をそれぞれ9点検出しており、歯牙から判断した場合のMNIは9とカウントされる。

椎骨は環椎3点、軸椎8点、頸椎13点、胸椎16点、腰椎23点、仙骨3点を同定した。椎体のみ、あるいは棘突起の破片は可能な範囲で同定対象としている。肋骨はイス程度の中型獣に由来すると考えられる破片が多数得られているが、種の同定に至らず集計していない。

肩甲骨は左右3点ずつの合計6点である。四肢骨に比べると残存状態は不良で、関節窩周囲の骨体

頭椎1点・椎体1点・左足根骨(舟状骨)1点・左第四中足骨1点・左上顎第1大臼歯冠1点・四肢骨の一部の破片2点である。この他、第三中足骨に穿孔を加えた垂飾品(骨角器d31)がある。南側貝層集中域では貝層09で左大腿骨1点、貝層04cに左上顎第2小臼歯・右上顎第2乳臼歯冠が各1点、貝層07に近接するB区④bⅡ層下部から脛骨(?)破片1点が出土した。このうち、貝層10QE出土人骨についてはイヌ骨と共存する位置関係にあり、ある程度の各部位骨がまとまっていることから、埋葬人骨の可能性を想定している。

頭骨は現場でピックアップした個頭骨に加え、水洗選別で得られた頭頂骨・前頭骨が接合し、頭蓋左側の状態が確認できる。矢状縫合・冠状縫合・ラムダ縫合で破損する。いずれの縫合も癒合していない。個頭骨の乳様突起、前頭骨の眉上隆起共に発達程度は弱いとみられ、女性の可能性がある。なお、外面を溝状、網目状に荒れて窪んだ傷様の痕跡が覆う。病変ではなく埋没後に生じた痕跡と考えられるが正確な成因は不明である。同様の痕跡を持つ後頭骨破片も出土しており、同一個体と考えられる。頭骨に近い位置から出土した上顎M1は歯根が3本残存する。咬合面は咬耗が極度に進行し象牙質が広く露出している一方で、歯髓腔の退縮が進んでいない状態(写真図版138X線画像)から壮年段階と捉えられる。

上腕骨は近位端骨頭外側、遠位端滑車外側の一部が欠損するのを除けばほぼ完存に近い。近位端、遠位端ともに骨化は完了しており、年齢は20歳以上と判断される(松井2008)。また、三角筋粗面の発達が弱い点から女性の可能性が高いとみられる。GLは293.5mm。

椎骨のうち頸椎と判断したものは横突起、横突孔部分の破片で、表面の多孔質な状態から人骨と判断した。椎体は頸椎、胸椎のいずれも可能性がある。舟状骨はほぼ完存の状態である。第四中足骨は中央から遠位側を欠損する。

南側貝層出土歯冠のうち上顎右第2乳臼歯d m 2は、直線距離で6m程度離れた貝層04cと貝層06から分かれて出土した破片が接合した。貝層04cでは他に上顎左第2小臼歯P2がある。他にこの付近からの骨の出土としては貝層09の左大腿骨遠位部、B区④bⅡ層下部出土の脛骨(?)破片があるが、近接したまとまりはないことから、埋葬人骨かどうかは判然としない。

第46表 人骨属性表

No.	出土地点	部位	左右 上下 側式 特徴	備考	
252-2	貝層09(F区②)	大腿骨	R	遠位部 後面側面短辺	貝層選別試料
309-1	B区④bⅡ層下部	脛骨か	不明	遠位部	貝層選別試料
384-1	貝層04c(B区③b)・貝層06(D区②b)	歯冠(乳臼歯)	R 上 dm2	近位心径:890 頬舌径:775	貝層選別試料
385-1	貝層04c(B区③b)	歯冠(小臼歯)	L 上 P2	近位心径:760 頬舌径:855	貝層選別試料
1016-3	G区③(Ⅱ層上部)・貝層10QE上層	頭頂骨+前頭骨+側頭骨	L	矢状縫合・冠状縫合・ラムダ縫合未癒合 側頭骨乳様突起・眉上隆起未発達	目視試料 同化取り上げ
1178-20	貝層10QE下層	第四中足骨	L	近位端	貝層選別試料
1247-1	貝層10QE東縁(G区②)	四肢骨の一部か		骨幹部	貝層選別試料
1248-1	貝層10QE	上腕骨	R	近・遠位端の一部を除きほぼ完存 GL:293.50	目視試料 同化取り上げ
1249-1	貝層10QE	四肢骨の一部か		骨幹部	貝層選別試料
1250-1	貝層10QE上層	歯冠(大臼歯)	L 上 M1	咬耗進行 近位心径:1045 頬舌径:925	貝層選別試料
1252-1	貝層10QE上層(A)	足根骨(舟状骨)	L	完存	目視試料 点取り
1252-1	貝層10QE上層(A)	椎骨		胸椎椎体か	目視試料 点取り
1253-1	貝層10QE上層(B)	頭蓋			目視試料 点取り
1254-1	貝層10QE下層	第三中足骨	L	近位端 穿孔あり	骨角器(d31)同載

5 古代～近世の遺物

(1) 土師器・須恵器

南側調査区の1層～遺物包含層上部にかけて散在し、図示した4点以外には土師器甕胴部破片等の数点の出土を確認している。e1は土師器坏口縁部片で内面黒色処理がなされる。e2はあかやき土器の坏底部で底面は回転糸切り。e3は須恵器坏底部で底面回転糸切り、e4は須恵器甕胴部破片である。9～10世紀代の遺物とみられる。

なお、今回の調査区内では古代に帰属する可能性がある遺構は検出していない。長谷家具塚全体で見つかった場合には、堅穴住居跡等の遺構が第11次・15次調査区等の西側にまとまって検出されている。また、岩手県立博物館所蔵巖手刀（高橋・赤沼1984）は遺跡南西側の畑地出土とされる。今回の調査区を含む遺跡東側では古代の遺構・遺物ともに希薄な状況である。

(2) 陶磁器

常滑産陶器片e5がG区⑫から出土している。灰黄色を呈する壺胴部破片である。12～13世紀代の製品とみられるが確定は難しい。中世陶器はこの1点のみ確認した。大船渡市周辺では上藤生遺跡で12～13世紀代の常滑・渥美産陶器が出土している（岩手県埋蔵文化財センター1997）。また、大船渡市赤崎町に13世紀代の板碑が集中的に分布する（岩手県立博物館2015）。本資料の出土との直接的な関連は不明だが、該期の製品が流通する下地の存在が想定される。

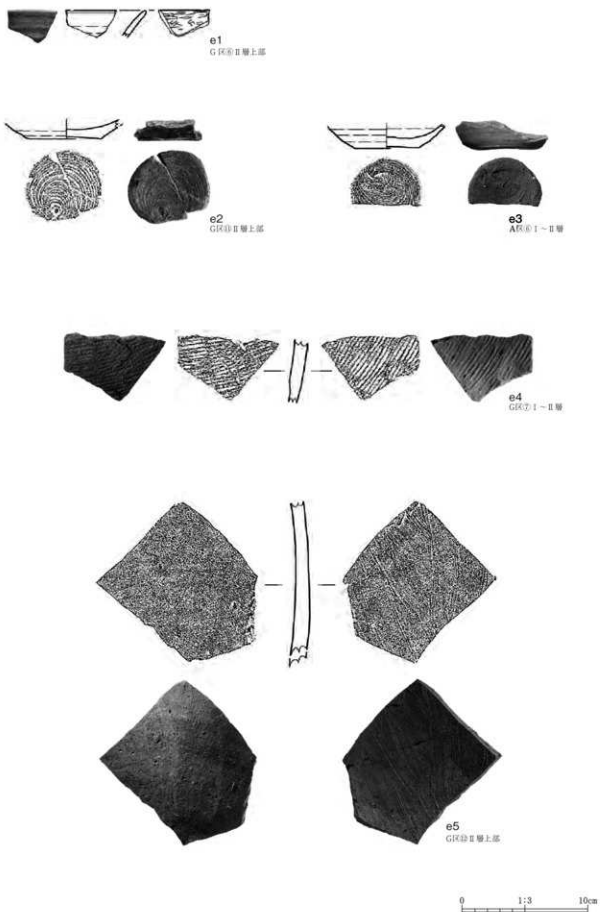
他はいずれも近世後半～近代にかけての陶磁器類で、調査区北端のH・J区に偏在する。南側の調査区からは明治期以降の陶磁器類小片の出土があるが図示していない。近世遺構内、及びその周辺から肥前産磁器染付碗皿類・蕎麦猪口、瀬戸美濃産陶器鉢・皿等が出土している。

(3) 動物遺存体

近世以降の所産とみられる動物遺存体としてウマ歯の出土がある。分布はB区・F区北端の遺構密集域、及びG区・I区中央部で、いずれも表土直下の層から出土したものである。粗掘作業段階で現道路盤を除去した際に見つかったものが多く、近現代の可能性が高いとみられる。比較的残存状態の良い歯では上顎右P2が2点、上顎左P2が1点確認される。歯以外の骨は検出していない。飼養馬の遺骸を畑地に埋めた可能性があると考えられる。

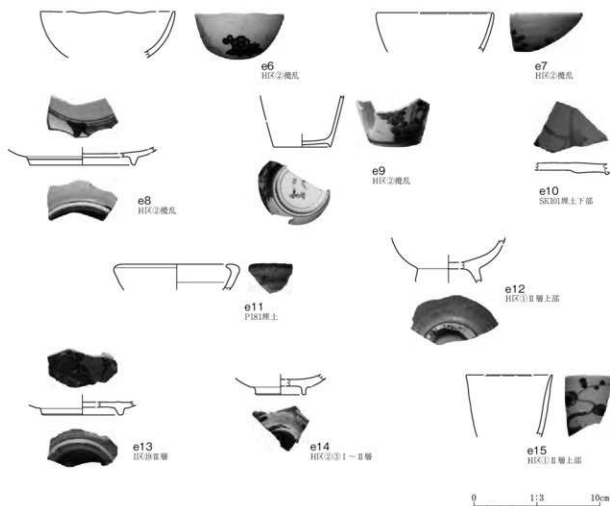
第47表 ウマ歯属性表

No.	出土地点	部位	左右	上下	特徴	備考
45-1	B区⑩西半I～II層	白歯	L	上	P2	目視試料
45-2	B区⑩西半I～II層	白歯	R	上	P3～M2特定不能	目視試料
45-3	B区⑩西半I～II層	白歯	L	上	P3～M2特定不能	目視試料
290-1	F区北端I～II層	白歯	R	上	P2	目視試料
1025-1	G区⑬I～II層上部	白歯	不明		咬合面欠失	目視試料
1043-1	G区⑬I層	白歯	R	上	P2	目視試料
1302-1	I区⑬I～II層	白歯	不明		歯冠破片	目視試料



第208図 古代土器・陶磁器(1)

5 古代～近世の遺物



第209図 古代土器・陶磁器(2)

第48表 古代土器・陶磁器観察表

No.	出土地点	種類	部位	産地	年代	特徴	計測値 (cm)	登録番号
e1	G区⑥Ⅱ層上部	土師器環	口縁部		9C後半	ロクロ整形 内面黒色処理・ミガキ	器厚0.5	D003
e2	G区⑥Ⅱ層上部	土師器環	底部		9C後半～10C前半	あかやき土器 底面回転糸切 無調整	底径6.2	D001
e3	A区⑥Ⅰ～Ⅱ層	須恵器環	底部		9C後半	底面回転糸切 無調整	底径5.8	D002
e4	G区⑦Ⅰ～Ⅱ層	須恵器類	胴部		9C後半～10C前半	外面タタキ目 内面当て具 敷色調：黄灰色	器厚0.8～1.1	D004
e5	G区⑥Ⅱ層上部	陶器壺	胴部	常滑	12C	外面ケズリ 内面十字色調：灰黄色 石英粒含	器厚1.1～1.3	D005
e6	Ⅱ区②機丸	細器染付碗	口縁部	不明	19～20C	輪花碗	口径10.6	D007
e7	Ⅱ区②機丸	細器染付碗	口縁部	肥前	18C	草花文	口径9.3	D009
e8	Ⅱ区②機丸	細器染付皿	底部	肥前	18C		底径8.3	D008
e9	Ⅱ区②機丸	細器染付銚麦器口	底部	肥前	18C	裏銘「大明年製」	底径4.6	D006
e10	SK301埋土下部	細器染付皿	底部	肥前	18C	蛇の目凹高台 よろけ編文		D010
e11	P181埋土	陶器鉢	口縁部	不明	不明	灰釉	口径10.0	D011
e12	Ⅱ区①Ⅱ層上部	陶器碗	底部	瀬戸美濃	18～19C	灰釉	底径5.5	D013
e13	Ⅰ区③Ⅱ層	陶器皿	底部	瀬戸美濃	18～19C	陶胎染付	底径6.5	D014
e14	Ⅱ区②③Ⅰ～Ⅱ層	細器染付碗	底部	肥前	18C	草花文	底径4.0	D015
e15	Ⅱ区①Ⅱ層上部	細器染付銚麦器口	口縁部	肥前	18C	草花文	口径6.8	D012

V 総 括

1 縄文時代の集落

(1) 集 落 構 造

これまで主に中央部～西側の調査が先行して進められてきた長谷堂貝塚において、今回の2箇年にわたる東側を南北に縦断する形で実施した調査により、遺跡東側の内容が判明した。ここでは大掴みに時代順の変遷、及び遺構遺物のボリュームが最大となる縄文中期後葉の集落について、隣接する調査区の過去の調査内容を含めた、全体の集落構造について概観する(第210・211図)。

今回の調査区内では、南側のSI01を中心としたエリアにおいて中期前葉大木7a～7b式段階の集落が形成されるのが最も古い段階である。次いで中期中葉大木8a～8b式段階では明確な居住施設は持たないものの、遺物分布域は北上、拡大する。中期後葉大木9～10式段階が急激に集落規模が増大し、特に調査区中央部において住居が集中的に作られる。遺構密集域の南側と北側には貝層を伴う濃密な遺物包含層が分布する。後期初頭～前葉ではやや北側に遺構、遺物の重心が移動し規模は縮小する。この中には中期後葉に引き続き設置される配石遺構や掘立柱建物群が含まれる。後期中葉以降はこの一帯は希薄な状態となり、長谷堂貝塚の集落中心は西側に移動する(鈴木2009)。

中期後葉の集落に関しては、今回の調査区南西に位置する県営住宅建設に伴う第4・6・8・10次調査区において、中央に広場を持ち、これを遺構の種類ごとに同心円状に囲む集落の構造が想定されている(阿部2005)。今次調査の成果をこれに合成すると、B・F区北半～G・I区南東半の遺構密集域、その外縁部にB・F区南半、G・I区北西部の遺物包含層、貝層分布があることから、この同心円構造が北東部でもほぼ当てはまることがわかる(第211図)。

縄文中期集落の中央広場を囲む環状配置は、各地域の拠点集落において顕著にみられる現象である(酒井1991)。これまでの調査内容を総合すると、長谷堂貝塚は縄文中期後葉の大船渡湾奥における拠点集落に位置づけられるのは確実であり、集落の空間構成にも現れていると考えられる。

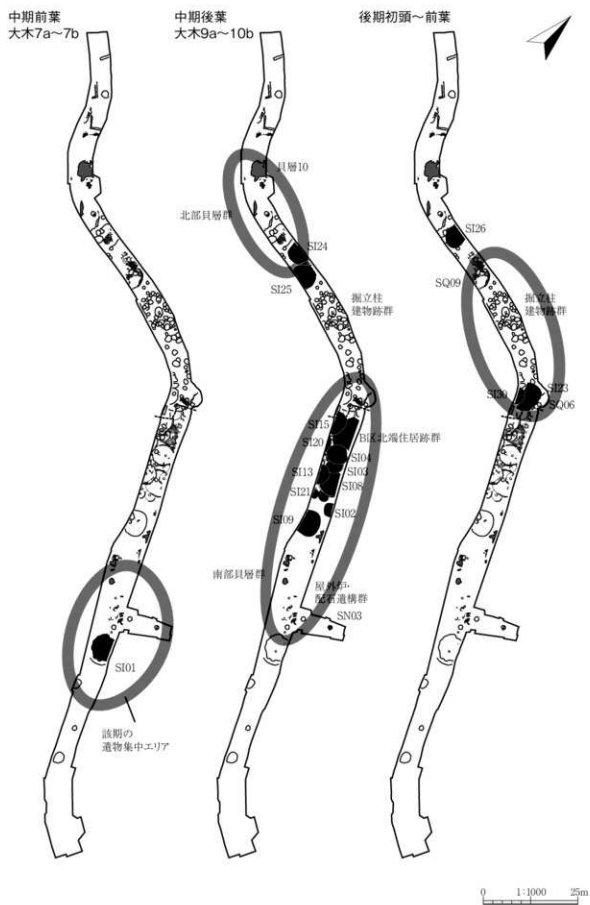
(2) 敷石住居と配石遺構

続いて、壁際の石列と中央の敷石が特徴的なSI25住居跡をとりあげる。大木10式段階と判断したSI25の竪穴と重複するSQ09の敷石についてはIV章では個別に報告したが、位置関係から見ても両者の関連がないとは考えにくいことから、改めて一体の敷石住居跡と解釈したい(第38図)。

設置された敷石のうち、北西部敷石はある程度大きさを揃えた扁平礫を重なりが少なくなるように並べた状態で、礫による平坦面を作りだそうとする意図を感じさせる。中央敷石は長楕円形扁平礫の長軸を揃えて平行に置くことで設置された状態である。これもある程度の規格性を窺わせる。東壁際石列は竪穴掘り方壁面に沿って礫下部を埋め込むように配列される。また、中央敷石下位には焼成面は全く観察されず、灰跡を持たない可能性が高い。こういった状況を踏まえれば単に廃屋の窪地を利用した配石、もしくは住居廃絶儀礼の一環としての配石設置という見方よりも、当初から通常の居住用竪穴とは異なった礫を伴う施設として構築されたと捉えるべきかと考えられる。

SI25と類似した特徴を備える、岩手県域における敷石、石列を伴う竪穴住居の事例を第212図に示した。今回のSI25以外は後期初頭から中葉の時期が与えられている。壁際の石列は長谷堂1971年調査敷石住居跡、板倉遺跡SI-01住居跡と共通する。また、北西側に張り出す敷石は扇畑Ⅱ遺跡IⅡc6住

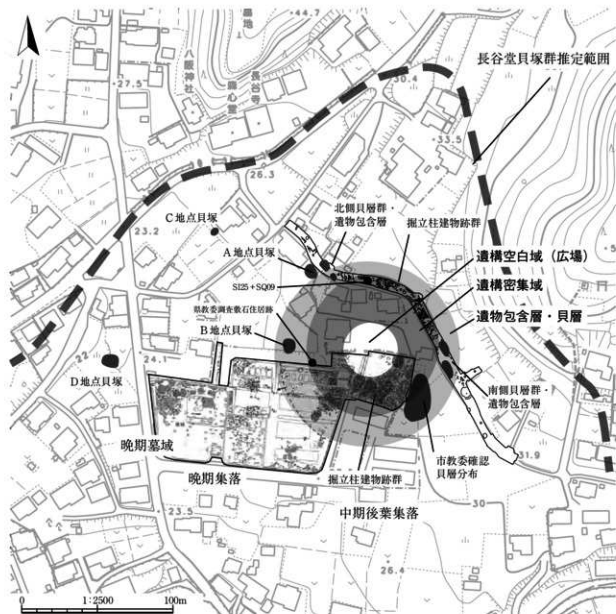
1. 縄文時代の集落



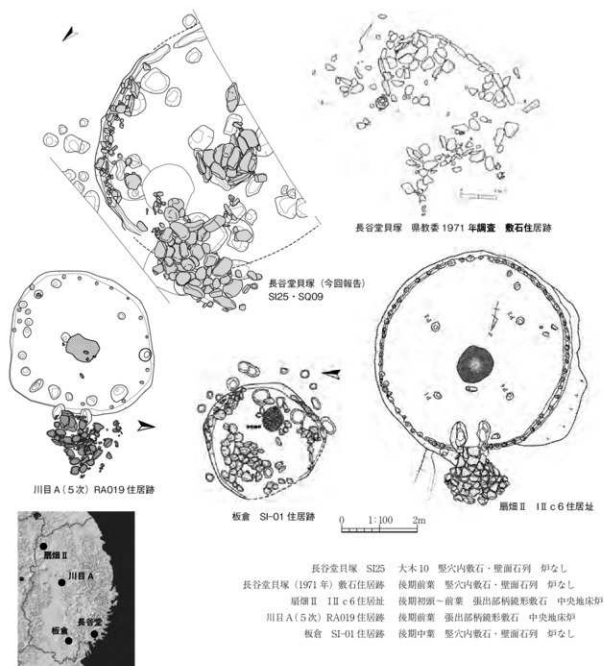
第210図 縄文時代遺構分布変遷

居址、川目A遺跡（5次）RA019住居跡に見られる柄鏡形敷石と同種の施設と推定できる。扇畑Ⅱ、川目A例は中央に地床炉を持つ竪穴であり、この点はSI25と異なる。一方、長谷堂、板倉例は壁隙石列と火処を持たない点でSI25と共通する。これらの中で最も時代が遡るとみられるSI25に含まれる諸要素から、個別に承諾を辿れる可能性があるが、当地域のみを対象とした場合には類例の少なからずから確定するには至らない。東北地方南部、関東を含めた敷石住居の広域的な変遷過程の上に位置づけるべきかと思われる。

この遺構と同時期、もしくは若干後続する段階と考えられるのがSQ06の細長い扇形を呈する配石遺構である。SQ06はSI23の中央で検出された極めて特殊な形状を持つ配石で、SI25+SQ09とは異なり、住居廃絶後の何らかの動機によって設置されたものとみられる。具体的な内容については想像の域を出ないが、廃屋を舞台とした儀礼的な行為が行われた可能性があると考えている。これに類似した形状を持つ配石遺構は管見では検索できていないものの、他地域も含めて廃屋に構築された配石との類似性、差異を確認する必要がある。



第211図 長谷堂貝塚の縄文中期後葉集落構造



第212図 岩手県域の敷石住居跡

(3) 生業活動

南北に集中する貝層群からは前述のようにアサリを主とした貝類、魚類、哺乳類からなる良好な動物遺存体が多量に得られた。ここではその内容、量比から縄文中期後葉の食料資源確保の状況を再確認する。

貝類ではアサリが圧倒的多数を占め、次いでウミナが多い。マガキ、スガイ等の岩礁・礫域に生息する貝類も採集の対象としているが、貝類の組成からは、専ら直線距離で1km程度の近隣にある大船渡湾奥、盛川河口域の潮間帯における採貝活動が行われていたことを示す。これまで長谷堂貝塚で調査された各時代の貝層出土動物遺存体から確認されている状況 (岩手県教育委員会1972、岩手県理

蔵文化財センター2004、大船渡市教育委員会2018ほか)と何ら変わることはなく、縄文時代中期から晩期に至るまで同様の傾向にあることが見て取れる。

魚類は同定した魚上綱椎骨数(第29表)から判断して、漁撈活動の主たる対象は淡水域のコイ科・ドジョウ科・アユ、遡河性のサケ属、岩礁を生息域とするアイナメ・マアジ属、沿岸回遊魚のマイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシ・マサバを挙げることができる。特にイワシ類、サケ属、サバ類が突出して多い。サケ属は椎骨片、遊離歯の同定がほとんどで、実態より過大に評価している恐れを残すが、遡上する季節には河口において集中的な捕獲が行われた可能性が考えられる。

哺乳類、鳥類ではニホンジカ、イノシシが量的には大多数を占める。これ以外に鳥類ではキジ科、哺乳類ではノウサギ、ムササビ、テン等の数量が若干目立つものの、主たる食料資源の一つがニホンジカ、イノシシであったことは確実に捉えられる。

三陸沿岸の貝塚資料の検討により、松崎(2017)は縄文前期後半から中期前半におけるマクロ属等の大型回遊魚を対象とした季節的な漁撈活動に依存した状況から、漁獲量の減少によって中期後半にはサバ属、アイナメ属等の沿岸小型回遊魚、定住性魚類を対象とした漁撈活動への転換、また、ニホンジカ、イノシシを対象とした狩猟の活発化へ変化する状況を明らかにした。今回得られた動物遺存体試料群はこうした変化を裏付け、さらに湾奥域における動物資源利用の特徴を典型的に示しているものと評価することができよう。

(4) 人 犬 合 葬

食料資源以外の動物遺存体として、イヌ骨試料のまとまりが挙げられる。貝塚10の南東部で検出したイヌ骨は9個体分の遺骸が径1.2mの範囲に集中し、IV章で記載したように四肢骨左右、下顎骨左右が接する部分が多い点、切痕、破砕痕跡は観察されない点から、解体が行われた可能性は小さい。ごく浅い土坑、もしくは単なる平坦面に遺骸を集めた「埋葬」が行われ、解剖学的な原位置を留めた状態から貝塚形成時に散乱状態へと変化したものと考えている。更に、人骨がイヌ骨と重複した範囲から出土した。出土レベルはイヌ骨より若干上位である。頭骨、上腕骨が同一人物に由来するか定かではないが、1個体分の可能性が高いとみている。

こうした状況から、複数の飼養犬と一人の人物を同時期に埋葬した合葬の可能性が推測されるが、相原(2011)は各地で合葬と報告されている場合でも出土状況の検討によっては「同時に」埋葬されたことを積極的に肯定できる状況ではない、としている。今回報告する事例も、同時埋葬の可能性、犬の埋葬域へ後から人を埋葬した可能性、偶然に犬の埋葬域と人の埋葬域が重複した可能性、いずれとも確定することは難しい。また、9頭の犬が同時に埋葬されたかどうかの再確認も必要である。骨からの個体判別を前提とした出土状況の再検討を課題として残している。

2 ま と め

今回の長谷堂貝塚第16・17次調査で明らかとなったことを以下に時代順に列挙する。

【縄文中期前葉】 それまで空白域であったエリアに新たに集落が出現する。調査区南側にSI01ほか複数の遺構、遺物包含層が形成される。

【縄文中期中葉】 いったん遺構数、遺物出土量は減少するが分布範囲は北に拡大する。この時期と特定できる住居跡は検出していない。

【縄文中期後葉】 調査区中央部を中心として、多数の堅穴住居、土坑、掘立柱建物等からなる集落が

形成される。西側に隣接する第10次調査区で検出された環状に分布する遺構密集域の、東側を確認した状態である。遺構では特に住居跡の重複が著しく、同一エリアにおいて繰り返し家屋を建て替えた状況が窺われる。遺構密集域の外縁には濃密な遺物包含層、貝層が広がり、南側ではこれと重複して配石遺構群、屋外炉群が分布する。

遺物は器台を含む多量の土器をはじめとし、石器では黒曜石製剥片石器、小型棒状で形態に規格性を持つ磨石、大型の石棒槌、軽石製の人面を表現した石製品等が特筆される。黒曜石の多さは他地域との活発な交流を示す。骨角器では小型の釣針・釣針未製品、刺突具がまとまって得られたほか、類例の少ないツキノワグマ中足骨・ムササビ切歯・ヒト中足骨に穿孔を加えた垂飾品がある。これらの多様な遺物群からも、大船渡湾奥における該期の拠点集落として機能していた状況が窺える。

アサリ・ウミナを主とする貝層出土の動物遺存体ではイワシ類・サバ属・サケ科等の沿岸小型回遊魚、遡河性魚類を主な対象とした漁撈、ニホンジカ・イノシシを主な対象とした狩猟活動が行われていたことが明らかとなった。貝層の一面には人火合葬の可能性がある骨の集中域を検出している。【縄文後前期業】遺構分布域は狭まり中期後葉の集落中心部から若干北側に移動する。遺物量も減少する。この中には廃屋内の特殊な配石遺構(SQ06)、掘立柱建物群等が含まれる。

【縄文後期中業～晩期】遺物量は極端に減少する。遺構では調査区北側に晩期中業の堅穴住居(SI27)が検出された。

【弥生時代】前期土器片1点の出土がある。明確な遺構は確認されない。

【平安時代】土師器・須恵器数点の出土がある。明確な遺構は確認されない。

【中世】12～13世紀代の常滑産陶器片1点の出土がある。

【近世】調査区北端で18世紀以降の民家跡とみられる柱穴群、溝跡、石垣状の配石遺構などがあり、陶磁器類、ウマ歯等が出土した。

最後に、担当者の能力不足等によって、2年間の調査を通して得られた多様な資料群の検討、本来には必要と考えられる科学分析等を十分に行い得ないまま本報告を作成しており、引き続き機会を得て補足していきたい。

引用・参考文献

【論文等】

- 相原淳一 2011 「宮城県気仙沼市前浜貝塚土壌墓の再検討-特に、埋葬人骨と犬骨の関係について-」『東北歴史博物館研究紀要』12 19-27頁
- 阿部勝則 2001 「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」『紀要』20 (財) 岩手県埋蔵文化財センター 1-10頁
- 阿部勝則 2004 「縄文時代中期の三角埴形土製品・三角埴形石製品について-岩手県内出土事例の検討-」『紀要』23 (財) 岩手県埋蔵文化財センター 23-40頁
- 阿部勝則 2005 「大船渡市長谷身塚における縄文時代中期の集落構造-掘立柱建物跡の検討を中心に-」『紀要』24 (財) 岩手県埋蔵文化財センター 13-32頁
- 阿部 永 2000 『日本産哺乳類頭骨図説』北海道大学図書行会
- 内山純哉 2010 「人と動物の関わりあい③ シカ・イノシシ」『縄文時代の考古学』4 同成社 167-179頁
- 内山幸子 2014 「イヌの考古学」ものが語る歴史30 同成社
- 江坂輝也・渡辺 誠 1988 『装身具と骨角製道具の知識』東京美術
- 小笠原雅行 2008 「円筒上層式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 344-351頁
- 奥谷尚司 (編) 2017 『日本近海海貝類図鑑』【第二版】東海大学出版部
- 落合 明 (編) 1994 『魚類解剖大図鑑』杜陵印刷
- 金子浩昌 1984 『貝塚の獣骨の知識』東京美術
- 金子浩昌・忍沢成規 1986 『骨角器の研究 縄文編Ⅰ・Ⅱ』慶友社

- 上條麻彦 1963 『日本人水久歯解剖学』アナトーム社
- 河村善也 2003 「哺乳類遺体②-小型哺乳類」『環境考古学マニユアル』同成社 179-191頁
- 河村善也・柳野博幸 1993 「両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類」『第四紀試料分析法2 研究対象別分析法』東京大学出版会 353-369頁
- 北田 勲 2002 「縄文時代の東北地方太平洋岸域における骨角製漁撈具の起源と伝播」『紀要』21 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 37-64頁
- 吉良哲明 1954 『原色日本貝類図鑑』保育社
- 工藤やよい 2008 「東北南部における縄文中期前半土偶の研究」『宮城考古学』10 113-128頁
- 熊谷常正 2017 「東北地方における縄文時代の動物遺体-三陸沿岸と北上山地のサカナたち-」『考古学ジャーナル』694 14-17頁
- 吉賀日香理・富岡直人 2014 「第3節 北小松遺跡出土イヌ遺存体(埋葬犬)」『北小松遺跡 第2分冊 分析編』宮城県文化財調査報告書第234集 73-85頁
- 小宮 孟 2015 『貝塚調査と動物考古学』同成社
- 酒井宗孝 1991 「岩手県における縄文時代中期の集落遺跡」『よねしろ考古』7 44-61頁
- 佐藤正彦 1996 「米谷沢司氏採集の骨角製釣針」『陸前高田市立博物館研究紀要』1 14-18頁
- 菅原弘樹 2003 「埋葬された縄文犬と飲した犬骨」『考古学ジャーナル』501 16-19頁
- 鈴木めぐみ 2009 「長谷堂貝塚の縄文時代における土地利用」『日々の考古学2』東海大学文学部考古学研究室編 79-94頁
- 高橋信雄・赤沼英男 1984 「岩手の古代武器に関する検討(2)-自然科学的手法による巖手刀の調査-」『岩手県立博物館研究報告』2 34-42頁
- 柳野博幸 2003 「哺乳類遺体①-大型哺乳類」『環境考古学マニユアル』同成社 171-178頁
- 寺田春水・森田恒夫 1968 『骨学実習の手びき』南山堂
- 橋本岳二 1994 「遺跡産魚骨同定の手引き(Ⅰ): 同定の考え方と手順」『動物考古学』2 23-38頁
- 橋本岳二 1995 「遺跡産魚骨同定の手引き(Ⅱ)-魚類の骨格構成と同定部位-」『動物考古学』5 11-38頁
- 中野幸大 2008 「大木7a-8b式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 352-359頁
- 西村正剛 1959 「岩手県大船渡市長谷堂貝塚」『日本考古学年報』8 日本考古学協会 46-47頁
- 丹羽百合子 1983 「解体・分配・調理」『縄文文化の研究』2 生業 雄山閣出版 103-121頁
- 秦 昭暁 1991 「特殊な剥離技法をもつ東日本の石筥-松原型石筥の分布と製作時期について-」『考古学雑誌』76-4-1-29頁
- 藤田恒太郎 1949 「歯の計測基準について」『人類学雑誌』61-1 27-32頁
- 松井 章 2008 『動物考古学』京都大学学術出版会
- 松岡廣幸ほか 2009 『島の骨殖』NTS
- 松崎哲也 2016 「東北地方における縄文時代前半期の貝類組成とその変遷」『動物考古学』33 1-15頁
- 松崎哲也 2017 「動物資源利用からみた三陸地方南部の縄文時代前・中期の生業形態」『宮城考古学』19 57-72頁
- 宮本真二・渡邊奈保子・牧野厚史・前畑政善 2001 「日本列島の動物遺存体記録にみる縄文時代以降のナマスの分布変遷」『動物考古学』16 61-73頁
- 森 幸彦 2008 「大木9・10式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 360-367頁
- 山内忠平 1958 「犬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』7 125-131頁
- 山崎京美・上野輝嗣 2008 「硬骨魚類の顎と歯」アート&サイエンス工房
- 山崎京美 2005 「狩猟技術の多様性⑤ イヌ」『縄文時代の考古学』5 同成社 210-220頁
- 山田晃弘 2005 「縄文時代のサケ-三陸沿岸から仙台湾周辺地域における検討-」『東北歴史博物館研究紀要』6 9-15頁
- 渡辺 誠 1973 『縄文時代の漁業』雄山閣出版
- Hillson S. (1992) Mammal Bones and Teeth. An Introductory Guide to Methods of Identification. The Institute of Archaeology, University College London
- Driesch A.D. (1976) A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites. Peabody Museum Bulletins, Harvard University
- FISH BONE ATLAS 遺跡から出土する魚骨同定のためのアトラス・データベース (<http://ba.matrix.jp/index.htm>) 2017.2.10

【発掘調査報告書等】

- 青森県教育委員会 2006 「東道の上(3)遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第424集
- 岩手県教育委員会 1972 「長谷堂貝塚-昭和46年度緊急調査報告書-」

2 まとめ

- 岩手県教育委員会 1998 『岩手の貝塚』岩手県文化財調査報告書第102集
- 岩手県立博物館 2015 『岩手県の板碑－沿岸部・和賀郡以北編－』岩手県立博物館調査研究報告書第31冊
- 岩手県埋蔵文化財センター 1982 『稲畑Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第39集
- 岩手県埋蔵文化財センター 1997 『上鷹生遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第253集
- 岩手県埋蔵文化財センター 1997 『飯倉遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第258集
- 岩手県埋蔵文化財センター 1999 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第296集
- 岩手県埋蔵文化財センター 2001 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第367集
- 岩手県埋蔵文化財センター 2004 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第434集
- 岩手県埋蔵文化財センター 2012 『川目A遺跡第5次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第589集
- 岩手県埋蔵文化財センター 2019 『内田貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第707集
- 大崎市教育委員会 2008 『東栗寄貝塚』宮城県大崎市文化財調査報告書第3集
- 大船渡市教育委員会 2001 『長谷堂貝塚群平成8・10・11年度緊急発掘調査報告書』
- 大船渡市教育委員会 2004 『平成13・14・15年度大割貝塚内容確認調査報告書』
- 大船渡市教育委員会 2005 『長谷堂貝塚群平成15年度緊急発掘調査報告書』
- 大船渡市教育委員会 2007 『長谷堂貝塚群平成17年度緊急発掘調査報告書』
- 大船渡市教育委員会 2016 『宮野貝塚平成23・24年度緊急発掘調査報告書』
- 大船渡市教育委員会 2017 『長谷堂貝塚群・丸森一里塚平成25年度緊急発掘調査報告書』
- 大船渡市教育委員会 2018 『長谷堂貝塚群平成26年度緊急発掘調査報告書』
- 大船渡市立博物館 1991 『気仙の遺跡』
- 東北歴史資料館 1986 『里浜貝塚V・VI』東北歴史資料館資料集15・19
- 北海道埋蔵文化財センター 2011 『天寧1遺跡(2)－町道改良地点－』北海道埋蔵文化財センター調査報告書第274集
- 宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚Ⅲ 骨角貝製品・自然遺物編』宮城県文化財調査報告書第111集
- 宮城県教育委員会 2014 『北小松遺跡』宮城県文化財調査報告書第234集
- 陸前高田市教育委員会 2001 『中沢浜貝塚発掘調査報告書－平成9年度発掘骨角部・自然遺物編－』陸前高田市文化財調査報告書第23集

写真図版



16次調査区中央 着手前



16次調査区南端 着手前



17次調査区中央 着手前



17次調査区北端 着手前



A区 (平成28年6月)



A区 (平成28年7月)



B区南半 (平成28年7月)



B区南半 (平成28年8月)



B区南半 (平成28年8月)



B区中央 (平成28年9月)



B区北半 (平成28年9月)



B区北端 (平成28年10月)



D区 (平成28年10月)



G区 (平成29年7月)



H区 (平成29年6月)



F区 (平成28年12月)



I区南半 (平成29年11月)



I区北半 (平成29年11月)



J区 (平成29年9月)



SI01東半全景 N→



SI01西半全景 NW→



SI01炉周辺 NW→



SI01炉断面 NE→

写真図版 4 竪穴住居跡 (1)



SI02全景 NW→



SI02全景 S→



SI02F SW→



SI02内シカ下顎骨検出



SI02内貝層06検出 SW→



SI03全景 S→



SI03-04重複部断面 S→



SI03-1・2号炉 W→



SI03-3号炉 S→



SI03-4号炉 SE→

写真図版6 竪穴住居跡 (3)



S104東半全景 NW→



S104西半全景 SW→

写真図版7 竪穴住居跡(4)



SI04東端断面 W→



SI04東半断面 S→



SI04西半断面 SE→



SI04-1号伊 W→



SI04-2号伊 SW→



SI04Pit11断面 W→



SI04焼土2 S→



SI04焼土3 N→

写真図版8 竪穴住居跡(5)



SI05断面 N→



SI05F NW→



SI06F N→



作業状況 SI08周辺 (平成28年10月14日)



SI08全景 NW→



SI08炉 W→



SI08全景 NW→



SI08伊断面 S→



SI08Pi7断面 N→



SI08Pi8断面 S→



作業状況 B区南半 (平成28年9月6日)



作業状況 B区北端 (平成28年10月12日)

写真図版10 竪穴住居跡 (7)



S109東半 SE→



S109西半 NW→

写真図版11 竪穴住居跡(8)



SI09断面 NE→



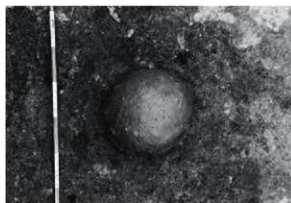
SI09断面 SE→



SI09伊 N→



SI09伊断面 SE→



SI09内焼成粘土塊 NE→



SI09Pit1断面 SW→



作業状況 SI04 (平成28年9月14日)



作業状況 SI04 (平成28年9月21日)

写真図版12 竪穴住居跡 (9)



B区北端住居跡群全景 NE→



B区北端住居跡群全景 E→



B区北端住居跡群全景 NW→



B区北端住居跡群全景 N→



B区北端住居跡群中央部



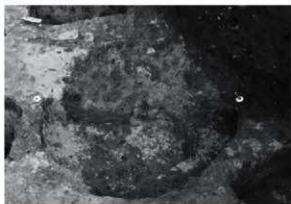
SI10-1号炉東半 SE→



SI10-1号炉東半断面 N→



SI10-1号炉西半 W→



SI10-2号炉断面 N→

写真図版14 竪穴住居跡 (11)



SI11-1号炉 SW→



SI11-1号炉燃烧部 SW→



SI11-2号炉 SW→



SI12-1号炉 S→



SI12-2号炉 E→



SN11横出 NE→



SN11断面 SE→



SN14横出 W→



SN14断面 S→



作業状況 SI09 (平成28年10月14日)



SI13全景 NE→



SI13断面 N→



SI13炉 E→

写真図版16 竪穴住居跡 (13)



SI13床面焼土断面 NW→



SI13Pi4 W→



SI14南東側 SW→



SI14伊 NW→



SI14土器出土状況 SW→



SI15完振 SW→



SI15断面 SE→



SI15伊 SW→



SI15伊断面 SE→



SI16全景 N→



SI18伊 S→



SI18伊断面 E→



SI20全景 N→



SI20断面 SE→



SI21 (左)・SN17 (右) 全景 E→



SI21伊 NE→

写真図版18 竪穴住居跡 (15)



SI23全景 N→



SI23断面 S→



SI23PW→



SI23内石棒 W→



SI23内立石 NE→



SI24全景 NE→



SI24-1号炉 S→



SI24-1号炉・2号炉 S→



SI24-1号炉埋設土器 NW→



SI24-2号炉燃焼部 NW→

写真図版20 竪穴住居跡 (17)



SI25全景 S→



SI25検出 N→



SI25断面 NE→



SI25東壁際石列 N→



SI25東壁際石列 S→



SI25Pit11内柱 NW→



SI26北半全景 E→

写真図版22 竪穴住居跡 (19)



SI26-29南半全景 SE→



SI26断面 E→



SI26-1号炉 N→



SI26Pi2 N→



SI27断面 W→

写真図版23 竪穴住居跡 (20)

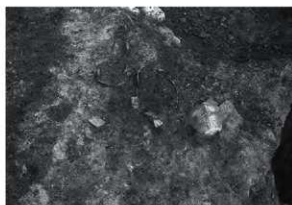


S127全景 SE→



S128全景 NW→

写真図版24 竪穴住居跡 (21)



SI28-1号炉枠出 NW→



SI28-1号炉埋設土器断面 NW→



SI30全景 E→



SI30炉 E→



SI30炉 W→



SN01 検出 NE→



SN01 土器露出 N→



SN02 検出 E→



SN02 断面 SW→



SN03 検出 N→



SN03 断面 NE→



SN04 検出 S→



SN04 断面 SW→

写真図版26 炉跡・焼土遺構 (1)



SN06横出 S→



SN06断面 W→



SN07横出 S→



SN07断面 N→



SN08断面 SW→



SN09横出 SW→



SN09断面 SW→



SN09埋設土器横出 SW→



SN12断面 W→



SN13検出 NW→



SN13検出 SW→



SN17検出 W→



SN17断面 E→



SN18検出 NE→



SN18断面 SW→



SN19検出 S→

写真図版28 炉跡・焼土遺構(3)



SN19断面 S→



SN20検出 E→



SN21検出 W→



SN21断面 SE→



B区SN04付近調査区 N→



SK01完掘 NE→



SK01断面 S→



SK04完掘 N→



SK05完掘 SW→



SK05断面 SW→



SK09 (左)・SK10 (右) 断面 SW→



SK11完掘 N→



SK11断面 SE→



SK12断面 SW→



SK13断面 NE→



SK13完掘 E→



SK14完掘 SW→



SK14断面 W→



SK16 (倒木痕) 断面 W→



SK17完掘 SW→



SK17断面 SW→



SK18完掘 SW→



SK19断面 NE→



SK20断面 S→



SK20完掘 W→



SK21完掘 W→



SK21断面 SE→



SK22完掘 SW→



SK22断面 SW→

写真図版32 土坑(3)



SK23断面 E→



SK24 (攪乱) 断面 NE→



SK25完掘 E→



SK25断面 →



SK26完掘 NW→



SK27完掘 NW→



SK27断面 W→



SK28 (奥)・SK37 (前) 完掘 NE→



SK28断面 SE→



SK29完掘 S→



SK29断面 S→



SK30 (中)・SK33 (左)・SK34 (右) 完掘 NW→



SK30 (右)・SK33 (左) 断面 S→



SK31完掘 W→



SK31断面 S→



SK32 (前)・SK42 (奥) 完掘 W→

写真図版34 土坑 (5)



SK34断面 NE→



SK35 (右)・SK36 (左) 完掘 NW→



SK35 (右)・SK36 (左) 断面 W→



SK38 (右)・SK39 (左)・SK45 (中)・SK46 (奥) 完掘 NW→



SK38断面 NW→



SK39完掘 N→



SK39 (奥)・SK46 (前) 完掘 W→



SK39断面 W→



SK40 (中)・SK44 (左)・SK47 (右) 完掘 SW→



SK40 (右)・SK44 (左) 断面 NW→



SK47断面 NW→



SK41 (奥)・SK43 (前) 完掘 NW→



SK41 (右)・SK43 (左) 断面 SW→



SK48完掘 N→



SK48断面 NW→



SK49完掘 N→

写真図版36 土坑 (7)



SK49断面 NW→



SK50断面 SW→



SK51完掘 W→



SK51断面 N→



SK52完掘 NW→



SK53完掘 N→



SK54完掘 NW→



SK55完掘 E→



SK55断面 NW→



SK56完掘 NW→



SK57 (右)・SK58 (左) 完掘 SW→



SK59完掘 S→



SK60完掘 S→



SK61完掘 NE→



SK62完掘 N→



SK63完掘 NW→



SK63断面 NW→



SK64完掘 N→



SK64断面 SE→



SK65完掘 W→



SK66完掘 W→



SK67断面 SW→



SK68南半完掘 N→



SK68断面 SE→



SK73北半完掘 NE→



SK73南半完掘 SW→



SK73断面 NE→



SK74完掘 N→



SK75完掘 N→



SK75 (左)・P265 (右) 断面 NW→



SK76 (奥)・SK77 (前) 完掘 W→



SK76 (左)・SK77 (右) 断面 N→

写真図版40 土坑 (11)



SK77遺物出土状況 S→



SK78断面 NW→



SK79完掘 NW→



SK79断面 SE→



SK80断面 NW→



SK82完掘 NE→



SK82断面 NW→



SK83完掘 SW→



SK84断面 SW→



SK85完掘 S→



SK87完掘 NE→



SK87断面 NE→



SK88完掘 E→



SK88 (左)・P317 (右) 断面 NW→



SK90完掘 E→



SK90断面 E→

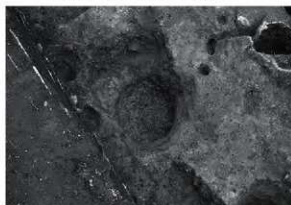
写真図版42 土坑 (13)



SK91 (右)・SK92 (左) 完掘 E→



SK91 (左)・SK92 (中)・SK112 (右) 断面 E→



SK93完掘 S→



SK94 (前)・SK97 (奥) 完掘 S→



SK94 (左)・SK97 (右) 断面 NE→



SK96完掘 W→



SK96断面 E→



SK98完掘 N→



SK99完掘 S→



SK99断面 SW→



SK100断面 N→



SK102 (奥)・SK108 (前) 完掘 S→



SK102断面 N→



SK105・106 完掘 N→



SK105・106 完掘 S→



SK106 完掘 N→

写真図版44 土坑 (15)



SK106 完掘 S→



SK107完掘 S→



SK109断面 NE→



SK110完掘 SE→



SK110断面 S→



SK111完掘 E→



SK113断面 NE→



SK114 (右)・SK115 (左) 完掘 S→



SK114 (左)・SK115 (右) 断面 NE→



SK116完掘 W→



SK117完掘 NE→



SK119完掘 S→



SK120完掘 SW→



SK120断面 N→



SK121断面 W→



SK121完掘 E→

写真図版46 土坑 (17)



SQ01-02 SW→



SQ01 SW→



SQ02 NE→



SQ03 SW→



SQ03 SE→



SQ04 N→



SQ05 NE→



SQ05断面 E→



SQ06 E→



SQ06 W→



SQ06下部 W→



SQ06精査状況



SQ09 N→



SQ09 S→



SQ09 E→



SQ09南半 N→

写真図版48 配石遺構 (2)



SQ10北半 N→



SQ10南半 S→



SQ13 SW→



SR01検出 NE→



SR01土器内部



SR02検出 SW→



SR02土器内部



SR03検出 N→



B区⑤⑥断面 SE→



B区⑧⑨断面 S→



B区⑫⑬断面 NW→



B区北半 (S103~08) 断面 NW→



A区④Ⅱ層上部石刀出土 N→



B区⑩bⅡ層中部土器出土 SW→



B区⑩bⅡ層中部土器 SE→



B区⑩bⅡ層下部焼土 NW→



貝層01検出 SW→



貝層01内獣骨 SE→



貝層04検出 SW→



貝層04検出 S→



貝層04検出 SW→



貝層04内獣骨 S→



貝層05検出 SW→



貝層05内獣骨 SE→



貝層05内骨角器 SW→



貝層06検出 SW→



貝層07検出 SW→



貝層08検出 S→



貝層09検出 E→



貝層09検出 S→



貝層09高側検出 E→



貝層09獣骨等出土状況 S→



貝層10検出 NW→



貝層10検出 SW→



貝層10b検出 E→



貝層10断面 S→



貝層10断面 NE→



貝層10QE内ヒト上腕骨 SE→



貝層10内イヌ骨 (1) SE→



貝層10内イヌ骨 (2) N→



貝層10内イヌ骨 (3) N→



貝層10内イヌ骨 (4) W→



貝層100N下部シカ下顎骨 SE→



貝層100N上部シカ肩甲骨 SE→



貝層10内骨角器 SE→



貝層12核出 S→



貝層12断面 W→



貝層12断面拡大 W→

写真図版54 貝層 (4)



H区柱穴群 全景 N→



J区柱穴群 全景 N→



SKI01 上部石列 (SQ12) 検出 NW→



SKI01 完掘 NW→



SQ07 NW→



SQ08 N→



SQ07-08 NE→



SK69断面 NE→



SK70完掘 N→



SK71断面 NE→



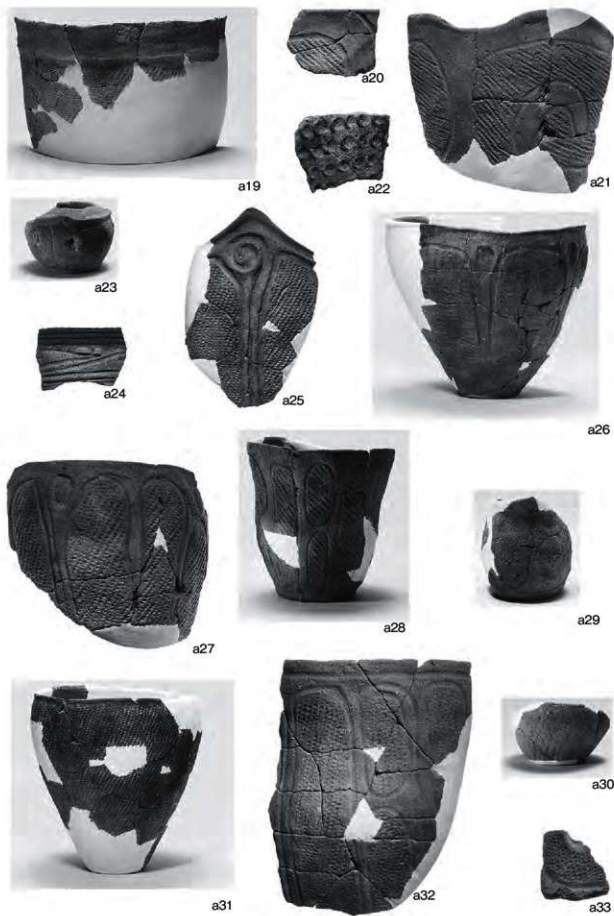
SQ11 NE→



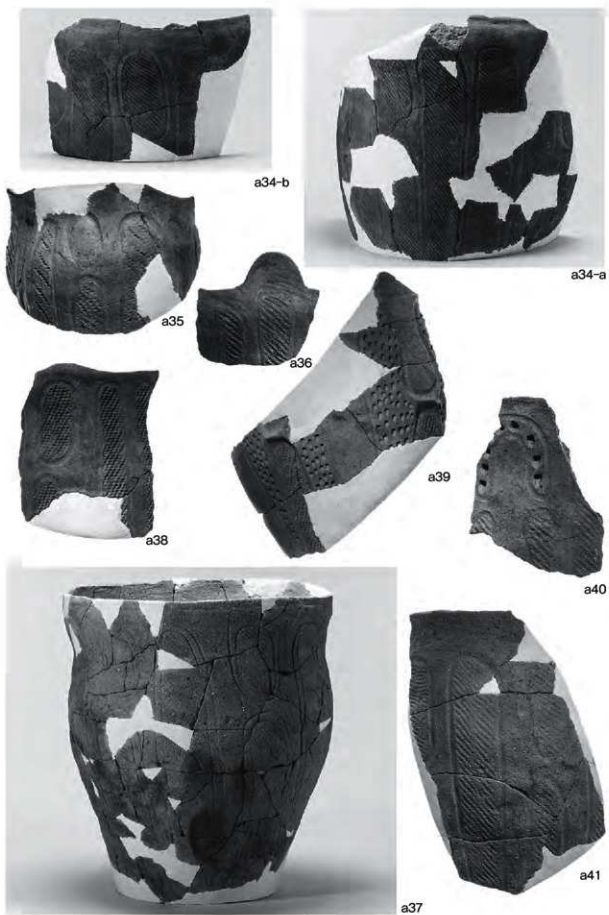
SQ11 NW→



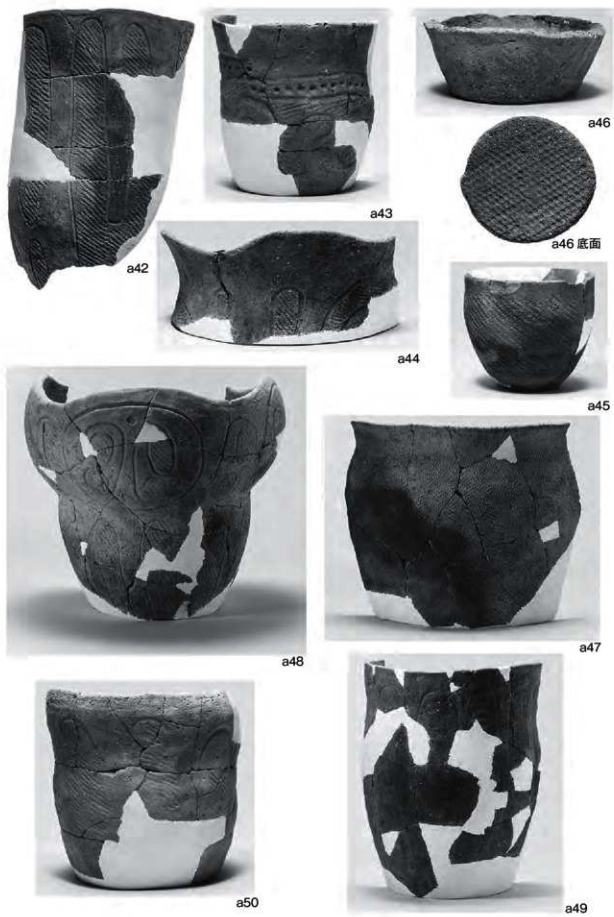
写真図版57 縄文土器 (1)



写真図版58 縄文土器 (2)



写真図版59 縄文土器（3）



写真図版60 縄文土器 (4)



a51



a53



a52



a55



a54



a58-a



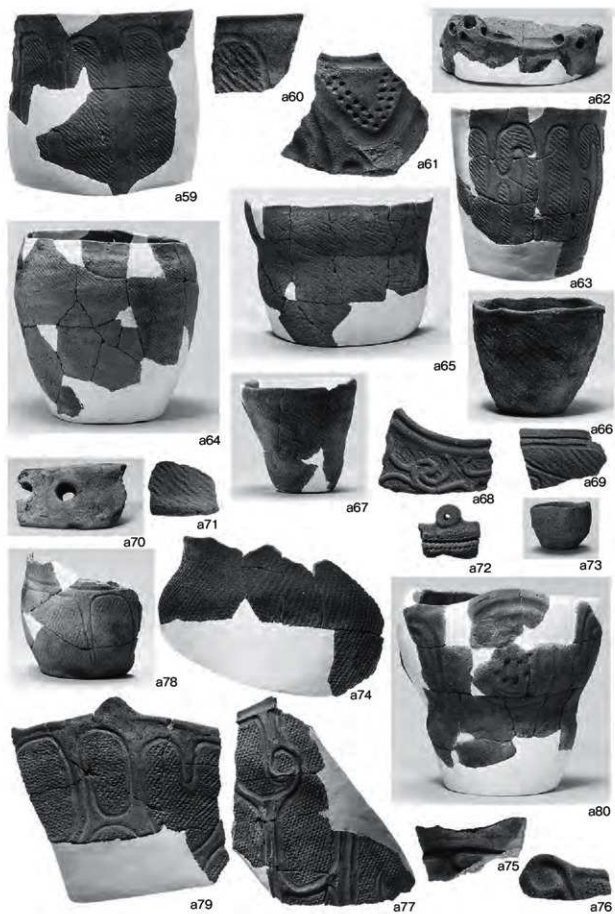
a56



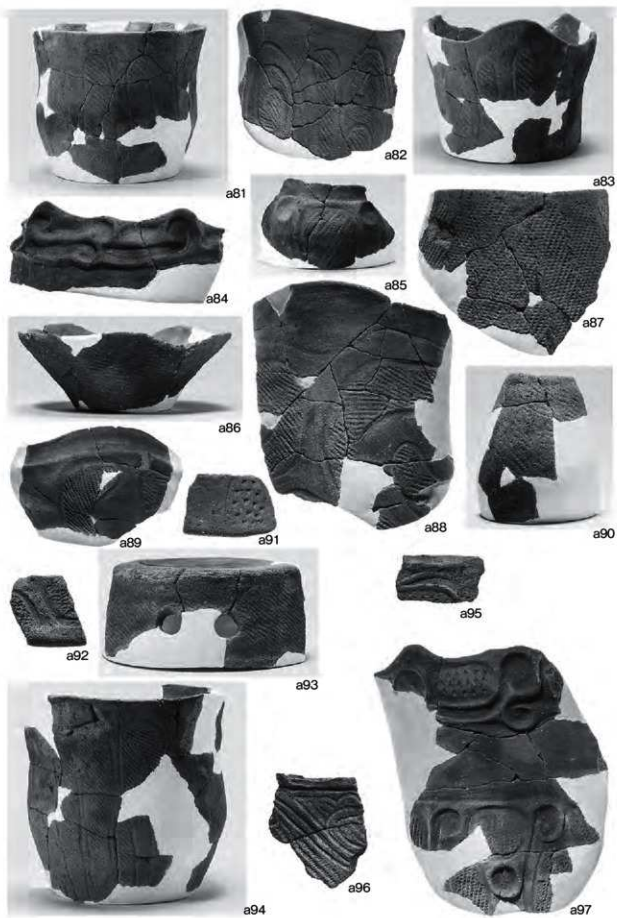
a57



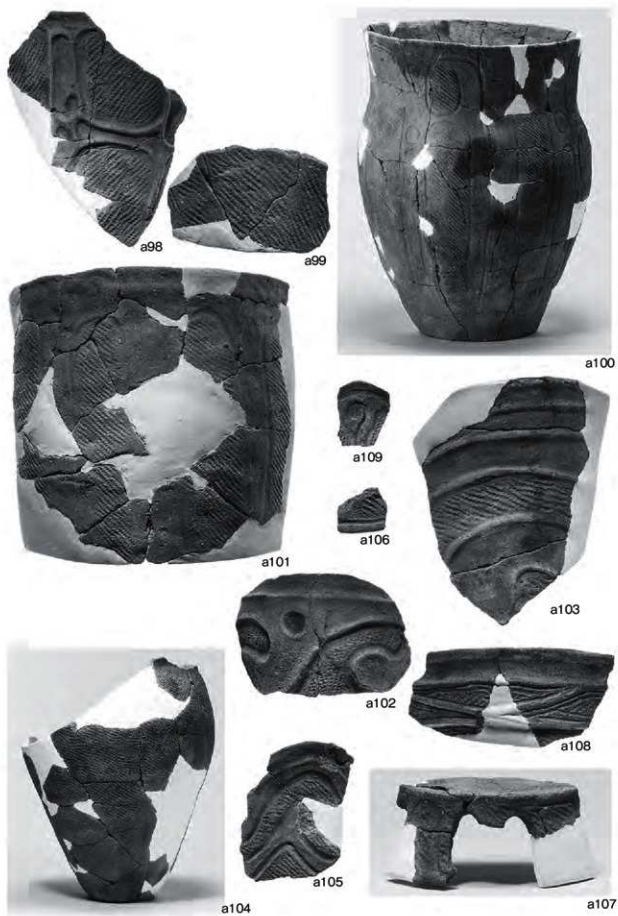
a58-b



写真図版62 縄文土器(6)



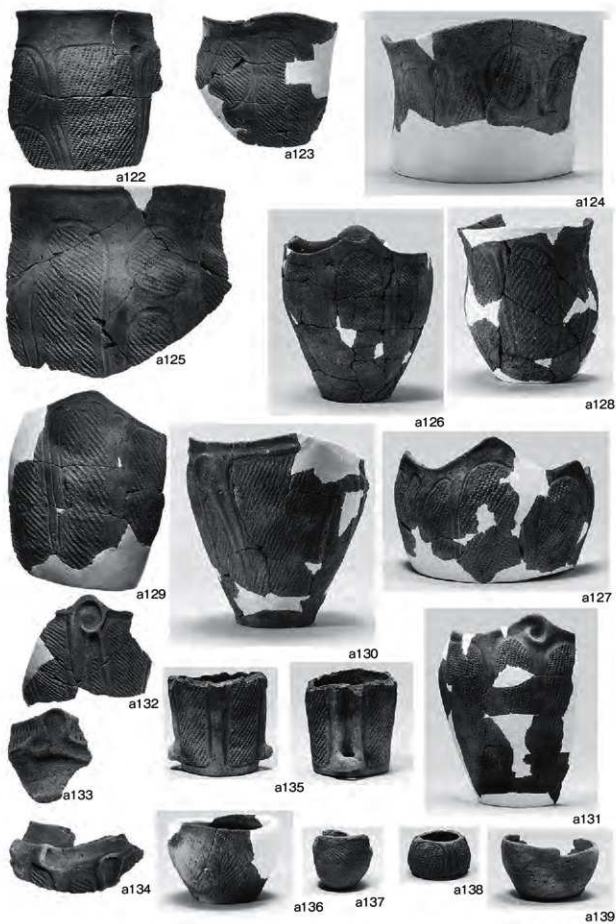
写真図版63 縄文土器 (7)



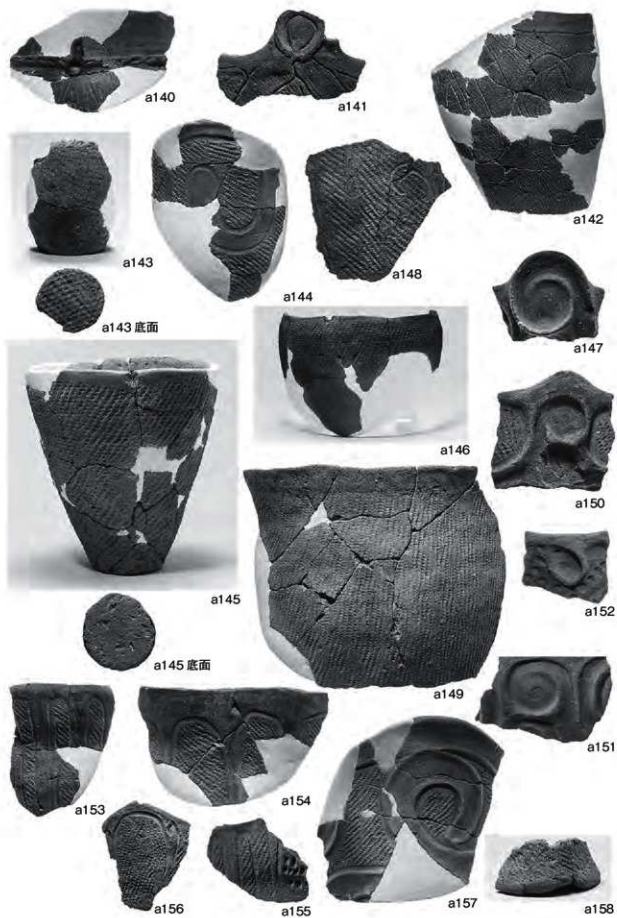
写真図版64 縄文土器 (8)



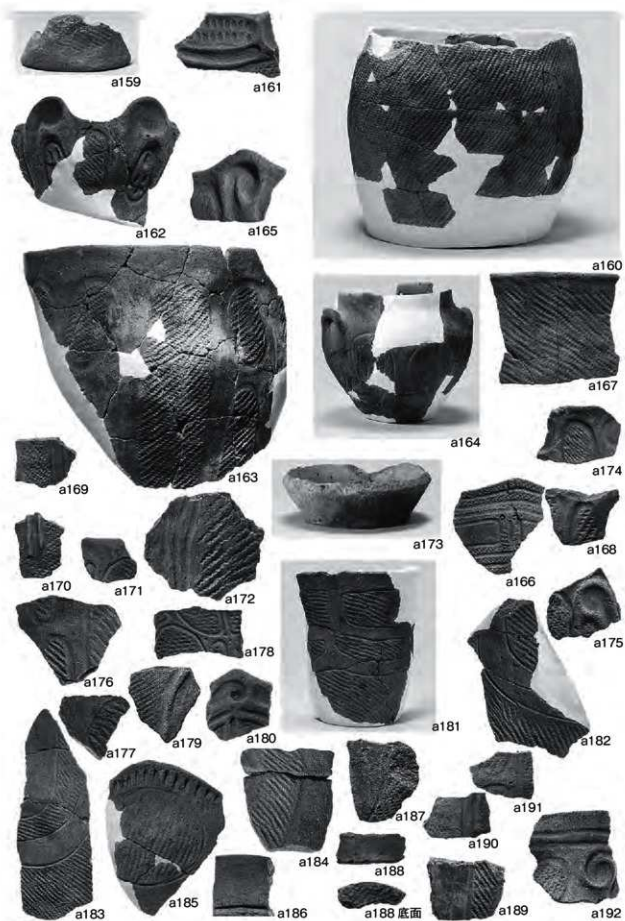
写真図版65 縄文土器 (9)



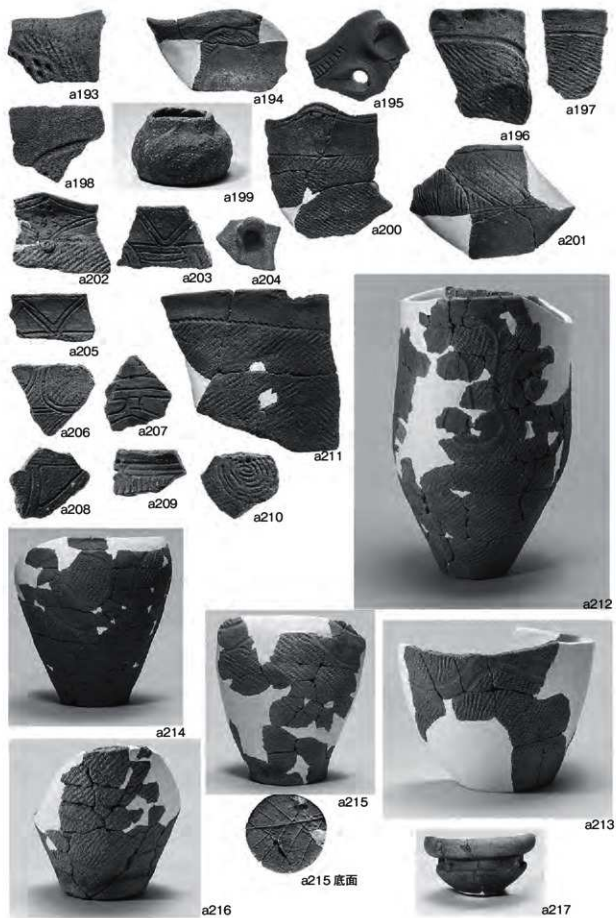
写真図版66 縄文土器 (10)



写真図版67 縄文土器 (11)



写真図版68 縄文土器 (12)



写真図版69 縄文土器 (13)



写真図版70 縄文土器 (14)



a229



a231



a231 底面



a229 底面



a230



a234



a233



a234 底面



a232

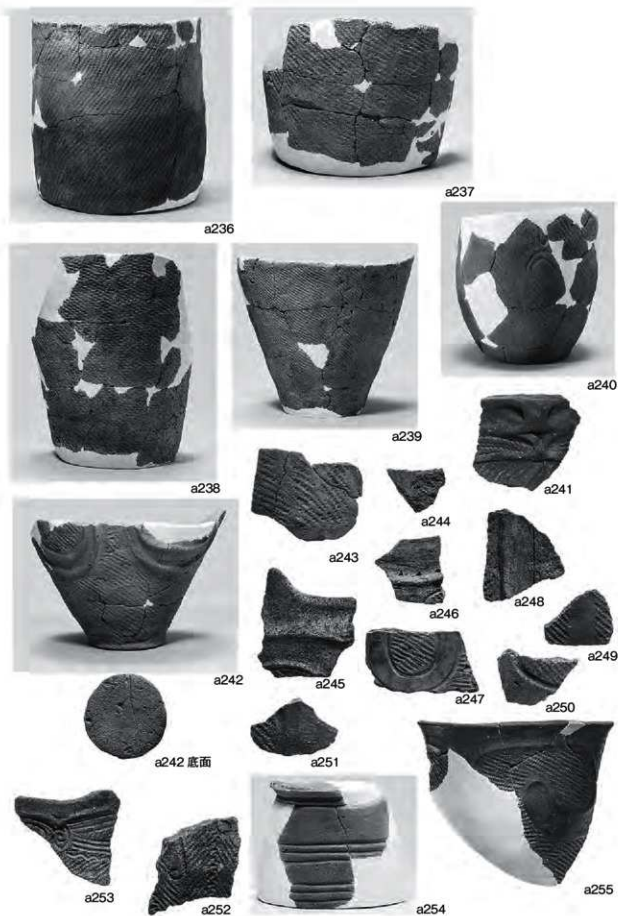


a235-a

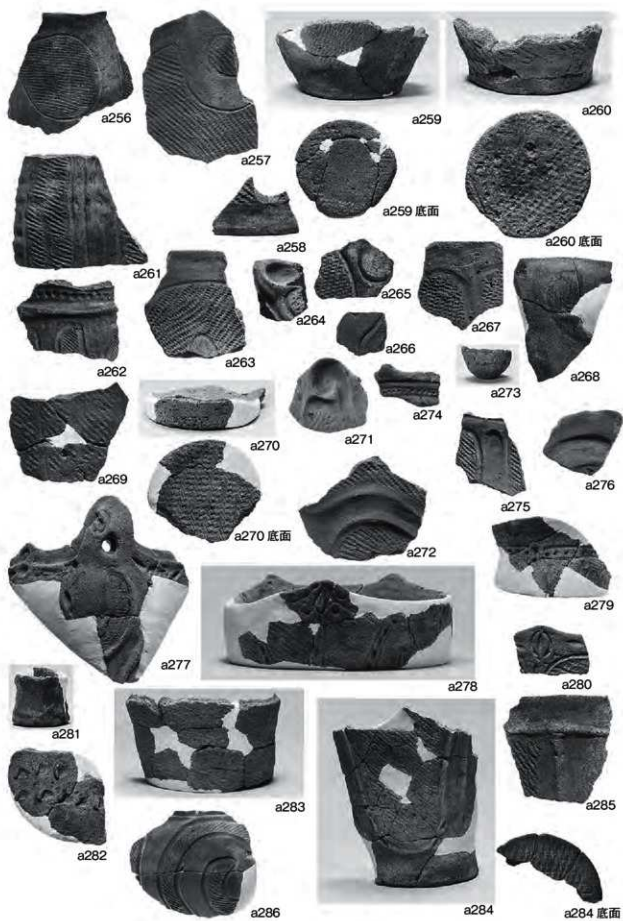


a235-b

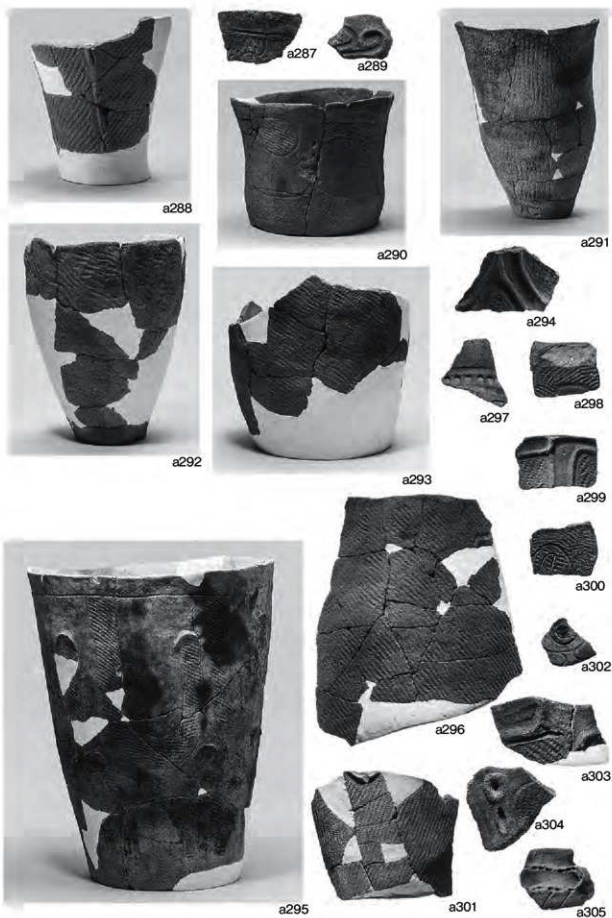
写真図版71 縄文土器 (15)



写真図版72 縄文土器 (16)



写真図版73 縄文土器 (17)



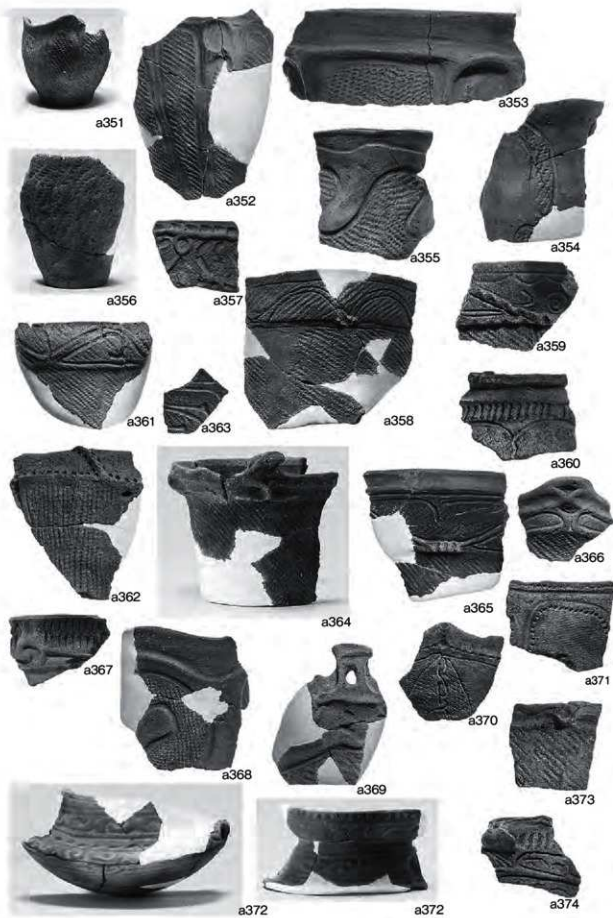
写真図版74 縄文土器 (18)



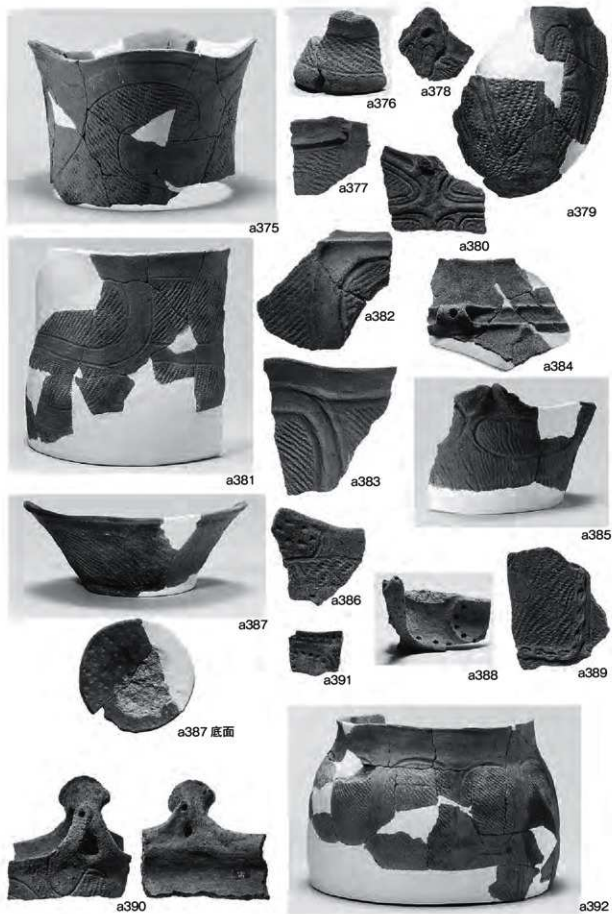
写真図版75 縄文土器 (19)



写真図版76 縄文土器 (20)



写真図版77 縄文土器 (21)



写真図版78 縄文土器 (22)



a394



a395



a393



a396



a398



a399



a397



a400



a401



a402



a403



a404



a405



a407



a406



a408

写真図版80 縄文土器 (24)



a409



a410



a412



a413



a411



a418



a414



a415



a417



a416



a419



a420



a423



a421



a422



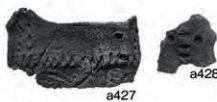
a424



a426



a425



a427

a428



a429



a430



a431



a432

写真図版82 縄文土器 (26)



a433



a434



a435



a438



a436



a437



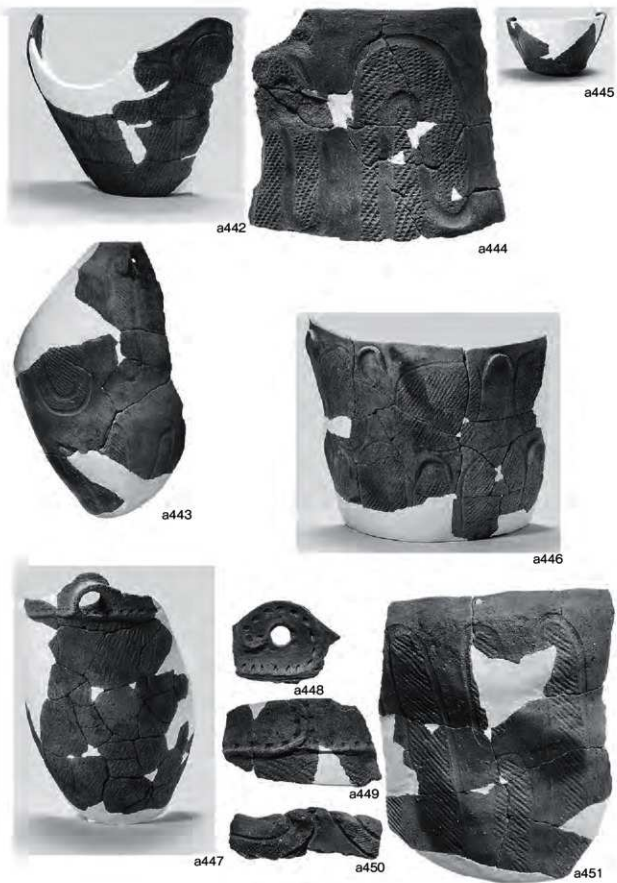
a439



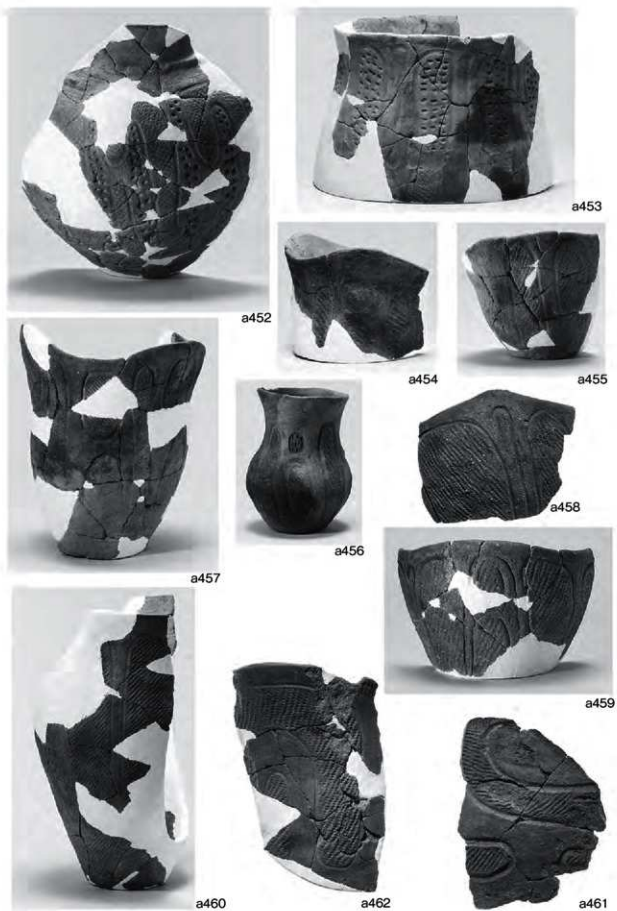
a441



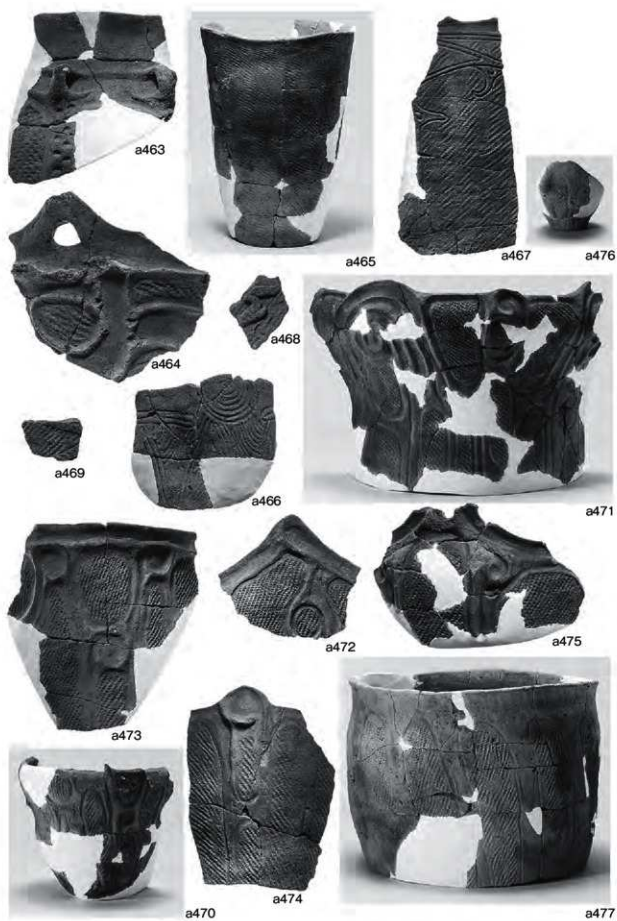
a440



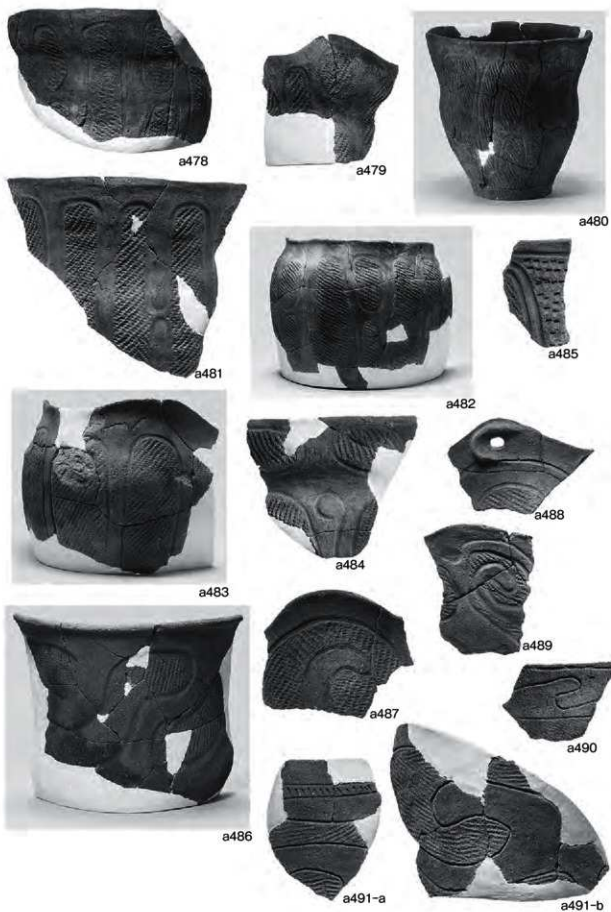
写真図版84 縄文土器 (28)



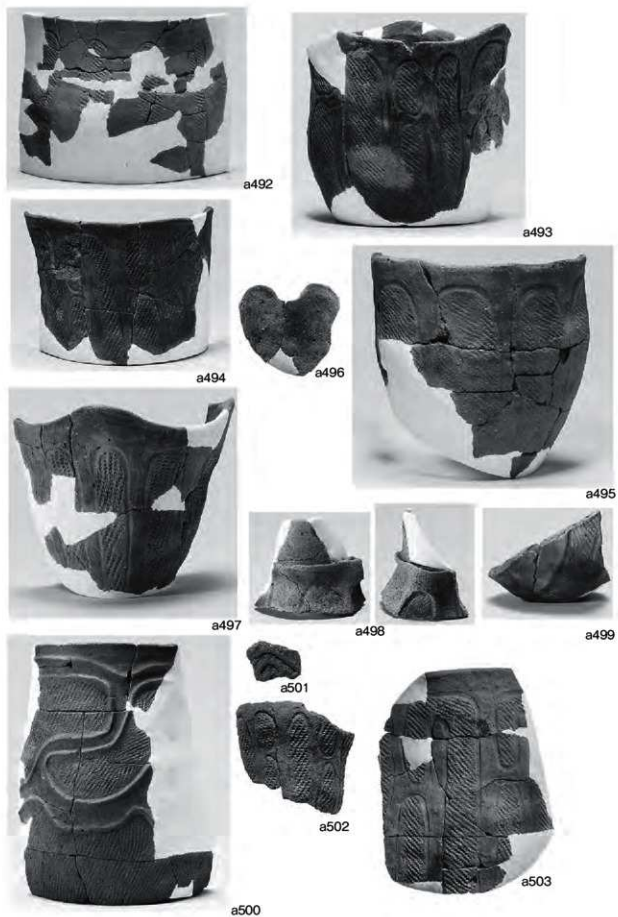
写真図版85 縄文土器 (29)



写真図版86 縄文土器 (30)



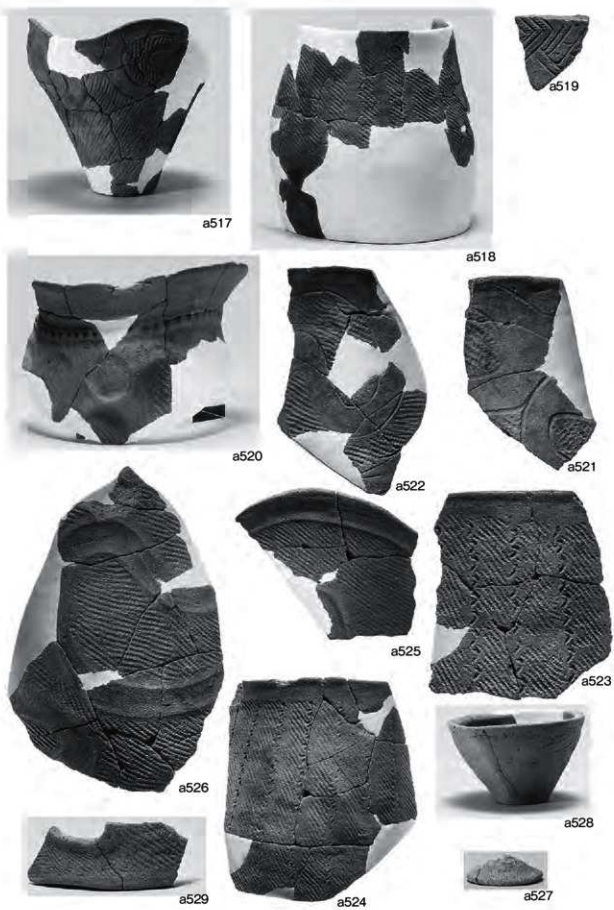
写真図版87 縄文土器 (31)



写真図版88 縄文土器 (32)



写真図版89 縄文土器 (33)



写真図版90 縄文土器 (34)



a530



a531



a532



a534



a533



a535



a536



a537



a539



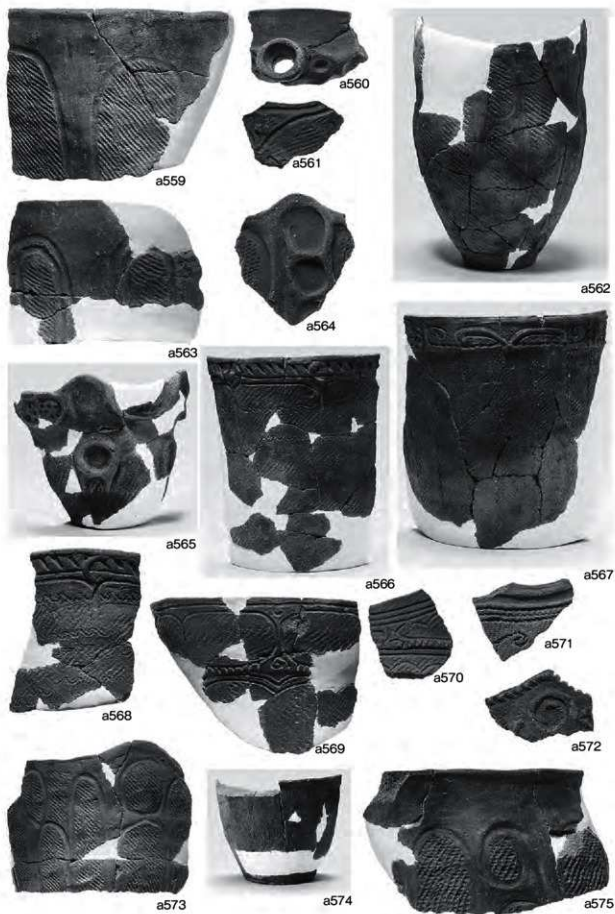
a538



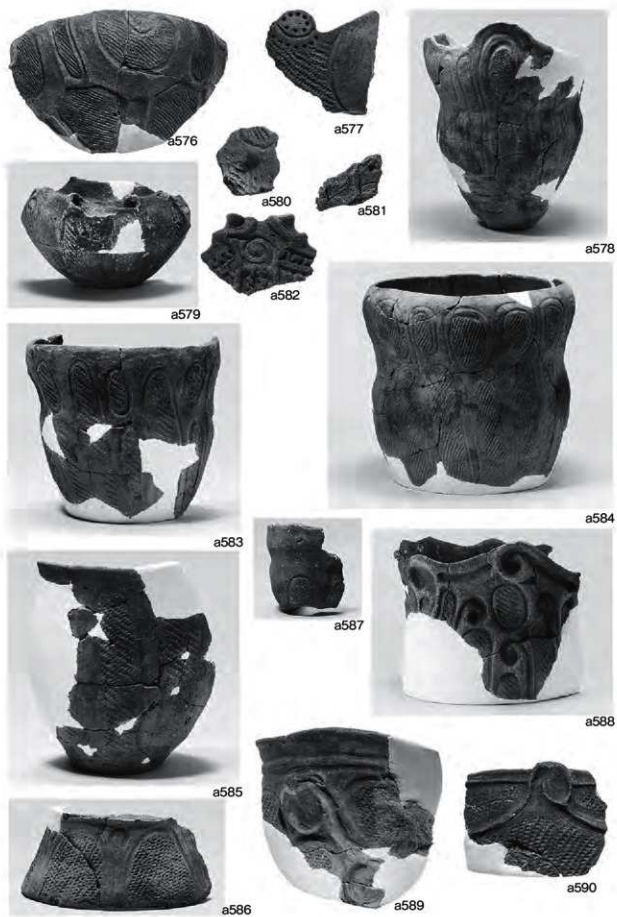
a540



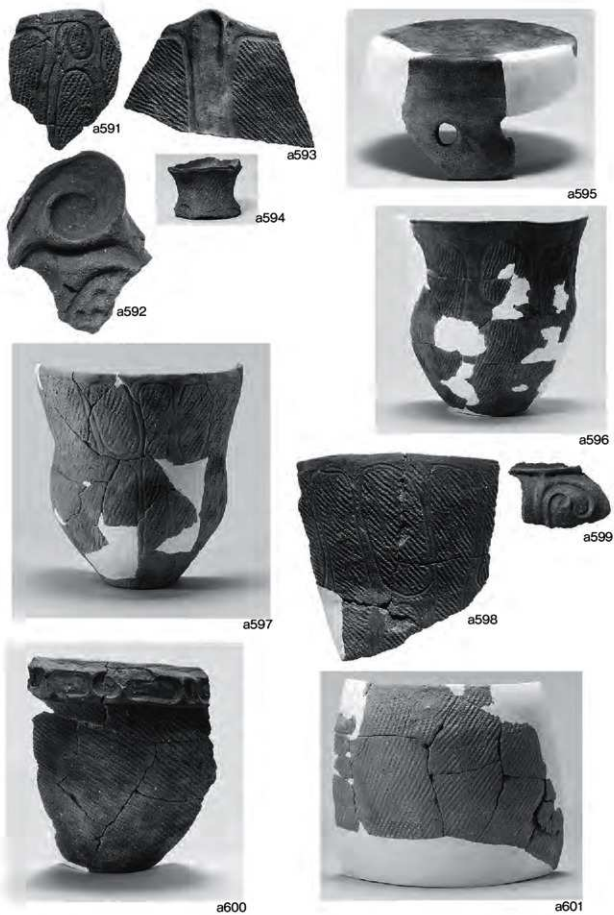
写真図版92 縄文土器 (36)



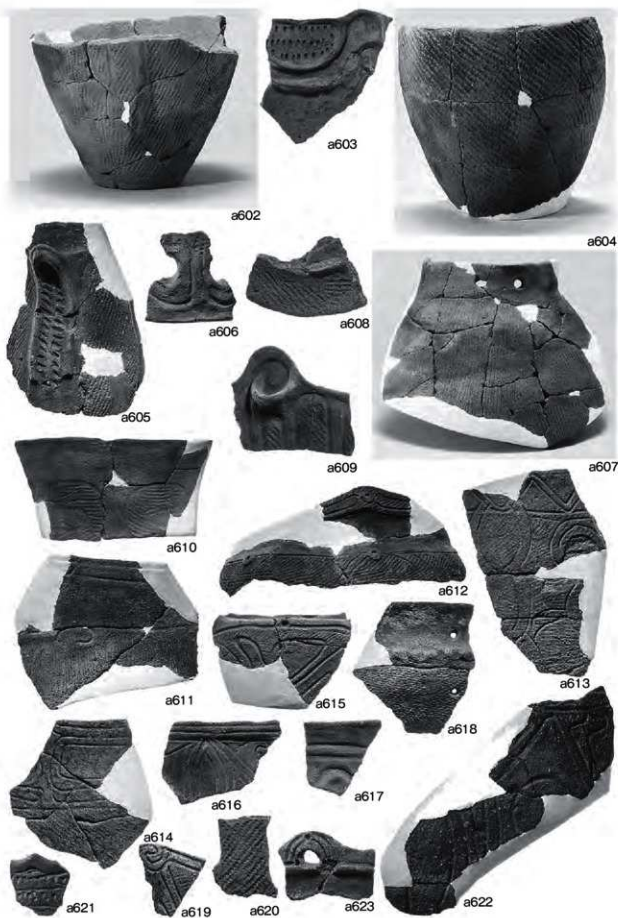
写真図版93 縄文土器 (37)



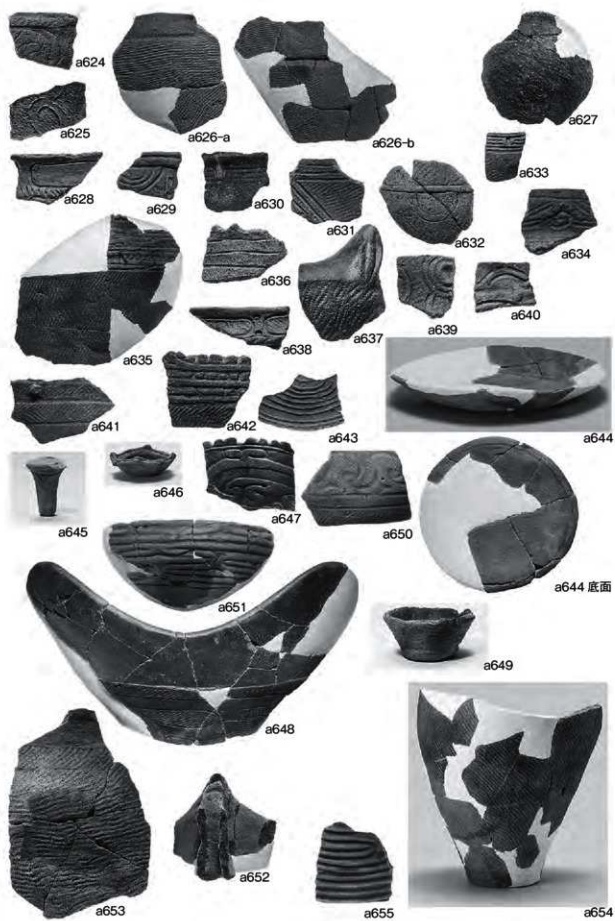
写真図版94 縄文土器 (38)



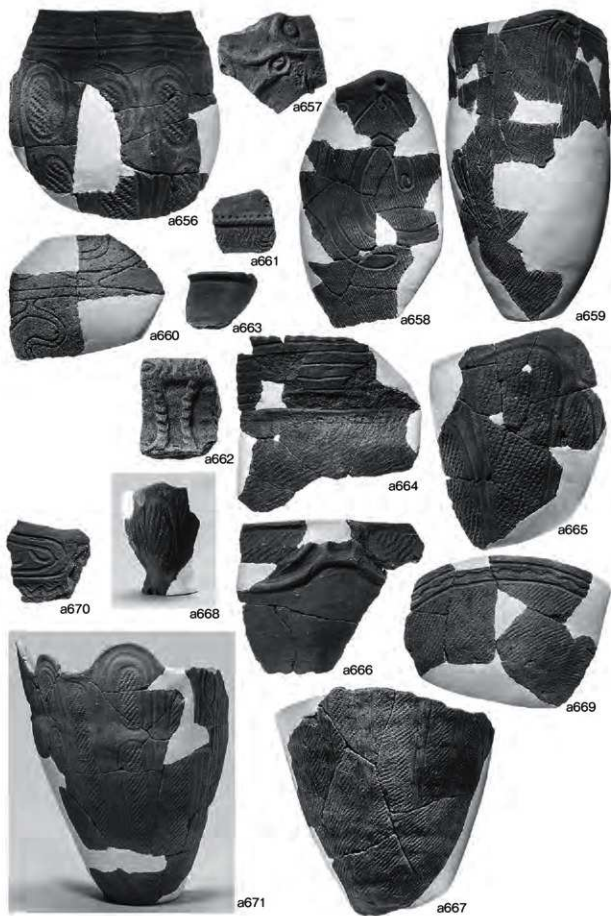
写真図版95 縄文土器 (39)



写真図版96 縄文土器 (40)



写真図版97 縄文土器 (41)



写真図版98 縄文土器 (42)



a672



a673



a675



a674



a676



a677



a679



a678



a680



a681



a682



a683



a684



a686



a685

写真図版100 縄文土器 (44)



a687



a688



a690



a689



a691



a692



a693



a694



a695

写真図版101 縄文土器 (45)



a696



a697



a698



a699



a702



a700



a701



a704



a703

写真図版102 縄文土器 (46)



a705



a706



a707



a709



a708

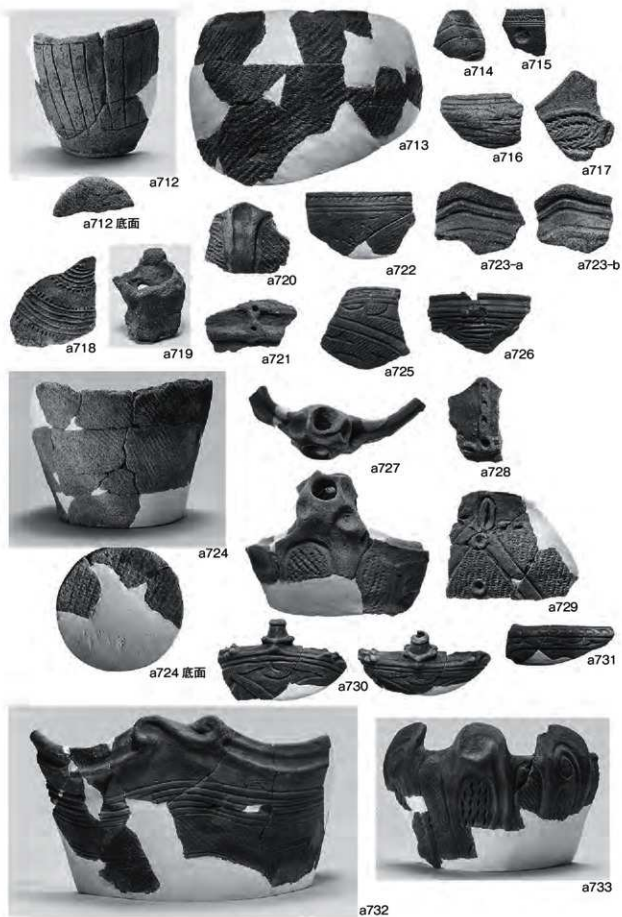


a710

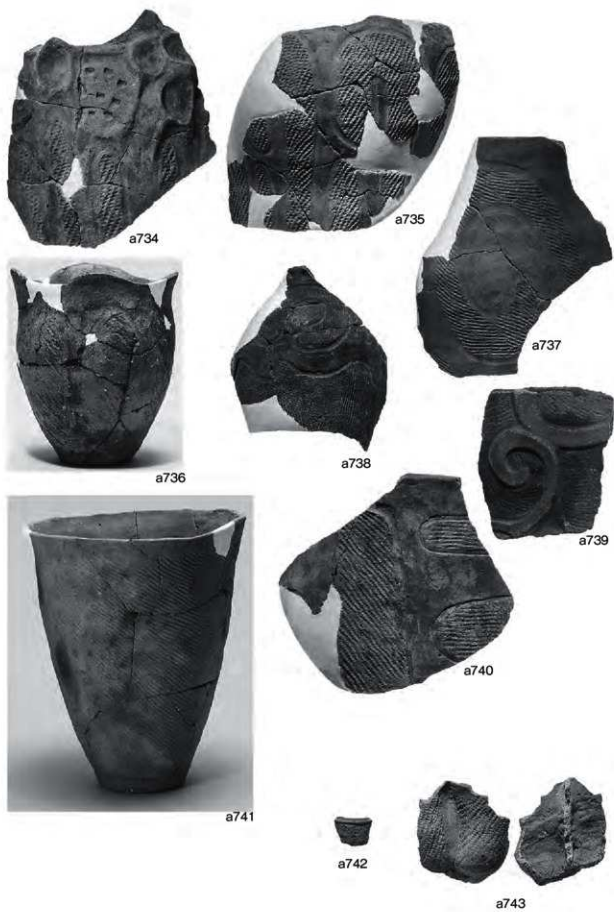


a711

写真図版103 縄文土器 (47)



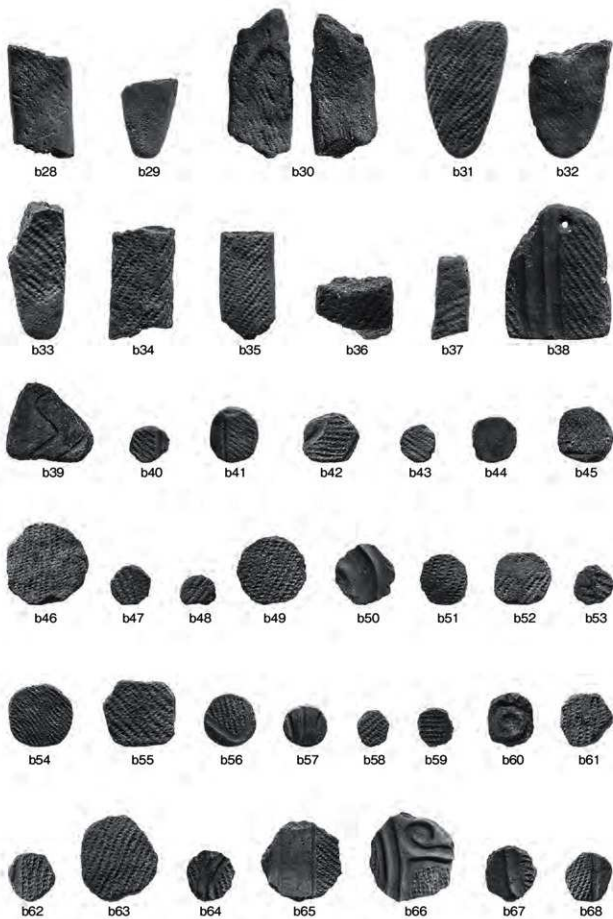
写真図版104 縄文土器 (48)



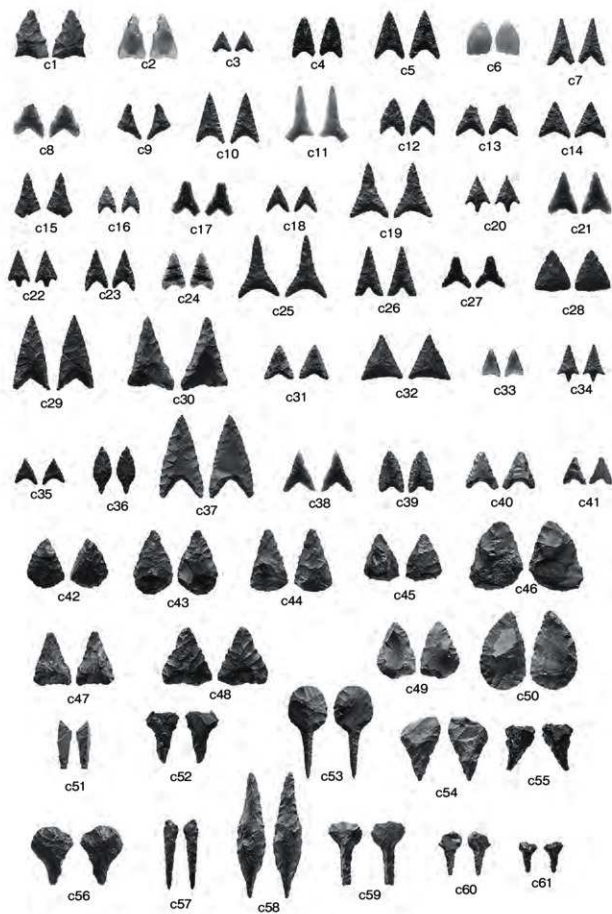
写真図版105 縄文土器 (49)



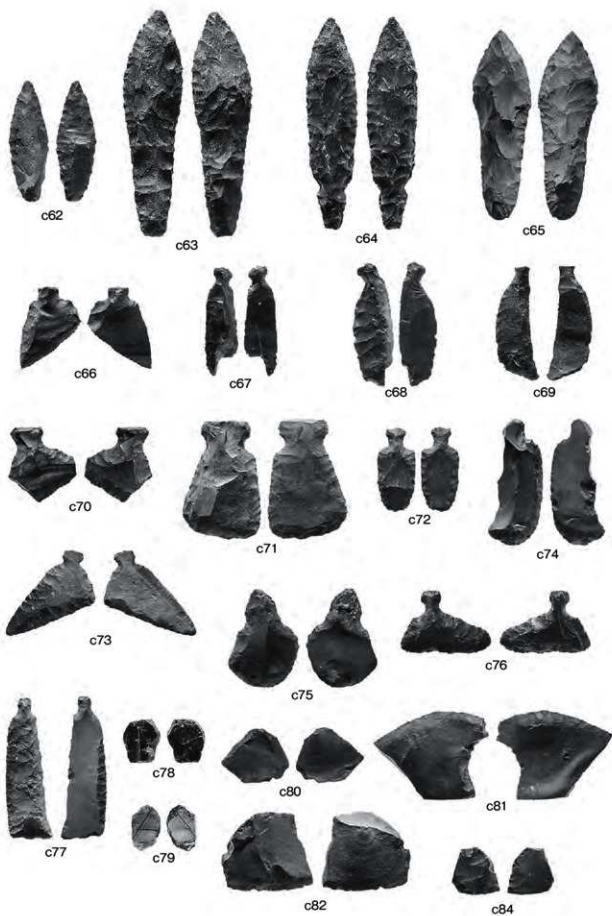
写真図版106 土製品 (1)



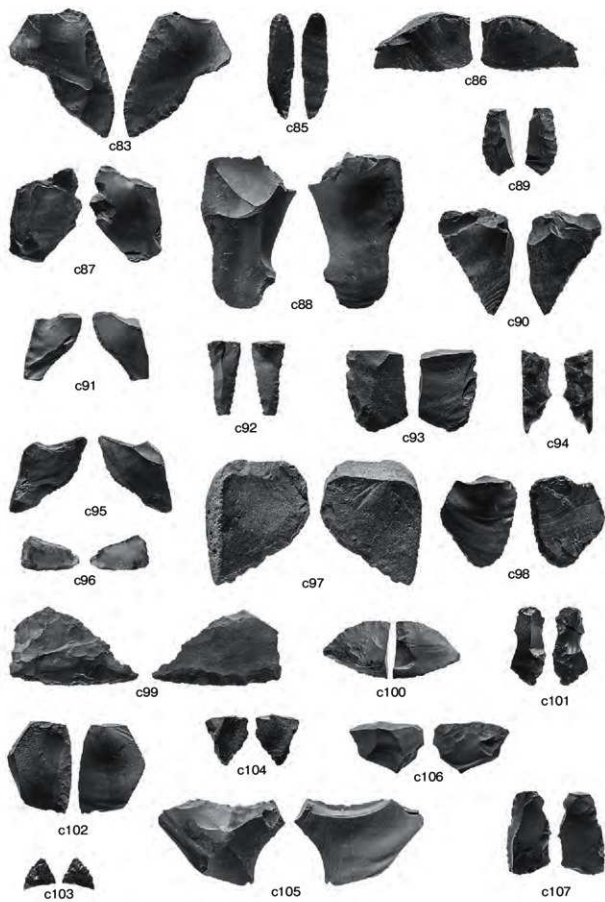
写真図版107 土製品(2)



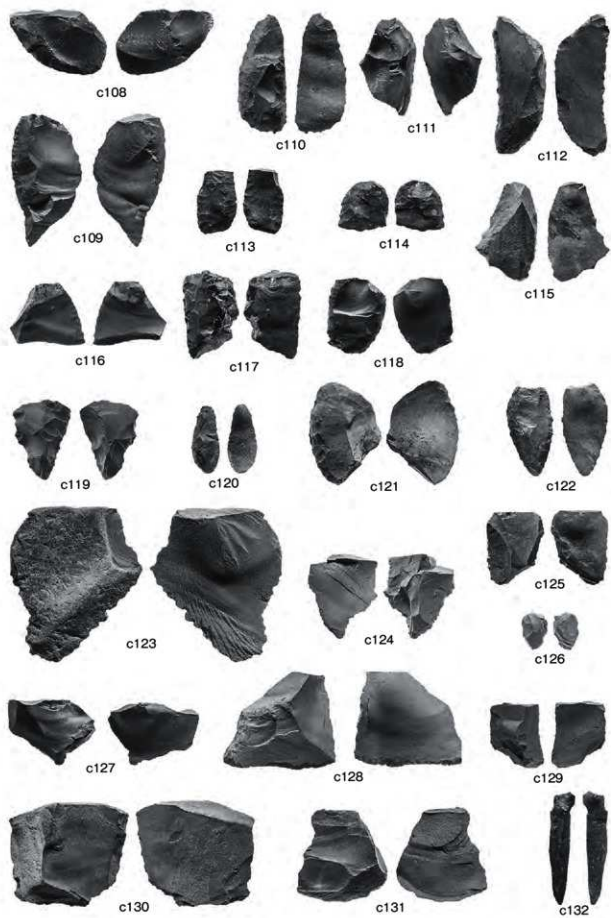
写真図版108 石器・石製品 (1)



写真図版109 石器・石製品 (2)



写真図版110 石器・石製品 (3)



写真図版111 石器・石製品 (4)



c133



c134



c135



c136



c137



c138



c139



c140



c141



c142

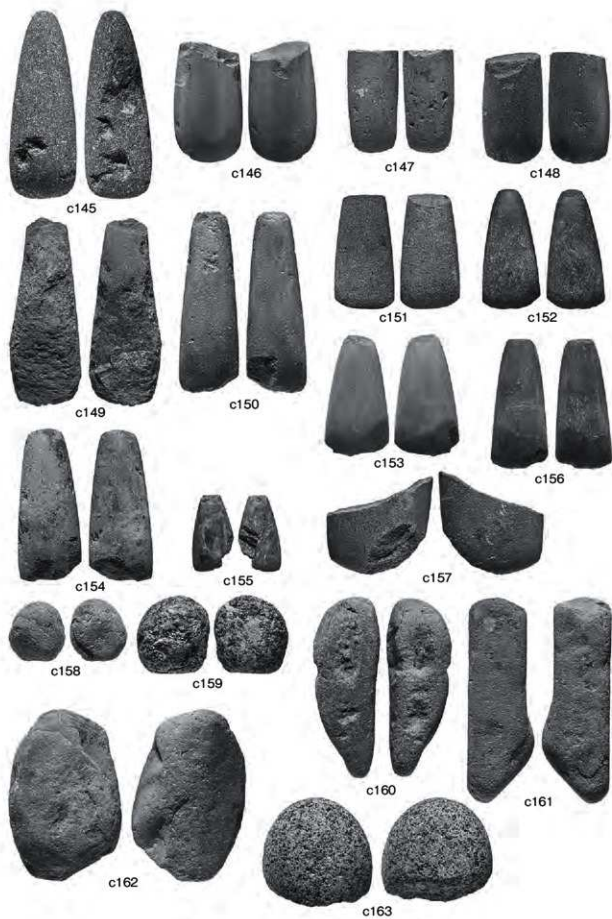


c143

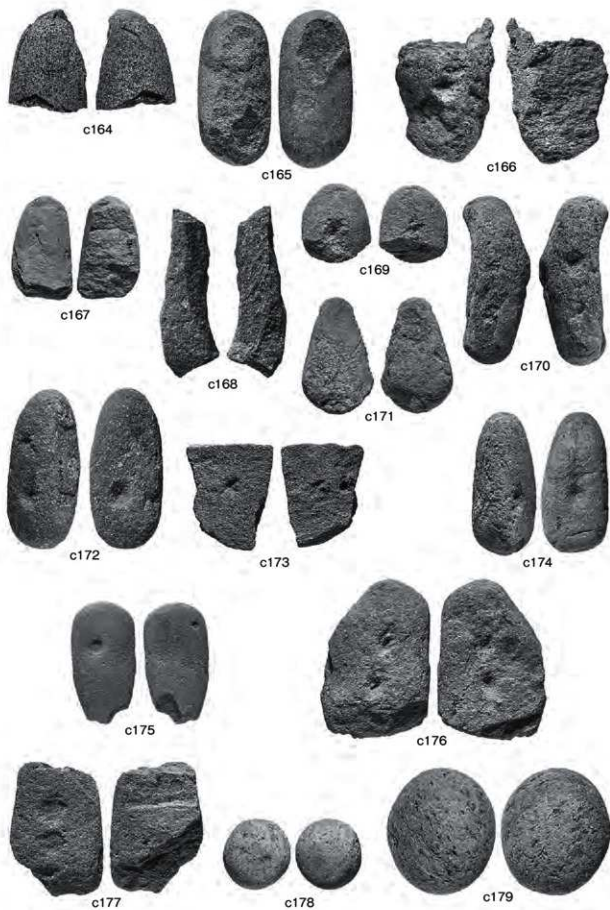


c144

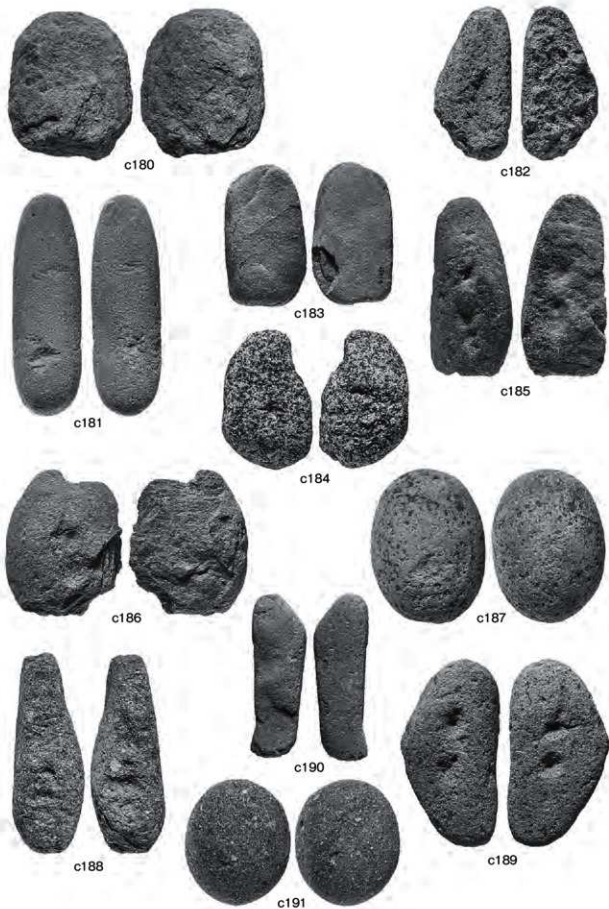
写真図版112 石器・石製品 (5)



写真図版113 石器・石製品 (6)



写真図版114 石器・石製品 (7)



写真図版115 石器・石製品 (8)



c192



c194



c193



c195



c197



c196



c198



c199



c200



c201

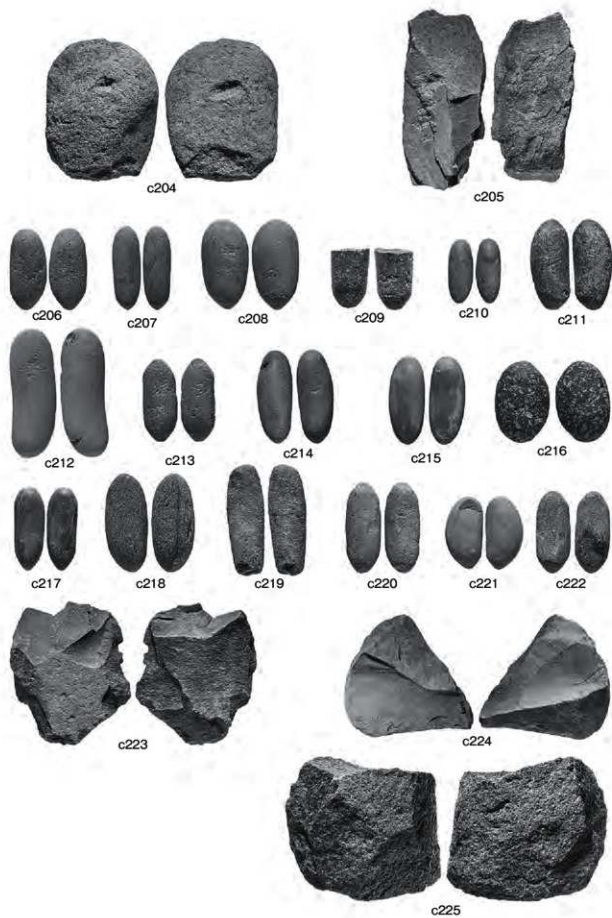


c202



c203

写真図版116 石器・石製品 (9)



写真図版117 石器・石製品 (10)



c226



c227



c228



c229



c231



c230



c233

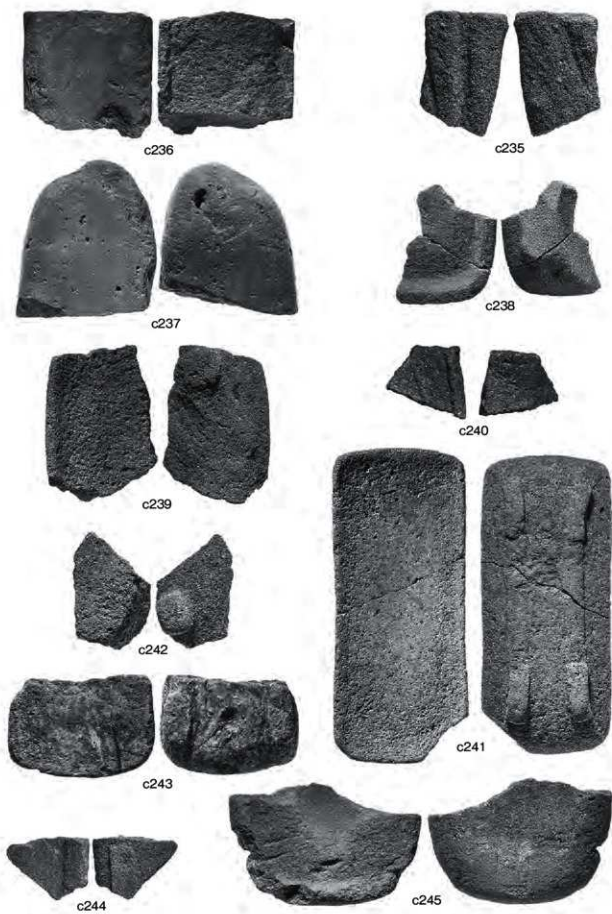


c232

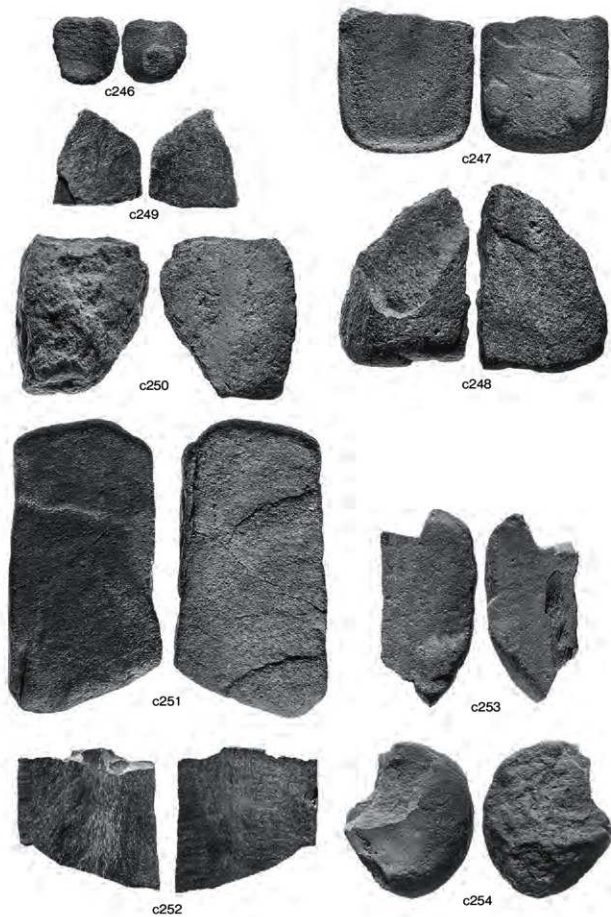


c234

写真図版118 石器・石製品 (11)

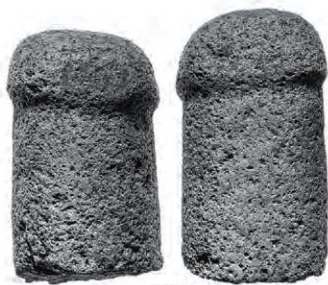


写真図版119 石器・石製品 (12)



写真図版120 石器・石製品 (13)





c262



c263



c264



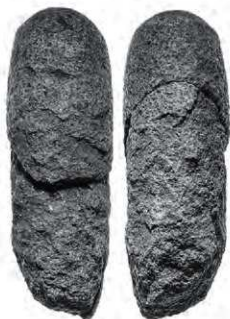
c265



c267



c266



c268



c270

写真図版122 石器・石製品 (15)



c269



c271



c272



c273



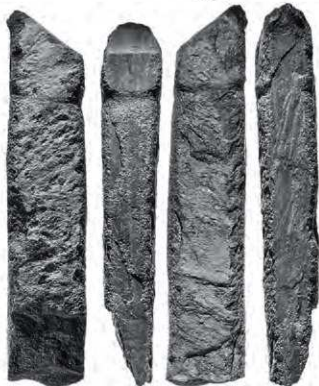
c274



c275



c276



c277



c278



c279



c280

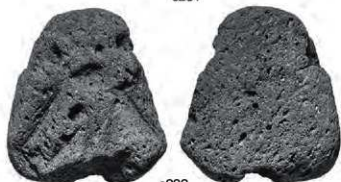
写真図版123 石器・石製品 (16)



c281



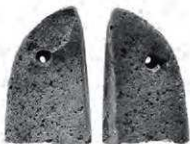
c283



c282



c284



c285



c287

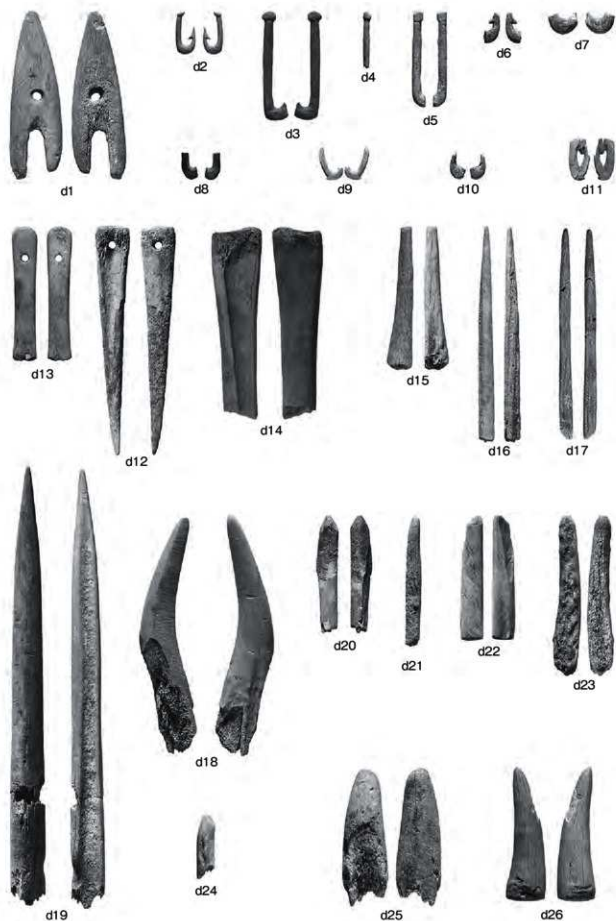


c286



c288

写真図版124 石器・石製品 (17)

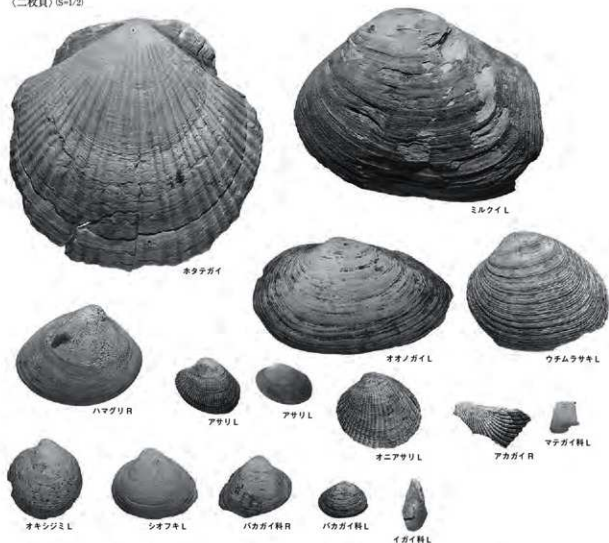


写真図版125 骨角器 (1)



写真図版126 骨角器(2)

〈二枚貝〉(S-1/2)

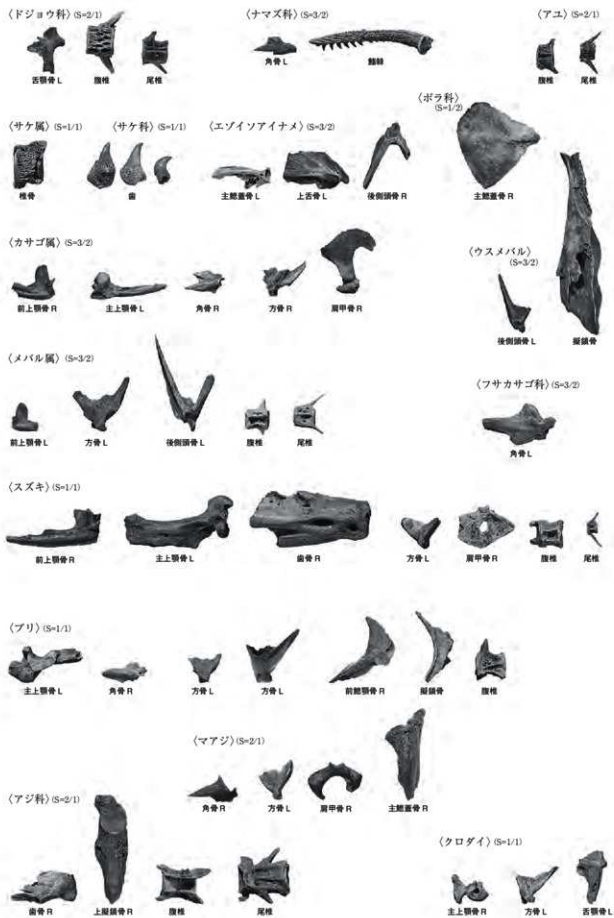


〈巻貝〉(S-1/2)

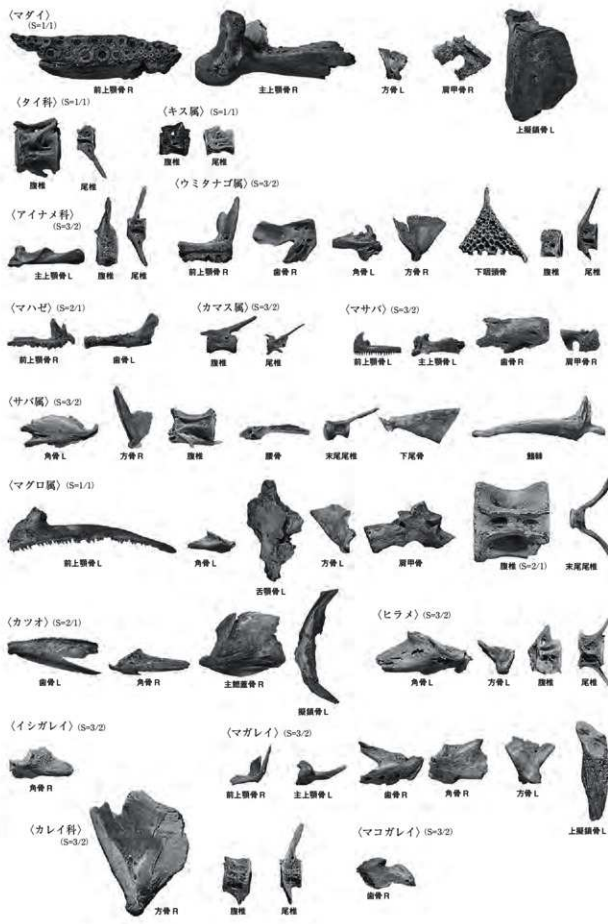




写真図版128 動物遺存体 (2)



写真図版129 動物遺存体 (3)



写真図版130 動物遺存体 (4)

(カエル目) (S=1/1)



(ヘビ目) (S=1/1)



(キジ科) (S=2/3)



(ウ類) (S=2/3)



(カモ科) (S=2/3)



(キジバト) (S=1/1)



(アビ科) (S=2/3)



(ツグミ類) (S=1/1)



(小型鳥類) (S=3/2)



(ハタネズミ亜科) (S=3/2)



(ネズミ亜科) (S=3/2)



(ネズミ科) (S=3/2)



(モグラ科) (S=3/2)



(ノウサギ) (S=2/3)



(ムササビ) (S=1/1)



(テン) (S=2/3)



(ツキノワグマ) (S=2/3)



(アナグマ) (S=2/3)

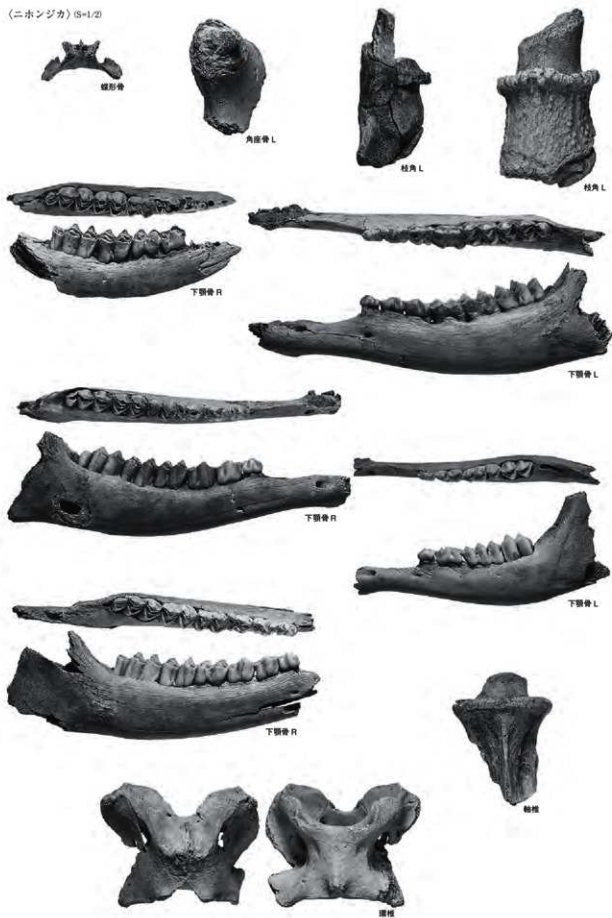


(キツネ) (S=2/3)



写真図版131 動物遺存体 (5)

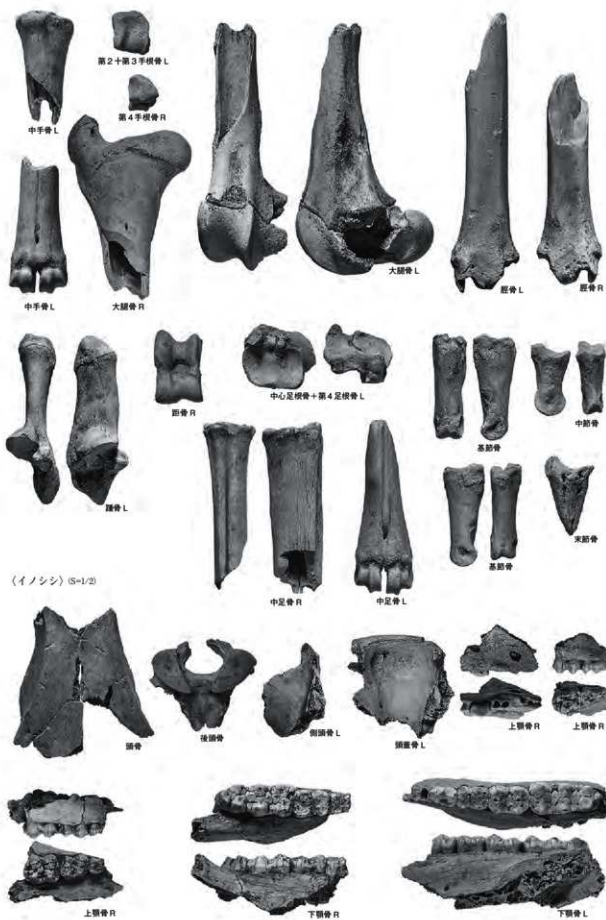
〈ニホンジカ〉(S-1/2)



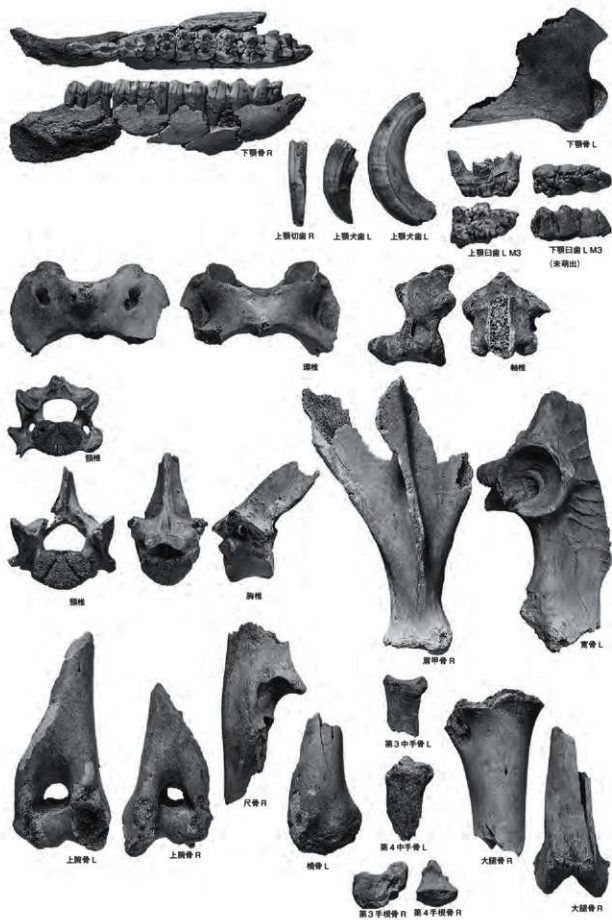
写真図版132 動物遺存体 (6)



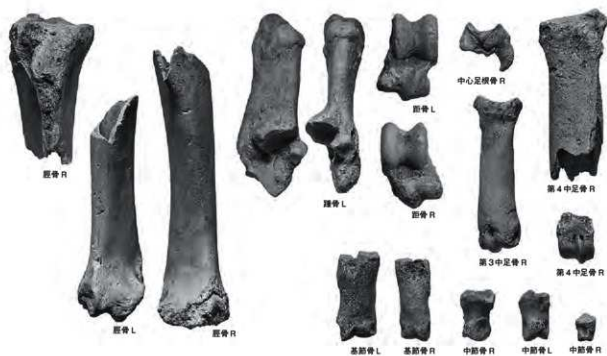
写真図版133 動物遺存体 (7)



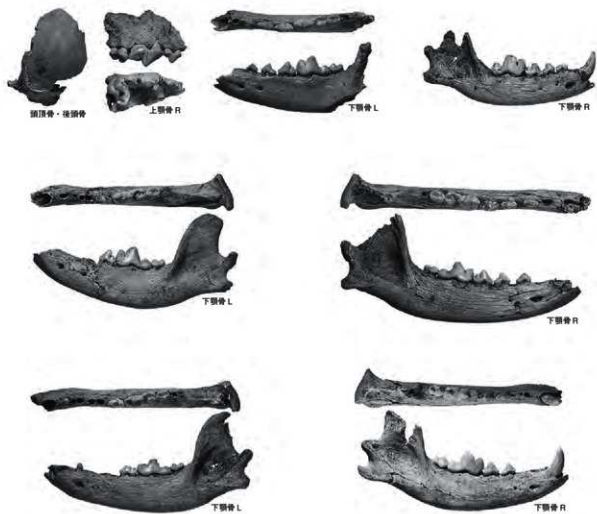
写真図版134 動物遺存体 (8)



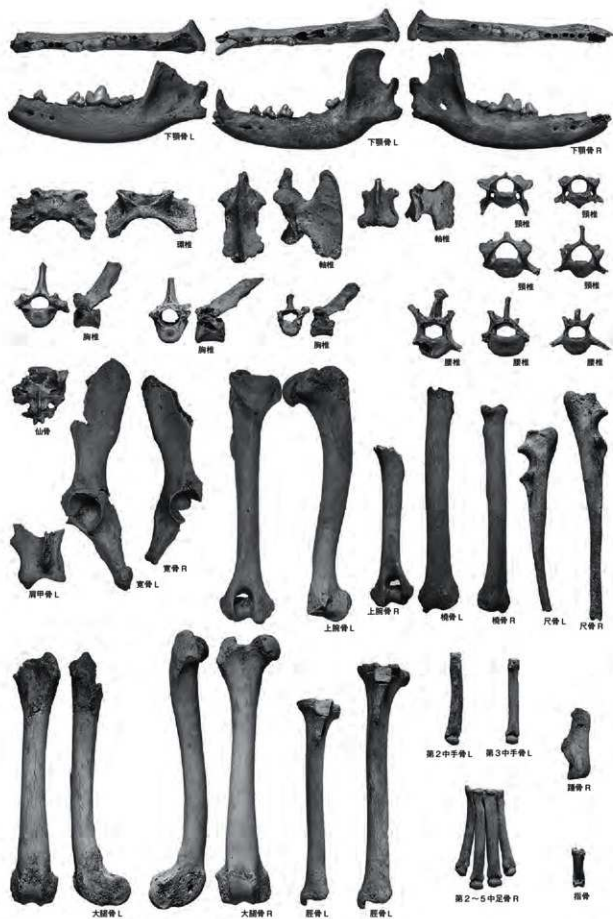
写真図版135 動物遺存体 (9)



〈イヌ〉(S=1/2)



写真図版136 動物遺存体 (10)

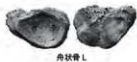


写真図版137 動物遺存体 (11)

《ヒト》(S=1/2)



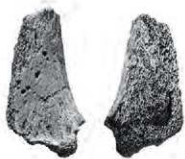
胸椎



肩胛骨 L



第4中足骨 L



大腿骨



上腕L小臼歯 P2 (S=1/1)

上腕R乳臼歯 dm2 (S=1/1)



上腕L大臼歯 M1 (S=1/1)



X線画像



上腕骨 R



上面観



側面観



側面観

《ウマ》(S=1/2)



上腕R前臼歯 P2

写真図版138 動物遺存体 (12)

報告書抄録

ふりがな	はせどうかいづかはくつちょうさほうこくしょ							
書名	長谷堂貝塚発掘調査報告書							
副書名	市道線石線他2路線改良工事関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第719集							
編著者名	高本 晃							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2020年3月13日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
長谷堂貝塚 <small>長谷堂貝塚 岩手県大船渡市 市藤川町字長谷堂地内</small>	032034	LF20-2223	39度 05分 37秒	141度 43分 15秒	2016.06.09 ～ 2016.12.16	950	市道線石線他2路線道路改良事業	
					2017.06.01 ～ 2017.12.14			800
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長谷堂貝塚	集落跡	縄文中期 ～ 晩期	堅穴住居跡 30棟 炉跡・焼土遺構 15基 掘立柱建物跡群 104基 土坑 104基 配石遺構 9基 埋設土器 3基 貝層 12箇所 遺物包含層 柱穴状小土坑 345個	縄文土器 土製品 石器・石製品 骨角器 動物遺存体	調査区南端を除き、縄文時代中期後葉を主体とする時期の遺構群と遺物包含層分布。掘立柱建物跡群、特殊な配石遺構群検出。人面付軽石製品の出土。2箇所貝層集中区域、イヌ集骨の確認。			
		平安 ～ 中世		土師器 須恵器 常滑産陶器				
		近世 ～ 近代	堅穴状遺構 1基 掘立柱建物跡群 1基 土坑 3基 配石遺構 3基 溝跡 2条	陶磁器 動物遺存体				
要約	長谷堂貝塚は盛川東岸に立地し、これまで15回以上わたる発掘調査によって、主に縄文中期から晩期の拠点的な集落跡と見なされている。今回の調査区には縄文中期後葉を主体とした時期の遺構群、濃密な遺物包含層と貝層集中域が含まれ、各種遺物が出土している。過去の調査区と総合し、中央広場を囲んで、掘立柱建物跡、堅穴住居跡、遺物包含層と貝層、という順で環状に配置された集落構成が明らかとなった。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第719集

長谷堂貝塚発掘調査報告書

市道猿石線他2路線改良工事関連遺跡発掘調査

印刷 令和2年3月10日

発行 令和2年3月13日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発行 大船渡市

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字津野沢15番地

電話 (0192) 27-3111

(公財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印刷 川口印刷工業株式会社

〒020-0841 岩手県盛岡市羽場10-1-2

電話 (019) 632-2211